

平成19年度障害者保健福祉推進事業  
行動援護従業者養成研修演習プログラム  
開発事業報告書

# 平成19年度障害者保健福祉推進事業 行動援護従業者養成研修演習プログラム 開発事業報告書

はじめに

のぞみの園理事長 遠藤 浩

## 1章 各都道府県研修で活用する研修グッズ

### 1 中央セミナー演習プログラム マニュアル パワーポイントによる配布

1日目 戸枝 陽基氏 山口 久美氏 水野 敦之氏

2日目 安井 愛美氏

3日目 出口 晋氏

補助マニュアルとしてDVDの添付

### 2 研修効果のチェックシート 回答付き

## はじめに

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園は、平成18年度から厚生労働省の「障害者自立支援調査研究プロジェクト」補助金を受けて、行動援護のサービスの普及、サービスの水準の確保、また、サービス従業者の確保に取り組んでいます。

平成18年度は、まず、「第1回行動援護従業者養成中央セミナー」を平成18年7月に開催しました。都道府県単位で実施する行動援護従業者養成研修会（以下「都道府県の養成研修会」と略します。）の講師を養成するための中央研修会という位置づけであり、厚生労働省の後援を得て3日間の日程で開催しました。

この中央セミナーの講師陣を中心に編集委員会を編成し、上記補助金事業として、行動援護を学ぶための基礎的な理論と知識、実際にサービス提供をする場合の援助技術や留意点などについて体系的にまとめた「行動援護従業者養成研修テキスト」を作成しました。併せて、演習用教材として、障害のある人の成長の記録と行動援護の支援の事例を収録したDVDを作成しました。

これらの教材は、都道府県の養成研修会で活用されているところです。

平成19年度は、上記補助金事業として「行動援護従業者養成研修演習プログラムの開発事業」に取り組みました。

まず、平成19年7月に「第2回行動援護従業者養成中央セミナー」を3日間の日程で開催し、第1回中央セミナーにおける演習の状況を踏まえて、参加者の行動援護に関するスキルの向上に確実につながるように工夫した演習プログラムを作成し、実践しました。

第2回中央セミナー終了後、この演習プログラムの有効性の検証を行うとともに、都道府県の養成研修会の実施状況の把握とその研修内容の評価などを行うことにより、中央セミナーの受講者が都道府県の養成研修会においてわかりやすく、かつ、効果的に演習の指導ができるように、演習プログラムの再構築を試みました。

さらに、本年3月に開催した「第3回行動援護従業者養成中央セミナー」において、再構築した演習プログラムを実践することによりその有効性をあらためて検証し、ようやく平成19年度事業の主たる成果物とされる演習プログラムとその指導マニュアルを完成することができました。

併せて、都道府県の養成研修会の参加者一人ひとりについて、このプログラムを用いた演習の効果を測定するために、具体的な評価項目を整理したチェックシートを作成しました。

また、演習プログラムの開発の参考とするために、都道府県の養成研修会の実施状況に関する調査、行動援護従業者の意識や支援技術を把握するためのアンケート調査などを行いましたが、これらの集計、分析を行うとともに、その結果を踏まえ、行動援護の普遍化に向けた課題の整理を行いました。

このように、平成19年度の補助金事業として、演習プログラムの開発、演習の効果測定のためのチェックシートの作成、さらに、関連調査の実施とその結果を踏まえての課題整理に取り組みましたので、これらの成果を平成19年度報告書として取りまとめました。

障害のある人たちの支援に関わる方々がこの報告書をご活用いただくことにより、行動援護についての理解が深まり、また、行動援護のサービスの一層の普及とサービスの質の向上が図られることを期待しています。

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

理事長 遠藤 浩

# 1 章

## 各都道府県研修で活用する 研修グッズ

- 1 中央セミナー演習プログラム マニュアル  
パワーポイントによる配布
- 2 研修効果のチェックシート 回答付き

# 1日目 午前

## 行動援護の基本

行動援護を理解する  
～制度の成り立ちと支援の実際～

戸枝 陽基 (とえだ ひろもと)  
NPO 法人ふわり 理事長  
社会福祉法人むそう 理事長

# 行動援護創設の背景と理念

## 地域福祉を定義する

### 障害の3つのレベル

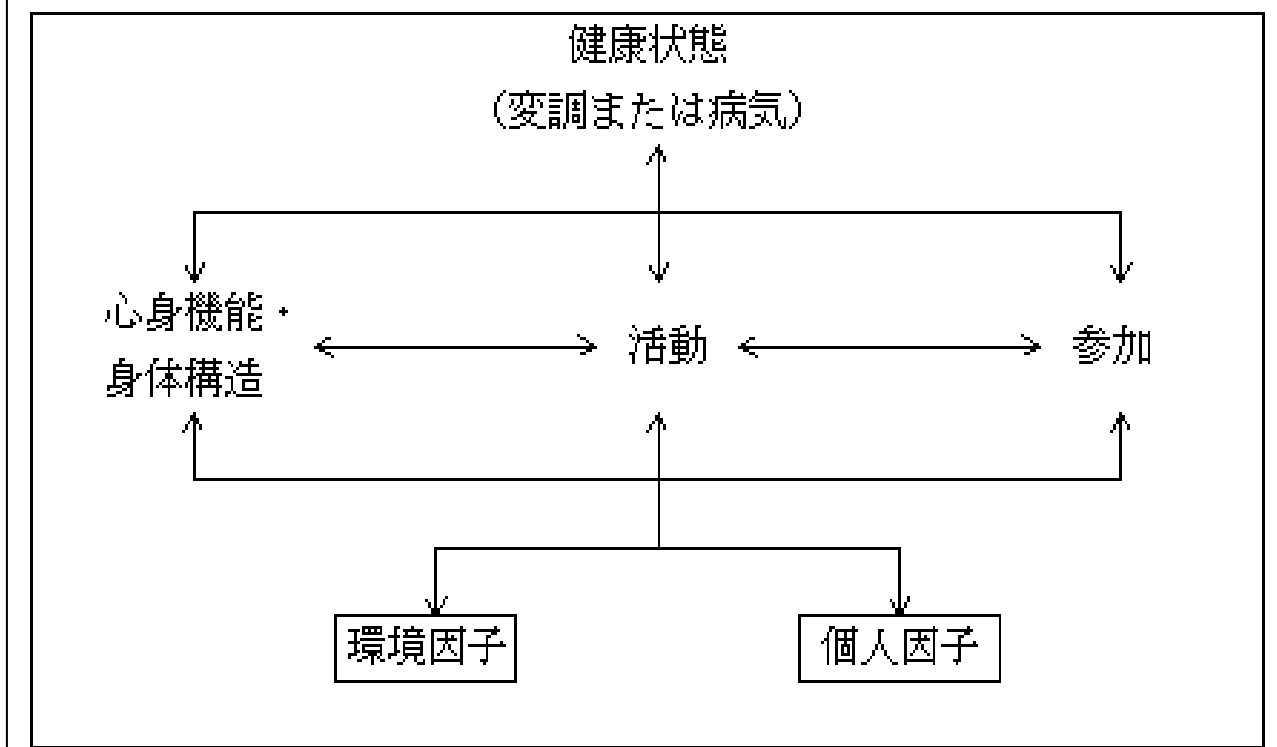
	①機能・形態障害 生物学的レベル	②能力不全 個人・日常生活レベル	③社会的不利 社会的レベル
脳性 マヒ	手足の運動機能障害 の結果	歩行や食事などの日常 生活動作の能力が低い	電車に乗れない、就職 できない、独立生活で できない、
知的 障害	知的機能の障害の結果	コミュニケーション力 や想像する力、社会性 などが弱い	就職が少なく、自立生 活が困難
近 視	視覚機能の障害の結果	読み書き、移動など の能力が低い	メガネがあるので、社 会的不利を受けない

**障害は治らないが、②能力不全③社会的不利はなくすることができる！**

**「できない」ことがあっても「困らない」環境整備こそが社会の責任！**

**メンタルなケアが必要な人にとって最大の環境は人！**

## ICFの構成要素間の相互作用



## ノーマライゼーションの理念

- 障害者の住居, 教育, 労働, 余暇などの生活の条件を, 可能な限り障害のない人の生活条件と同じにする(=ノーマルにすること)。
- ①1日のノーマルなリズム②1週間のノーマルなリズム③1年間のノーマルなリズム④ライフサイクルを通じてノーマルな発達のための経験をする機会を持つこと⑤願望や自己決定の表現に対してノーマルな尊厳が払われること⑥男女両性の世界で暮らすこと⑦他の市民と同じノーマルな経済水準が保障されること⑧ノーマルな環境水準が保障されること(両親や職員の環境水準もノーマルであること)

ベングト・ニリエ Bengt Nirie スウェーデン



## 施設・在宅・地域を定義する

- 施設支援は 大きな人数 他人に支援
- 在宅支援は 小さな人数 家族に支援
- 地域支援は 小さな人数 他人に支援

大規模処遇はノーマライゼーションの理念に沿わないため批判されている。

在宅支援は、家族という介護力を前提とし、それが損なわれた場合にその生活は終わってしまう。また、家族のノーマライゼーションが損なわれる。

介護保険制度でも在宅支援と同量の家族介護が行われている。

日本も地域支援を！家族介護から個別支援へ！

## メンタルなケアのアウトドア型

<p>フィジカルなケア (身体介護)</p>	<p>メンタルなケアが必要な人が 過刺激 イレギュラー要素の多い</p>
<p>イン・ドアのケア (室内空間)</p>	<p>アウト・ドアの介護を受ける 行動援護の 必要性と困難さ</p>

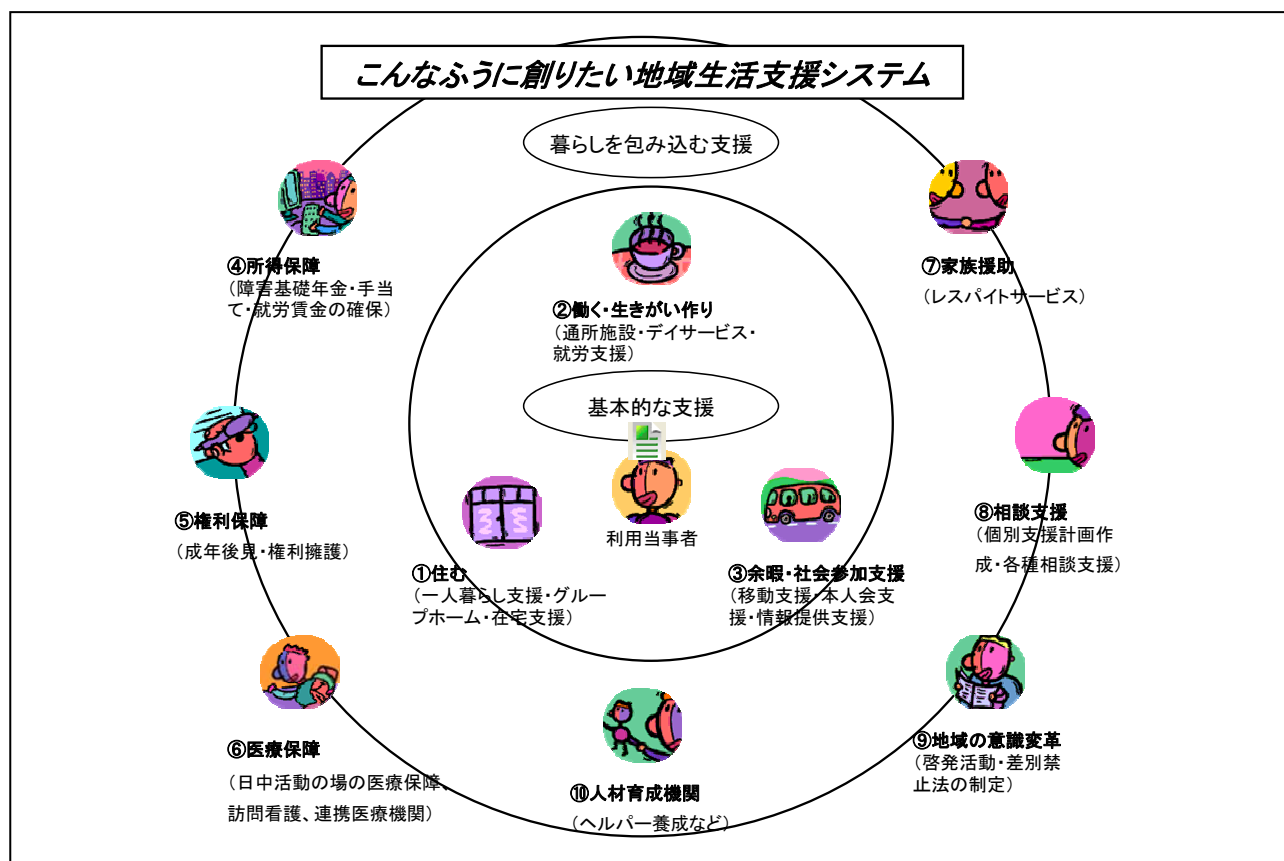
介護保険の介護の必要度のタイムスタディなどもイン・ドアで行っている

メンタルなケアが必要な人は、イン・ドアとアウト・ドアでは、介護度が変わる

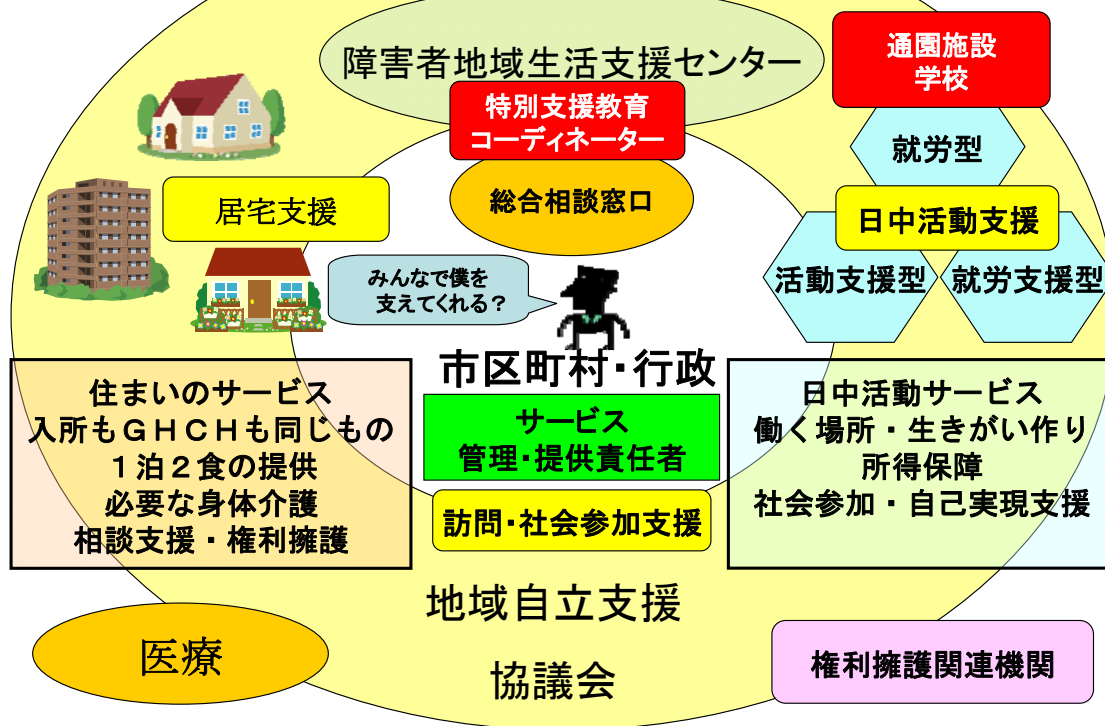
「段取り・見守り・危機回避」という「介護」を提案したものが「行動援護」

## 地域支援のための10個の条件

- 地域支援システムで個別支援を24時間365日親なき後も組み立てる
- そのための必須条件は10個のパーツからなる
- 行動援護は、その中の主に③余暇・社会参加支援に位置づけられる
- 行動援護の利用内容は、残る9個のパーツとの相関関係を意識する必要がある



## サービス計画で地域協働型福祉が動く！



## 地域自立支援協議会

### 【概要】

市町村が、相談支援事業をはじめとするシステムづくりに関し、中核的役割を果たす協議の場として設置する。〔交付税〕

### 【実施主体】

市町村（複数市町村による共同実施可）

### 【構成メンバー】

相談支援事業者、福祉サービス事業者、保健・医療、学校、企業、高齢者介護等の関係機関、障害当事者団体、権利擁護関係者、地域ケアに関する学識経験者等

### 【主な機能】

- ・福祉サービス利用に係る相談支援事業の中立・公平性の確保（事業評価）
- ・**困難事例への対応のあり方に関する協議、調整**
- ・**地域の関係機関によるネットワーク構築等に向けた協議**
- ・その他（市町村障害福祉計画の作成・具体化に向けた協議など）

### 【地域の実情に応じた運営】

権利擁護等の分野別サブ協議会を設置するなど、地域の実情に応じた多様なかたちで実施可能。行動援護のネットワーク構築のサブ協議会なども設置可能。

## 行動援護の制度を理解する

### 具体的なサービスの理解と 対象者・判定基準の理解

#### 「行動援護とは」

- 知的障害又は精神障害により行動上著しい困難を有する障害者等であって、常時介護を要するものにつき、当該障害者等が行動する際に生じ得る危険を回避するために必要な援護、外出時における移動中の介護その他の厚生労働省令で定める便宜を供与することをいう。（自立支援法第5条4）

※支援費制度において、平成17年4月より、知的障害者・児を対象に実施。

## 行動援護のサービス内容

### 3 行動援護について

#### (1) サービス内容

行動援護が中心であるサービスは、**知的障害又は精神障害により**行動上著しい困難がある者に対して、外出時および外出の前後に、次のようなサービスを行うものである。

なお、事前に利用者の行動特徴、日常生活パターン等について情報収集し、援護に必要なコミュニケーションツールを用意するなど準備する必要がある

#### ① 予防的対応

ア 初めての場所で何が起こるか分からない等のため、不安定になったり、不安を紛らわすために不適切な行動がでないよう、あらかじめ目的地、道順、目的地での行動などを、言葉以外のコミュニケーション手段も用いて説明し、落ち着いた行動がとれるように理解させること

イ 視覚、聴覚等に与える影響が問題行動の引き金となる場合に、本人の視界に入らないよう工夫するなど、どんな条件のときに問題行動が起こるかを熟知した上での予防的対応等を行うことなど

#### ② 制御的対応

ア 何らかの原因で本人が問題行動を起こしてしまった時に本人や周囲の人の安全を確保しつつ問題行動を適切におさめること

イ 危険であることを認識できないために車道に突然飛び出してしまうといった不適切な行動、自傷行為を適切におさめること

ウ 本人の意志や思いこみにより、突然動かなくなったり、特定のもの(例えば自動車、看板、異性等)に強いこだわりを示すなど極端な行動を引き起こす際の対応

#### ③ 身体介護的対応

ア 便意の認識が出来ない者の介助や排便後の後始末等の対応

イ 外出中に食事をとる場合の食事介助

ウ 外出前後に行われる衣服の着脱介助など

「指定障害福祉サービス等に要する費用の額の算定に関する基準の制定に伴う留意事項について」  
(平成18年4月3日障発第0403003号部長通知(抄))

## 行動援護対象者

- 区分3以上で、12の認定調査項目を点数換算し、12項目24点満点中10点以上

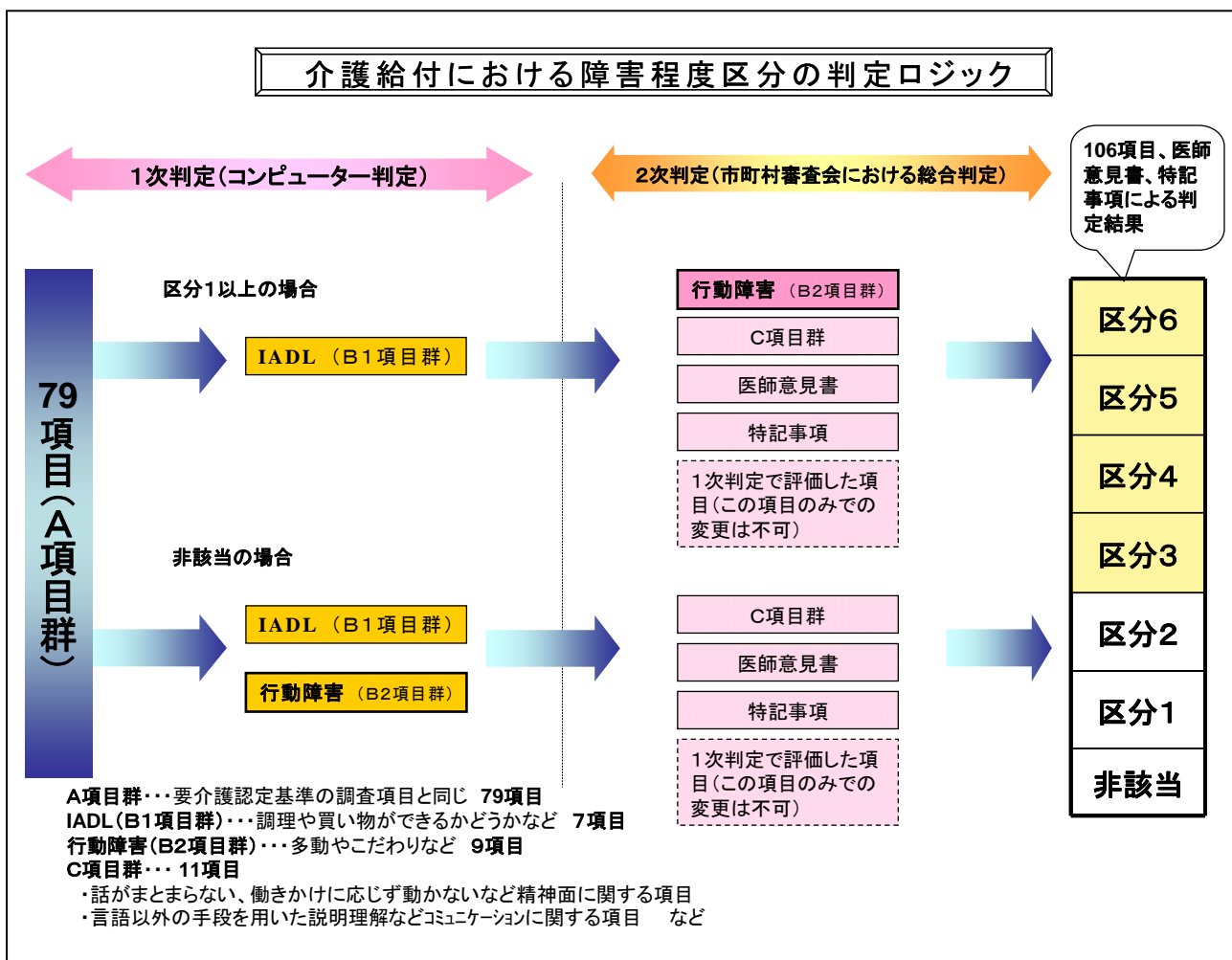
- 本人独自の表現方法を用いた意思表示(6-3-イ)
- 言葉以外の手段を用いた説明理解(6-4-イ)
- 食べられないものを口に入れる(7-ツ)
- 多動又は行動の停止(7-ナ)
- パニックや不安定な行動(7-ニ)
- 自分の体を叩いたり気づけるなどの行為(7-ヌ)
- 叩いたり蹴ったり器物を壊したりなどの行為(7-ネ)
- 他人に抱きついたり、断りもなくものをもって来る(7-ノ)
- 環境の変化により突発的に通常と違う声を出す(7-ハ)
- 突然走っていなくなるような突発的行動(7-ヒ)
- 過食・反すうなどの食事に関する行動(7-フ)
- てんかん発作

## 行動援護判定基準と認定調査項目

調査項目等	0点		1点	2点	
本人独自の表現方法を用いた意思表示(6-3-イ)	意思表示できる		時々、独自の 方法	常に独自 の方法	意思表示 できない
言葉以外の手段を用いた説明理解(6-4-イ)	説明を理解できる		時々、言葉以外 の方法	常に言葉以 外の方法	説明を理 解できない
食べられないものを口に入れる(7-ツ)	ない	時々ある	ある(週1回以上)	毎日	
多動又は行動の停止(7-ナ)	ない	希にある 月に1 回以上	週に1回以上	ほぼ毎日	
パニックや不安定な行動(7-ニ)	ない	希にある 月に1 回以上	週に1回以上	ほぼ毎日	
自分の体を叩いたり傷つけるなどの行為(7-ヌ)	ない	希にある 月に1 回以上	週に1回以上	ほぼ毎日	
叩いたり蹴ったり器物を壊したりなどの行為(7-ネ)	ない	希にある 月に1 回以上	週に1回以上	ほぼ毎日	
他人に抱きついたり、断りもなくものをもってくる(7-ノ)	ない	希にある 月に1 回以上	週に1回以上	ほぼ毎日	
環境の変化により突発的に通常と違う声を出す(7-ハ)	ない	希にある 週に1 回以上	日に1回以上	日に頻回	
突然走っていなくなるような突発的行動(7-ヒ)	ない	希にある 週に1 回以上	日に1回以上	日に頻回	
過食・反すうなどの食事に関する行動(7-フ)	ない	希にある 月に1 回以上	週に1回以上	ほぼ毎日	
てんかん発作(医師意見書)	年1回以上 換算せず		月1回以上	週1回以上	

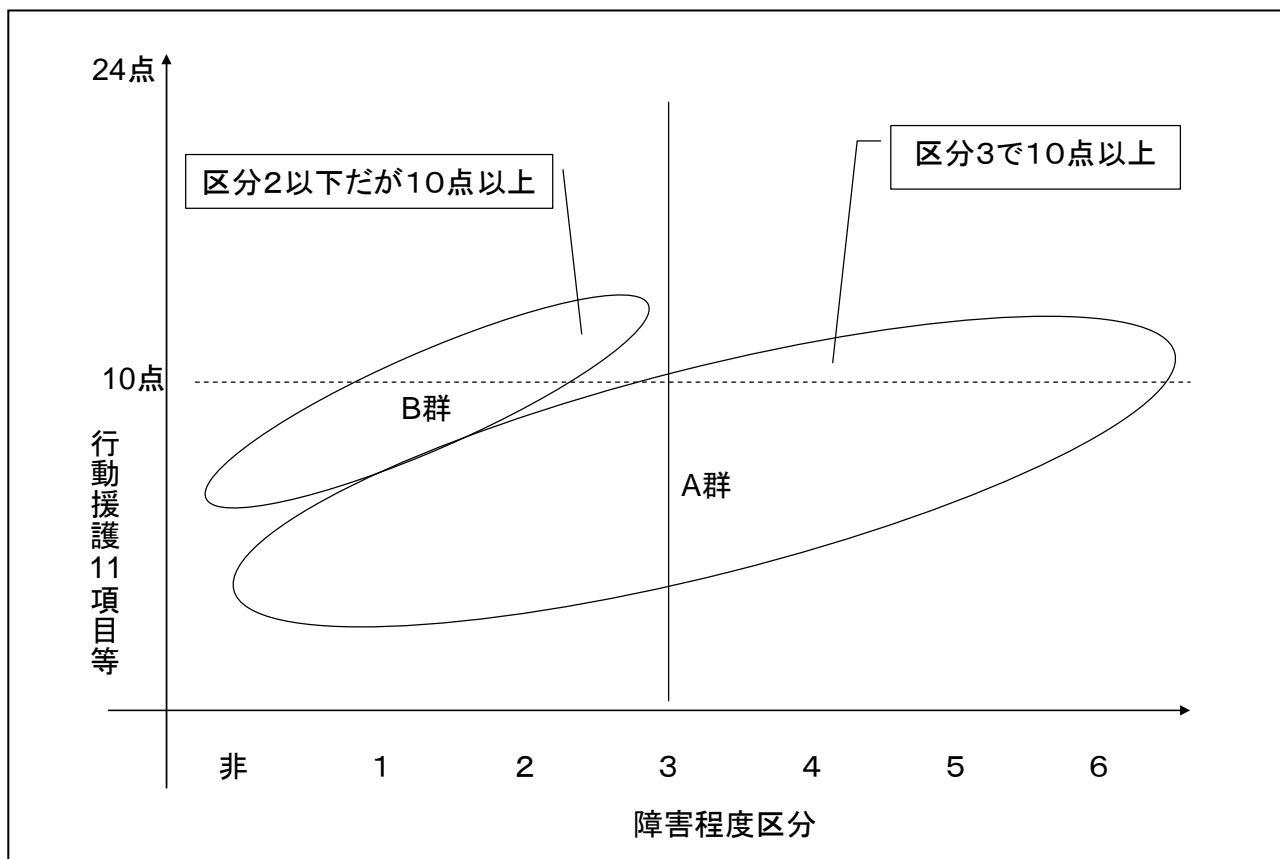
# 行動援護の制度的課題

必要な人へ必要な支援を必要な時に

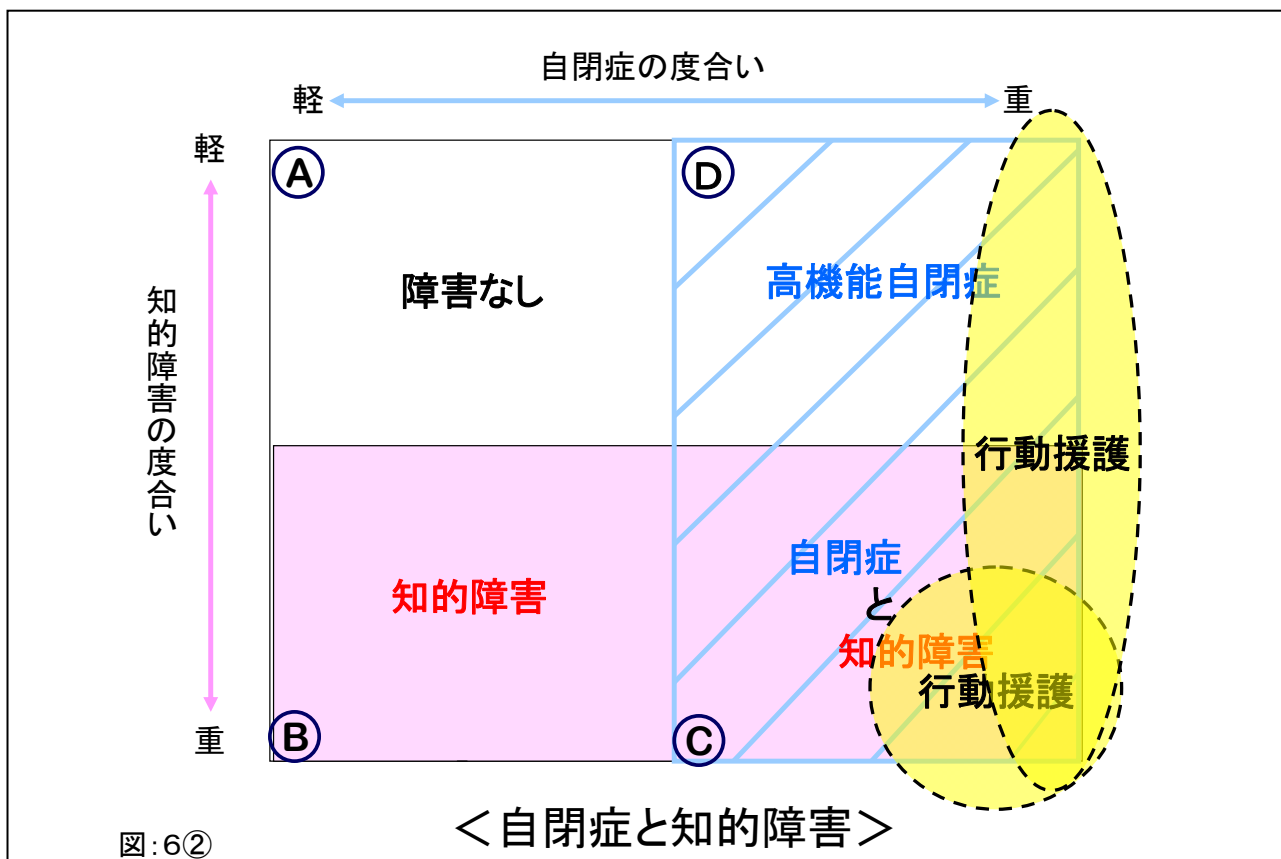
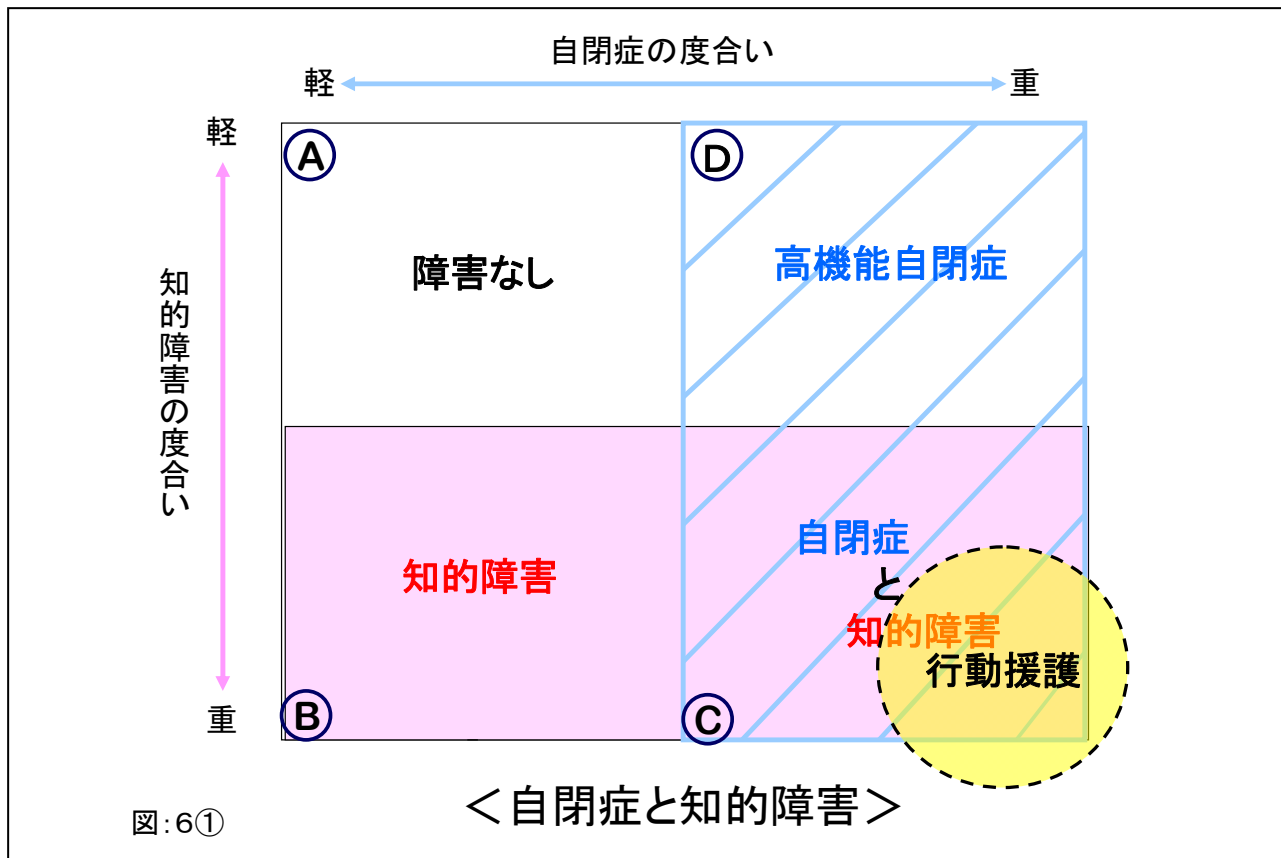


## 「行動援護」判定基準のパラドックス

- 高機能自閉症や特定の判定基準での行動に強い危機回避や見守りが必要な人が判定でもれる。
- 「行動援護について(案)」段階の注記の意味
  - 「基準表の判断基準は、支援が行われていない場合の外出時における行動を基準に下記によるものとし、原則として6 月程度継続している場合とする」
- 障害程度区分の認定調査において「サービス利用以前の状態」ないし「利用者とサービス提供者の関係が未だ非常に不安定な状態」が想定されておらず、特記事項もほぼ空 状態のままの場合、行動援護の必要性が反映されなくなる。



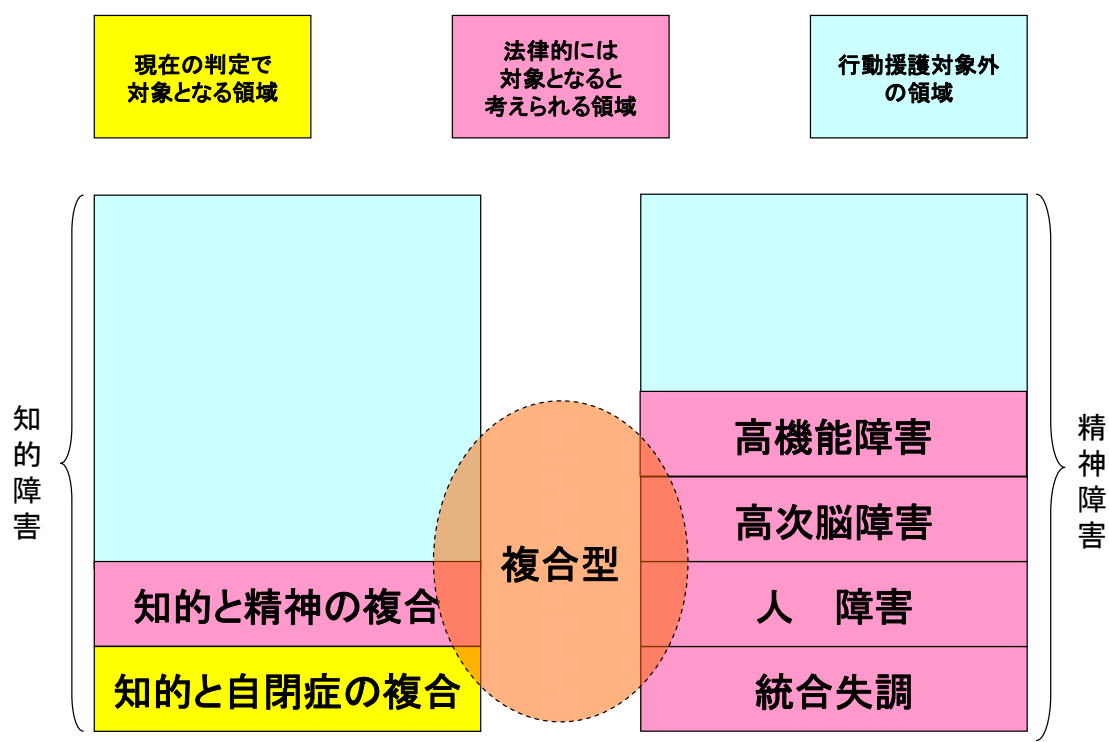




## 行動援護判定基準見直しの必要性

- 知的障害者および精神障害者を対象としている行動援護
- ↓
- 現行の判定基準はいわゆる「行動障害」に
- ↓
- 精神障害者の支援特性を反映した基準づくり

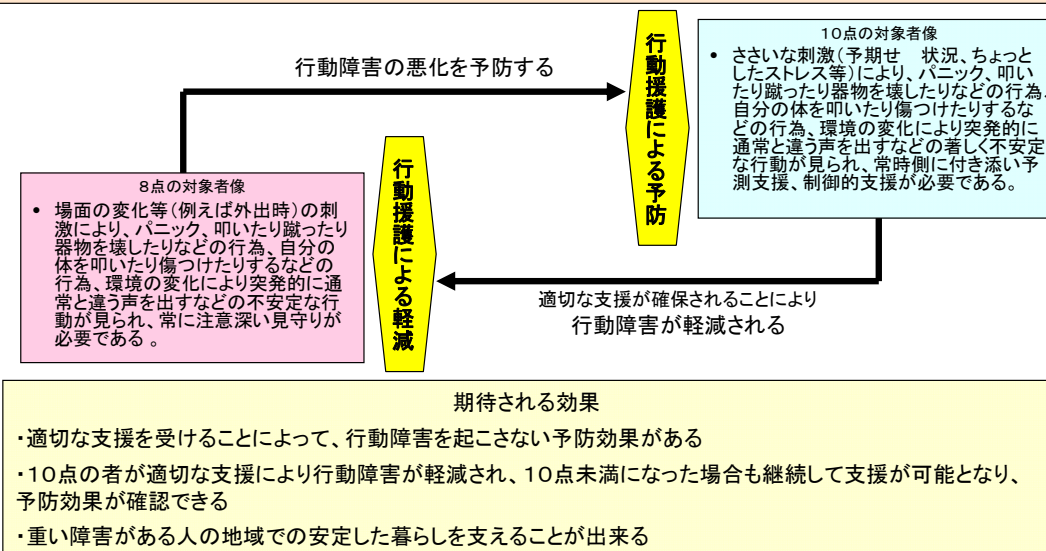
## 行動援護対象者になる可能性のある領域とその整理



## 行動援護の支援対象者の見直し(予防的 置)

**目的:** 行動援護制度創設時には、強度行動障害のある者への支援をイメージし、支援対象者を認定調査項目の積み上げ点数10点以上としていたところであるが、行動援護の支援により10点以下となり支援を受けられなくなる者及び強度行動障害手前の者で行動援護の支援があることによって2次障害(強度行動障害)を防止することが可能な者も行動援護の支援対象者とし、強度行動障害とならないための予防的 置の実施を目的とする。

**内容:** 認定調査項目の点数を10点以上から8点以上に引き下げる。



## 精神障害者の行動援護

行動援護従業者養成テキスト編集 員会・ 原 員(全家連政策 員)の提起から

### これまでの行動援護に関する提起のポイント

- 行動にはその人なりの根拠・理由がある。
- アセスメントがきわめて重要である。
- 困惑・混乱が時間差を置いて発生することがある
- 目指すところは地域生活の支援である。
- いずれも精神障害者に対する支援との共通項であるが、とりわけ「見立て」の必要性に留意する必要がある。

## 「見立て」の必要性について

- 若年発症のため実生活の経験が不足しているために困っているのか。
- 現在でも能力は保持しているが、状態の不安定さの影響や不安によって、一時的（表面的）に困っているのか。
- 年齢に見合った能力を持っていたが発症後、徐々に能力が減退して困っているのか。
  - 援護内容を含めた期間を勘案しないと、サービス提供によって、事例によっては結果的に本人の能力を低下させてしまうことがあることに十分留意する必要がある、支援計画をどのように策定するかが重要。

## 行動援護は段取り 8 分

きちんとした個別支援計画から始めよう

### 個別支援計画全体の中の行動援護

- 行動援護のサービス提供にあたり、個別支援計画を作成する
- これは、支援対象者の生活全般の中での行動援護の位置づけを明確にする作業といえる
- 支援対象者の1週間、1 月、1年をきちんと把握した上で、その日支援する数時間の過ごし方を考えるべきである

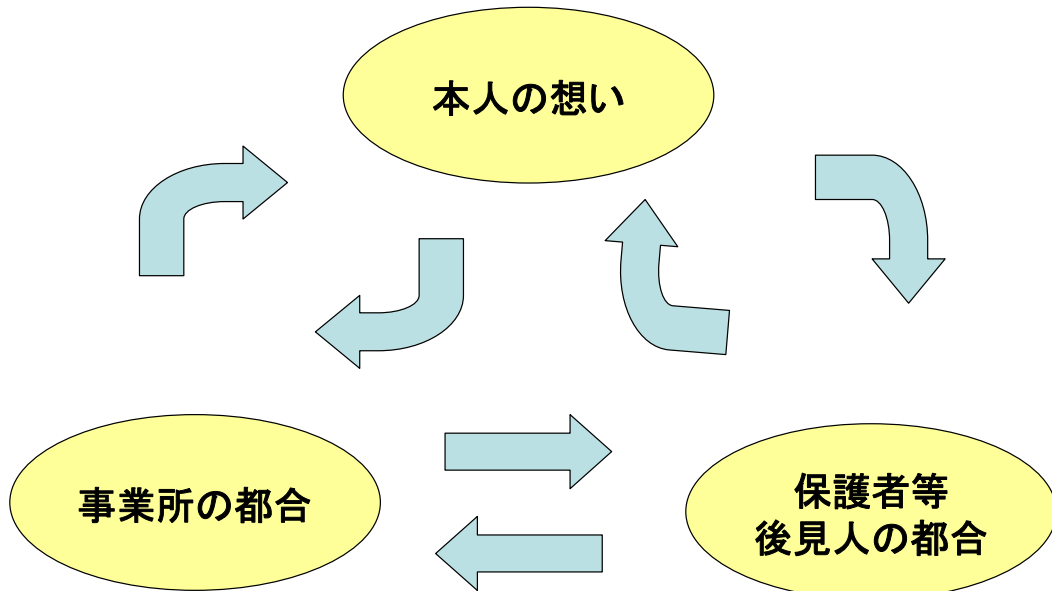
## ケアプラン全体の中の行動援護

	朝	昼	
月	ケア ホ ム	生活介護	ケア ホ ム
火		生活介護	
水		生活介護	
木		生活介護	
金		生活介護	
土		行動援護	
日		H・H(家事援助等)	

## アセスメントをし、個別支援計画を立てる場合に重要な視点

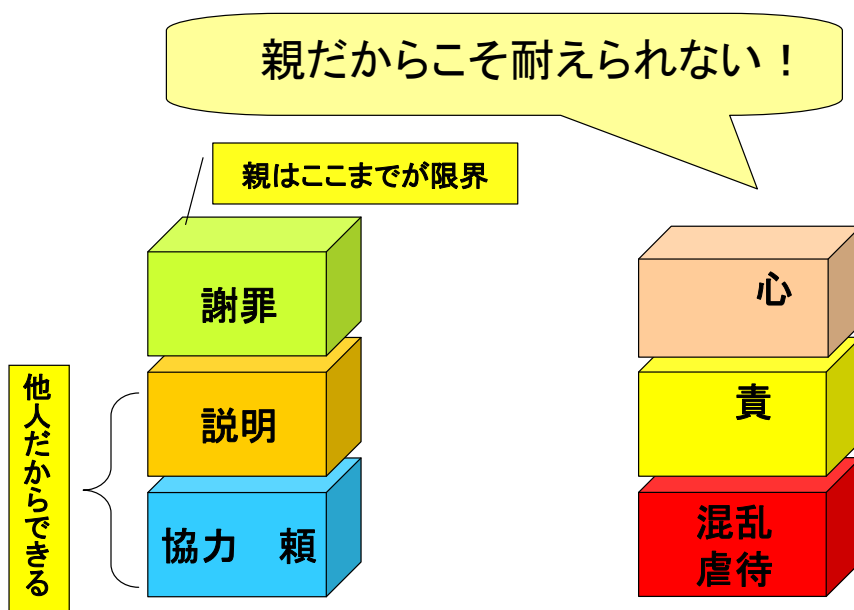
- 本人主体であること
- 家族の責任で行う部分、社会的支援が必要な場면을きちんと整理してあること
- 支援対象者が持つ3つの年齢に適切に配慮されたものであること

# 本人主体のサービス利用とは



©とえだ ひろもと 2006

## なぜ、家族がいるのに他人が支援するのか？



一人への説明を10人が聞いている

## 障害のある方の3つの年齢

ダウン症で 実年齢30歳 20(約3歳半の知的発達) 体年齢は45歳相当

精神年齢  
=  
課題設定  
説明配慮

実年齢  
=  
社会体験  
人 尊重

体年齢  
=  
休 支援  
運動量

引きこもり統合失調症 実年齢20歳 小3から引きこもり 体力減退・服薬あり

精神年齢  
=  
課題設定  
説明配慮

実年齢  
=  
社会体験  
人 尊重

体年齢  
=  
休 支援  
運動量

0歳

20歳

40歳

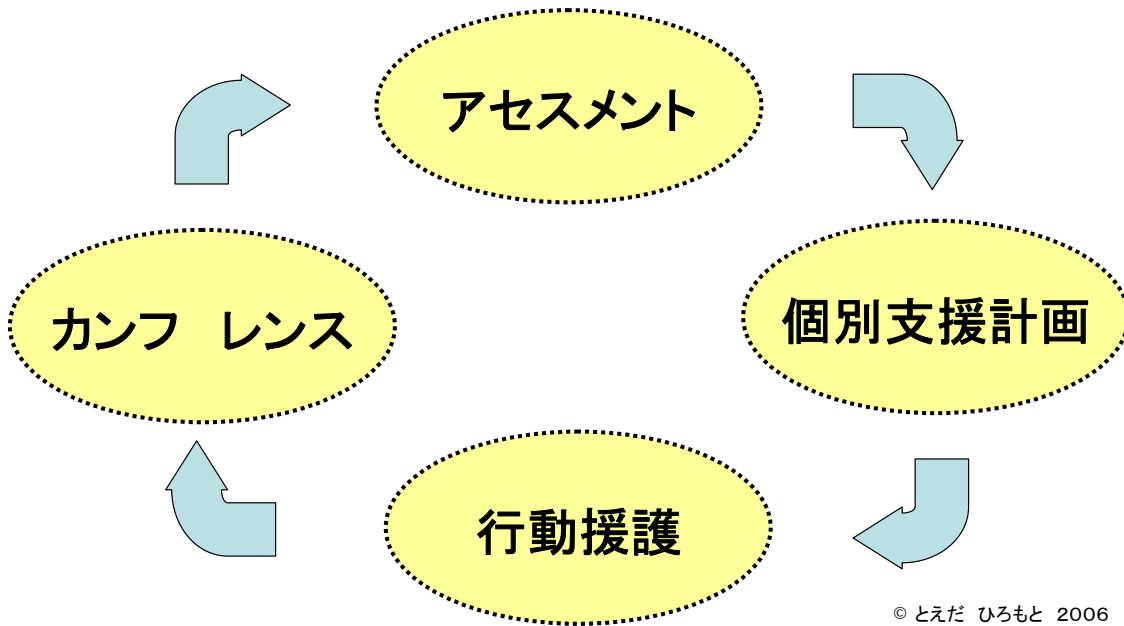
©とえだ ひろもと 2006

## 行動援護を行う流れ

- アセスメント(事前評価)を出発点に、個別支援計画の作成、行動援護の実施、カンファレンス(事例検討)という流れが 環的にあることが大切
- 行動援護の目的は指導訓練ではない。本人主体の理念を軸としたエンパワメントの視点と行動に障害が起こるのは環境整備が不足しているためであると考え視点が大切



# 行動援護におけるアプローチの 環図



© とえだ ひろもと 2006

## 個別支援計画(ライフプラン)

契約者氏名 知多 太郎 印

## アセスメント

### 現状把握

好きなこと	嫌いなこと	困っていること	健康状態	やりたいこと
永遠び(放っておくとまわりをびしょびしょにするので注意)、音楽を聴くこと(静かな音楽が好き)、やわらかいものの肌触り(ぬいぐるみなど)、時間を待たず時は、ジグソーパズルをしてしていると落ち着ける。	しつこく聞かれると嫌がる、赤ん坊など子どもの声(高音域のきんきん声)が苦手(赤ちゃんが泣いていると口をふさぎに行くので注意が必要)、マヨネーズはスメリが臭いらしく食事に出すだけでパニックになるので出さない。	前れが強まるとてんかんの発作起こりやすくなり、体調も悪しやす。思春期以降発作が頻繁になった。	血圧が高い、よく下痢をする。こだわりから食欲にムラがあり体重の増減が激しいので、食べないときは好きなものの中心のメニューに切り替える。	旅行に友人と出かけられるようになってほしい。(少人数でゆっくりと)・自分ひとりで過ごすときに過ごし方をジグソーパズル以外にも見つけたい。

### ライフプラン

0歳時	4歳時	6歳時	12歳時	15歳時	18歳時
出生から保育園まで1ヶ月に何回もてんかん発作があり入院を繰り返す。	療育から小学部までてんかん発作が落ち着かず、入院へ入院することが多かった。	10歳で大きくなるとてんかん発作。以来服薬。服薬後は落ち着きててんかん発作は1年に1~2回、少し体が強くなる。	食物アレルギーがひどく、食事に様々な配慮が必要となる。	思春期で不安定になり、夕方に帰って来てからパニックを起こすことが多かった。学校で新マラソンをするようになって、少し落ち着いた。	就職は既婚だったのでも、通所授産施設を選んだ。仕事という意識はあり、しっかりやっている。仕事に慣れるにつれ、パニックも減少。

### 今後の希望

今は元気で落ち着いているが、いつまた、てんかん発作やパニックが頻発するかわからないという心配がある。今の状態をきちんと維持できるように、支援をしている人達が見通しをきちんと持って、支援をして欲しい。大人として、普通の人が経験することは、いろいろチャレンジして欲しい。

### 自立に向けて

暮らし	成年後見・権利擁護	医療	親亡き後	その他
21歳で入ったグループホームの生活が、やっと慣れてきたように思う。この調子で、皆と仲良く暮らし、自分のできることを増やしたい。	必要を感じているが、まだまだ〇〇成年後見センターに後見を依頼するまでの臨ん切りが着かない。さらに学習したい。	医者や今までのカルテの整理をしている。グループホームの側の〇〇医院にカルテを移したい。	グループホーム、ホームヘルプを組み合わせて、使っていきたい。年金、預金をしっかり貯めていきたい。	楽観の過ごし方、グループホーム、余暇(ホームヘルプ)のそれぞれの支援者に慣れ、パニックも減少、状態が落ち着いてきた。親亡き後を考え、本人の介助マニュアルの作成などをしっかりやって行きたい。

文責: 末口 敬子

居宅介護計画書（ホームヘルプサービス）

制作日 平成 年 月 日

社会福祉法人 むそう  
生活支援部あっと  
管理室 木口 聡子  
印

契約者氏名 知多 太郎

個別支援計画

支給量	支給期間	平成 年 月 日	～	平成 年 月 日
身体介護中心	むそう分	75	時間/月	全
家事援助中心	むそう分	時間/月	全	75 時間/月
移動介護中心	むそう分	時間/月	全	10 時間/月
移動介護中心	むそう分	時間/月	全	30 時間/月
行動援護	むそう分	30	時間/月	全


	現状	ヘルパーの援助内容	援助の視点	その他
暮らす	グループホームで生活をしている。日常生活動作すべてにおいて、見守り・介助が必要である。	朝介助 1h×30日 (起床時・洗髪・整髪・着脱・更衣・トイレ・食事) 夕介助 1h×30日 (トイレ・食事・就寝) 入浴介助 30分×3 0日=15h 入浴時の発作に注意	質的コミュニケーションだけでは混乱するため、ジェスチャーや表情、絵、写真等を使い、生活の流れを伝えていく。	休日は、体調を整えるため、ゆとりのある支援になるように配慮をする。
楽しむ	ひとりで自由時間を過ごすように、興味を持つものを探すため、体験学習的なイベントなどを中心に参加。	移動介護+ (髪を切るなど)2h 〇〇事業所利用 (外出・行動援護)6 h	休日は、しっかりと休養を取り、仕事とのバランスを考慮しながら、短時間での外出などから、本人の余暇の充実をはかる。	このところ、発作は落ち着いている。
移行の視点	自由時間にパニックになることが、まだある。ひとりで楽しめることの幅を広げたい。	行動援護の時の本人の表情を細かく観察、記録すること。	自由時間の過ごし方で、行動援護で興味を持った感じを受けたものが見つかった場合は、それをグループホームでもやってみよう。	コミュニケーション手段が写真が代わりか、ピクトグラムがいいのか今ひとつはっきりしない。両方を使いながら支援をし、観察する。
連携	てんかん発作を抱えているため、医療スタッフとの連携を密にし、日中活動の様子、グループホームでの様子を把握する。移動介護で髪を切るなどの支援を〇〇事業所を利用して行なう意向のため、〇〇事業所とその時の様子を引き継ぐための記録表を整備する。			

	現状	得意	援助の視点	その他
必要な支援	体調を安定させる。GHでの生活に本人が慣れるように支援する。	地域の中での交流を深め、本人の体調に合わせ、自由時間の楽しみをみつける。	本人がわかりやすい方法で状況を伝え、また、表情や体の動きより、本人の体調や意図を把握する。	年齢的には、疲れが溜まって、休日に休みたいと思えることもあると思われる。休日の行動援護での外出が希望なものにならないように、常に配慮する。

文責：木口 聡子

行動援護



	名前 性別 男 障害名 自閉症 住所 電話番号 緊急番号
	
【ガイドヘルプ】 よく行く場所: OO公園・OOプール	
好きな場所	公園・プール・水施設
好きな事	(外) 遊具で遊ぶ・散歩・プール・体を使った遊び・川等へ飛びや草を流す・高い場所 (内) テレビ(特に、CM)・ビデオ・ファミコン・ブロック・ごろごろすること
苦手な場所	初めての場所は受け入れるのに時間がかかる。スモールステップで慣れていただく配慮を。
苦手な事	手が汚れることが嫌いです。無断強いずるとパニックあり。
意思表示	O手を引っ張っていき、「ちようだい。」、「やって。」と言って意思を伝える。 ×嫌そうな声を出す。
その他	・アトピー性皮膚炎をもっている…痒いのでお尻とかを掻く時に、肌が出てしまうので見守り。 ・車道で寝たり・飛び出ししたりしてしまう時があるので外出時は事故に合わないよう注意する。 ・危ない場所に行きそうなる時、OO君の体の向きをクンと180度回し、次の行動援助をすると切り替わります。 ～プール～ ウォーターライダーは、一人で滑ると逆走するので危険だから監視員の方から滑るの禁止が出たことがあります。すべる場合は、介助者と一緒の方がいいです。濡ばい濡りも無しです。
【食事介助】	
好きな物	ほとんどの食べ物が好き。
苦手な物	果物・いぼ・あんこが嫌い。
その他	・メニューに写真があれば、OO君は食べたいものを指さして選べます。 ・あっという間に食べ終わる。 ・無制限に食べてしまうので、一人前を事前に皿に取り分ける。 ・おしぼりは言葉で伝えると理解します。
【服装】	
服装	特になし。
【トイレ介助】	
様子	トイレの位置が分かれば、自分で行きます。本人が、トイレと伝えてくれます。外出をし、緊張のため伝えてくれない時があるかもしれないので、その時は定期的に声掛けをするといひです。小は自立、大は、お尻拭きの援助が必要です。
【入浴介助】	
着脱	自立。時々、前後を間違えてしまうので「反対。」と声掛けすれば、なおされます。アトピーがあるので厚着だと蒸かすので、部屋さんは、薄着にしよう心がけられている。
入浴介助	体・頭は自分で洗えるが、しっかりと洗えないので仕上げが必要。
【その他】	
歯磨き	歯は自分で磨けるが、仕上げが必要。
洗濯	ばったりと寝て、朝までぐっすり。アトピーの為、少し薄手の掛け布巾で寝る。

## エンパワメントの視点と環境整備

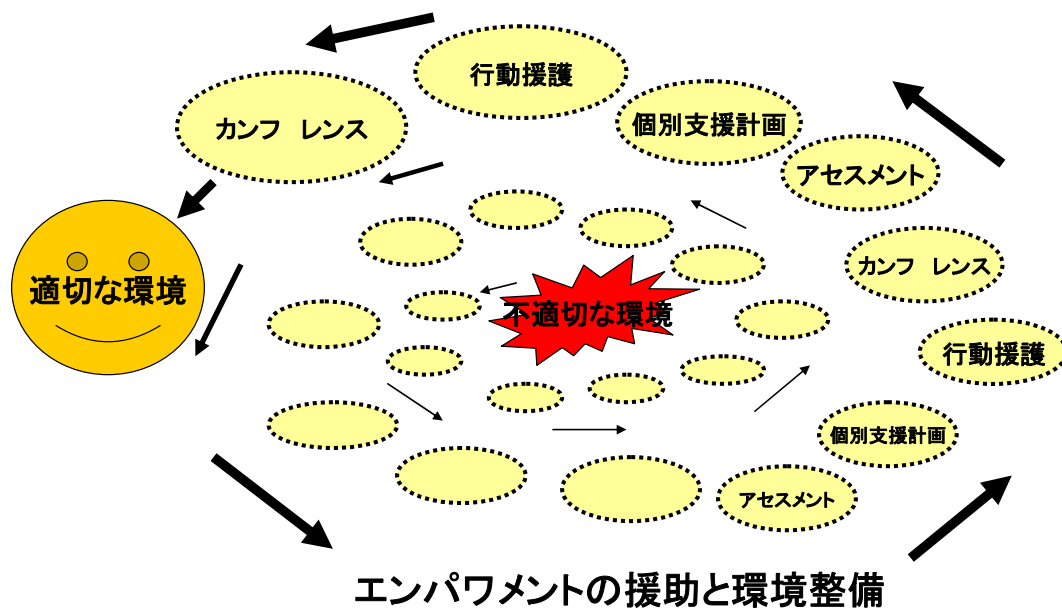
エンパワメントという単語そのものは「能力をつける」「権限を与える」という意味である。

ただし、従来のさまざまな考え方の枠組みが、障害者の「能力」や「権限」を訓練や指導によって後から付加されるものとみなしてきたのに対して、エンパワメントという考え方のもとでは、「障害者には本来ひとりの人間として高い能力が備わっているのであり、問題は社会的に**「圧されていたそれをどのように引き出して開 させるかにある」**と考えるのである。

つまり、社会的な 圧のもとで、人間としての生き方が保障されてこなかった障害者自身に力をつけて自己決定を可能とし、自分自身の人生の主人公になれるようにという観点から、あらゆる社会資 を再検討し、条件整備を行っていこうとするのがエンパワメントという考え方であり、手法である。

久保 造(財)日本障害者リハビリテーション協会発行  
「ノーマライゼーション 障害者の福祉」  
1997年8月号(第17巻 通巻193号)37

# アプローチの 環は環境整備作業



©とえだ ひろもと 2006

# 行動援護の支援技術

## ヘルパーに求められる専門性

### ヘルパーに求められる専門性6項目

- 1) 利用者の精神的安定を混乱させ、結果的に自傷・他害・器物破損等を触発しかねない刺激（音、物や色、臭い、気温、特定の人や異性等）、あるいは環境や予定の変化を事前に把握しており、業務遂行中、常にそうした刺激を感知しつづけ、あるいはスケジュール等を遵守するなどして、いわゆる行動障害を未然に防ぐことができる。
- 2) 結果的に利用者が自傷・他害・器物破損等の行為に至った場合、本人と周囲の人々の安全を確保できるだけの判断力・身体能力・行為を終結させる技術・精神的包容力を有している。
- 3) 利用者が安定した行動を始発する、あるいは現在行っている行動を安定して終了するために必要な助言、誘いかけや音声言語以外の意思疎通方法に関する技術を駆使できる。

## ヘルパーに求められる専門性6項目 (続き)

- 4) てんかん発作と発作時対応の基本的知識・技術を習得した上で、利用者毎の個別の特性と日常生活環境や外出予定先の環境情報等に精通し、それぞれの場面における具体的な発作時対応を準備することができ、発作時には適切に対応できる。
- 5) 地域生活に求められる対人関係のスムーズな遂行という観点から、清潔、身だしなみ、マナー、社会的規範の大切さを利用者の心理的負担にならぬよう伝えることができ、かつその習慣化を図るための個人因子・環境因子の調整ができる。
- 6) 利用者の不安感、自己肯定感の弱さ等に共感的に寄り添って、その訴えを傾聴することができ、かつ利用者の生活リズム・行動予定等を勘案して、心理的負担にならぬように配慮しつつ、対話を終えることができる。

- 1) 利用者の精神的安定を混乱させ、結果的に自傷・他害・器物破損等を触発しかねない刺激（音、物や色、臭い、気温、特定の人や異性等）、あるいは環境や予定の変化を事前に把握しており、業務遂行中、常にそうした刺激を感知しつづけ、あるいはスケジュール等を遵守するなどして、いわゆる行動障害を未然に防ぐことが出来る。

### アセスメント項目

パニックなど不安定行動のトリガー(引きがね)となる刺激の把握  
予定変更の受け入れ度合い、伝達時のコミュニケーション手段 など

### マニュアルの作成

アセスメント項目をまとめたもの(混乱したときの対応の仕方も話し合っておく)  
行動予定表(その利用者にもっとも相応しい手段で作成されたもの) など

### 支援時の留意事項

刺激と利用者との関わりを常に意識し必要に応じて排除する(ポジショニング)  
行動予定表をきちんと把握し利用者に適切に伝達をする など

### ヘルパー・サービス評価の視点

利用者の精神的混乱を来す場面はなかったか、あった場合の対応は適切か、  
当初の利用予定がきちんと守れたか、守れなかった理由は何か など



- 2) 結果的に利用者が自傷・他害・器物破損等の行為に至った場合、本人と周囲の人々の安全を確保できるだけの判断力・身体能力・行為を終結させる技術・精神的包容力を有している。

**アセスメント項目**

パニックなど不安定行動のトリガー(引きがね)となる刺激の把握  
 予定変更の受け入れ度合い、伝達時のコミュニケーション手段 など

**マニュアルの作成**

アセスメント項目をまとめたもの(混乱したときの対応の仕方も話し合っておく)  
 行動予定表(その利用者にもっとも相応しい手段で作成されたもの)  
 立て直しスペース(トランジションスペース)の位置確認(地図) など

**支援時の留意事項**

混乱時は利用者とその周りの環境との保全に 静に留意しつつ、混乱が収まるのを待つか、立て直しスペースに回避するのかを瞬時に見極め行動する 自制心を持って てず対応する 事後の謝罪なども忘れずに

**ヘルパー・サービス評価の視点**

利用者とその周りの環境をきちんと保全できたか、自分の精神状況が安定した状態を保てたか、事後の謝罪を含めた対応がきちんとできたか など

© とえだ ひろもと 2006

- 3) 利用者が安定した行動を始発する、あるいは現在行っている行動を安定して終了するために必要な助言、誘いかけや音声言語以外の意思疎通方法に関する技術を駆使できる。

**アセスメント項目**

利用者のコミュニケーション手段の把握(言語、行動、こだわり、パニック、など)  
 行動の始発と終点になりうる動機付け手段の把握、禁止ワードの把握 など

**マニュアルの作成**

アセスメント項目をまとめたもの(コミュニケーション手段の整理)  
 視覚支援ツール(写真、ボード、ピクトグラム など) など

**支援時の留意事項**

事前準備が肝要。視覚支援ツールなどがきちんと行動予定表に合わせて用意されていれば、混乱は起きない。行動予定表を守れないような状況が起こる場合には、その状況を先回りしてヘルパーが把握して、適切な方法で伝達、もしくは回避する必要がある。

**ヘルパー・サービス評価の視点**

行動計画表に添った利用になり利用者がそれをきちんと理解し安定していたか  
 視覚支援ツールや行動の動機付けが適切に用意されているか、新たな気づきがなかったか など

© とえだ ひろもと 2006

- 4) てんかん発作と発作時対応の基本的知識・技術を習得した上で、利用者毎の個別の特性と日常生活環境や外出予定先の環境情報等に精通し、それぞれの場面における具体的な発作時対応を準備することができ、発作時には適切に対応できる。

**アセスメント項目**

てんかん発作のタイプ、発作時の様子と対応の仕方、服薬をはじめとした医療的対応のあらまし、カルテのある医療機関の連絡先 など

**マニュアルの作成**

利用者のでんかん発作に対する状態像、発作時を含めた対応の留意点、服薬している抗てんかん薬の作用と作用、携 できる医用機関の連絡先 など

**支援時の留意事項**

倒れる発作や動き回る発作などがある人の場合、その発作が起こったとして、対応できる状態にあるのか、周りの環境に危険因子がないのかを常に把握しながら支援をする。発作が起こった場合、利用者の保全をし、状態を記録する

**ヘルパー・サービス評価の視点**

てんかん発作が起こってもきちんと対応できる知識と技術を身につけているか  
抗てんかん薬に対する知識があるか、きちんと記録ができたか など

©とえだ ひろもと 2006

- 5) 地域生活に求められる対人関係のスムーズな遂行という観点から、清潔、身だしなみ、マナー、社会的規範の大切さを利用者の心理的負担にならぬよう伝えることができ、かつその習慣化を図るための個人因子・環境因子の調整ができる。

**アセスメント項目**

社会参加をした場合に必要な社会規範の理解度、生活環境(支援者、住居、日課、生育 など)の把握、コミュニケーション能力の把握

**マニュアルの作成**

アセスメント項目をまとめたもの(生活環境の 観的把握)  
支援計画(習慣化を図るためのスモールステップの見立てと実行計画) など

**支援時の留意事項**

世の中に通用する社会的規範とヘルパー個人の価値文化は相当の開きがあるという当たり前の前提を確認した上で、支援計画を立てる。習慣化を図るための支援は、すぐに結果がでなくても、り強く続ける

**ヘルパー・サービス評価の視点**

利用者とのインフォームドコンセント(説明と合意形成)がきちんと行えたか  
利用者の不適切な個人因子・環境因子を改善することができたか など

©とえだ ひろもと 2006



- 6) 利用者の不安感、自己肯定感の弱さ等に共感的に寄り添って、その訴えを傾聴することができ、かつ利用者の生活リズム・行動予定等を勘案して、心理的負担にならぬように配慮しつつ、対話を終えることができる。

#### アセスメント項目

利用者の不安感・自己肯定感の弱さの背景となる生活環境(支援者、住居、日課、生育、禁止ワードなど)の把握、コミュニケーション能力の把握 など

#### マニュアルの作成

現在の状況に 入るまでの聞き取り(アセスメント)表、今後の見通しを伝えるための支援計画、 など

#### 支援時の留意事項

カウンセリングの基本を学習しておくこと。「傾聴」が基本だとして、とりわけ、「傾かない」ように留意する。 定期的に寄り添い、本人の不安感に共感しながらも、できるだけ自己解決的発想に導いていく

#### ヘルパー・サービス評価の視点

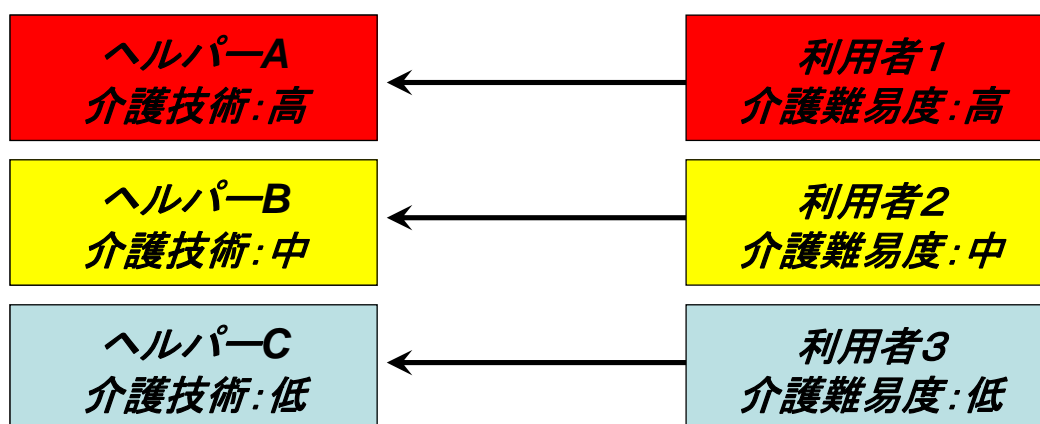
利用者が安定的な心理状況でいられたか、自己解決的発想でなんらかの前進が見られたか、ストレスマネジメントの時間に成り得たか、自己をきちんとコントロールして利用者と寄り添うことができたか など

©とえだ ひろもと 2006

## サービス提供責任者に求められる資質 (マニュアル・研修・リスクマネジメント)



### ヘルパーの力量と利用者の 介護難易度の把握とマッチング



ヘルパーが不安に思うようなマッチングは必ず問題が起こると心得る。ヘルパーの不安は利用者たちどころに伝わる。

© とえだ ひろもと 2006

## ヘルパーの不安を無くすために①

- マニュアル(アセスメント・支援計画・利用記録・カンファレンス記録などのまとめ、視覚支援ツールなど)をきちんと作成しよう。
- 整理されていない情報は何の役にも立たない(情報のリテラシー)。
- 情報は利用者の状況に合わせて、日々書き換えられていくもの。
- 複数の支援者の持つ情報をどのように共有するか

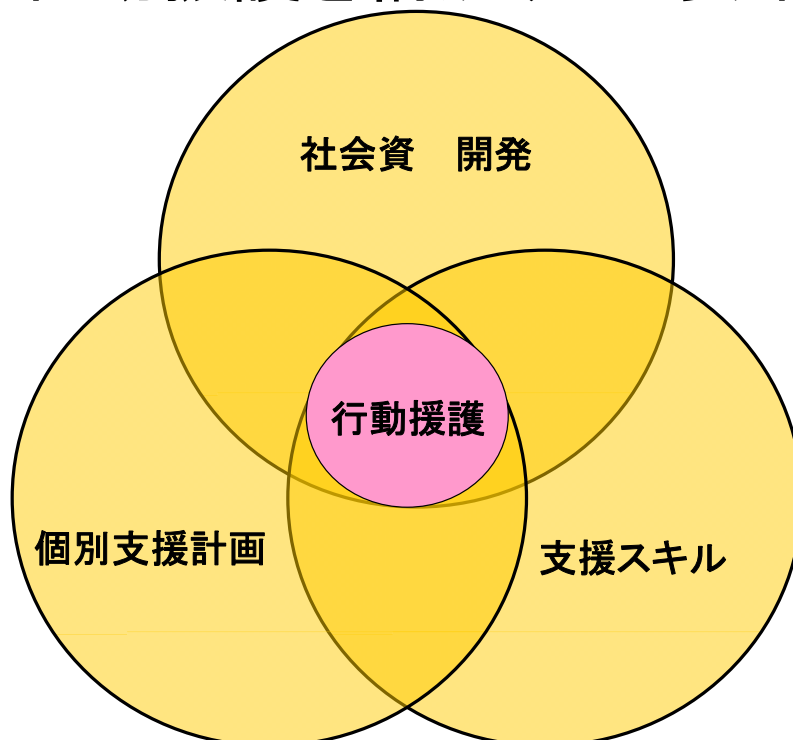
## ヘルパーの不安を無くすために②

- 研修は、大きく分けて、座学、体験実習、OJTがある。
- 座学(障害理解・てんかん発作など学習会)
- 体験実習(パニック時の体験ロールプレイなど)
- OJT(実際の支援場面での研修)
- OJTはスモールステップで。

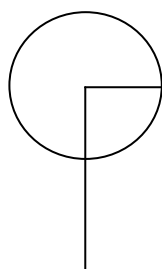
## ヘルパーの不安を無くすために③

- リスクマネジメントは事前と事後がある
  - 事前
    - 利用者の混乱が起こらないように準備する
    - 保険など、介護事故に事業所として備える
  - 事後
    - 実際に利用者の混乱、事故が起こったときのヘルパーへのバックアップ体制の確立
    - 混乱・事故後の事後整理

## 行動援護を構成する3要素



1 日目 午後



# 行動理解の基礎

キャップハンディ  
混乱具合の理解

山口 久美  
社会福祉法人ぐんぐん  
障害福祉サービス事業所ぐんぐん 所長

行動援護研修「障害理解(自閉症の特性)キャップハンディ」記録用紙

	どんなことを感じましたか？ そのときの気持ちを率直にかいてください	そのとき、どんな行動をとりましたか？ なにかしたことがあれば、書いてください。	どんな配慮(指示や案内など)があればよかったですか？
①3cm角の紙切り			
②知らないことば(ベンガル語)の指示			
②' ことばの通じない相手に指示を伝える			
③特性の疑似体験 ・手袋で作業 ・筒めがね ・音 ・暑さ			

2008年3月6日 行動援護従業者養成中央セミナーⅡ仕様

行動援護従業者研修 講師・インストラクター用

## 「進行マニュアル」1日目

## 「障害理解(自閉症の特性)

## キャップハンディ」

2H

## も く じ

- このコマのねらい
- 本日の予定(流れ)
- 演習の展開イメージ
- 演習カリキュラムの概要
- 演習の実施方法
  - ー キャップハンディ
    - 紙切り
    - コミュニケーション障害体験①
    - コミュニケーション障害体験②
    - 特性
  - ー ワークシートの記入
  - ー 演習のまとめ

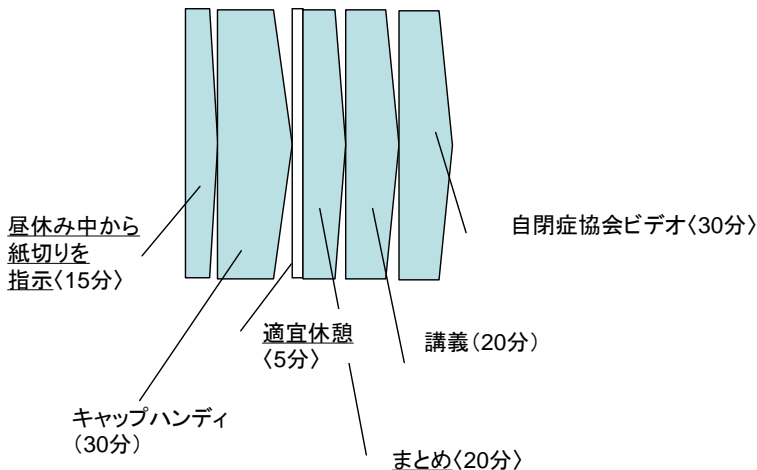
# 1. このコマのねらい

1. 自閉症の障害特性のキャップハンディ
2. 障害特性を疑似体験し、自閉症の人たちのストレスや不安、怒りなどを体感する
3. キャップハンディが、3日間の研修のベースとして、受講者の身体や心に残るものとする

## 指導者（都道府県実施時）としてのポイント

- 参加者の大部分がなんらかの不快感や不安、ストレスを感じる程度に実施する。
- 演習のねらいを理解し、途中で解説やヒントを出したりしないで、最後まで行う。（時間的余裕はないので、どんどん進める！）
- キャップハンディで怒りを感じる参加者もいるが、謝るのではなく、その不快感や怒りを感じてもらうことが、このコマのねらいであることを解説する。
- まとめ（解説）では、このコマ以降のカリキュラムにつながるような示唆を。
- 言葉は悪いですが、参加者にとって「嫌なヤツ」になりきることです。

# 2. 予定（流れ）





### 3. 展開イメージ

1. 事前の説明や、質問受付等全くなしで、「意味のわからない状況」のストレスを感じてもらう。
2. 自閉症の人たちのストレスや不安、怒りなどを体感する。

<b>紙切り</b>	「スケジュール」も「ワークシステム」もない、状況下でのストレスを体感 (指示があるまで紙を3cm角に切り続ける、という指示のみ)
<b>コミュニケーション 障害体験 1</b>	意味のわからない言葉の世界に身を置く体験 (ベンガル語の指示で行動する)
<b>コミュニケーション 障害体験 2</b>	言葉の通じない相手に伝える難しさ (ベンガル語とジェスチャーなどだけで伝える)
<b>特性体験</b>	手先の使いにくさ、視野・シングルフォーカス、音刺激、 体温調節などの特性を体感する
<b>ワークシート記入</b>	ワークシートの記入 (思ったまま、感じたまま、行動したままを率直に記入)
<b>まとめと講義</b>	キャップハンディの種明かし・解説。自閉症の障害理解の導入。
<b>ビデオ視聴</b>	自閉症協会のビデオの視聴 (障害特性の再確認)

### 4. 演習カリキュラムの概要

#### キャップハンディ

- 事前説明、解説、質疑応答等なしで、参加者が「一体なんでこんなことをしているんだ・・・？」という疑問を持つ状況をつくることで、
- 自閉症の人たちの障害特性を体感

#### まとめと講義・自閉症協会のビデオ

- 体感したことの意味を確認し、今後の研修内容のベースを全体で共有する

# 準備するもの

- 軍手作業用
  - － 紙(裏紙などでOK、3cm角に切るためのもの):たくさん
    - 2~3枚を参加者ひとりひとりに配布(昼休み)
    - 残りたくさんを前の机に
  - － はさみ・カッターナイフ:どちらかがひとりにひとつあればOK
  - － 定規:机に1つ~全員にひとつ
  - － 軍手:参加者全員に少なくとも1組ずつ
  - － クリップ:10~15個を小箱に入れて、ひとつの机に1箱
  - － 封筒(使用済みのものでOK):ひとりに3~5枚
  - － セロテープ(カッター付き、テープ台なし):ひとつの机にひとつ
- 聴覚情報処理(聴覚情報の取捨選択)
  - － 音楽CD(ラテン、ヒーリング、漫談を各1)
  - － CDラジカセ3台
- 聴覚過敏
  - － ワイヤレスマイク(ハウリング)
  - － 音楽CD1枚適当なものでOK

## 事前(昼休み中)に準備しておくこと

- 軍手作業用備品を配布、セット
- 会場内の温度を上げておく
- 音響準備
  - － (聴覚情報処理)各CDに1枚ずつCDをいれ、会場内左右後にセット
  - － (聴覚過敏)CDを会場音響機器にセット、ワイヤレスマイクでハウリングの状態を確認
- 12:50にPPTで最初の指示を写す。一度マイクでもアナウンスして、スタッフ全員会場から退席

## 5. 演習の実施方法1: 紙切り

### 指示・内容

1. 昼休み中に会場・備品の準備
2. 12:50くらいに、「次の指示があるまで、配布された紙を3cm角に切ってください」とアナウンス(PPT)【15分】

### 配慮・留意点

・紙は、配布されたものの他に、前の机にたくさん積んで、終わったらここから持って行ってOKとする。

・「どのくらい正確に?」「何枚?」「いつまで?」などの質問ができることが想定されます。

事務局スタッフ、講師・インストラクターは会場から出て、参加者のみの状況をつくり、質問できないようにします。

## 次の指示があるまで

- 机上に配布された紙を、3cm角に切っていてください
- 紙が足りなくなったら、前の机にあるものを持って行ってください
- はさみ、カッターナイフ、定規などは、それぞれの机に配られています

## 5. 演習の実施方法2 コミュニケーション障害体験①

- |    |   |              |
|----|---|--------------|
|    |   | <b>指示・内容</b> |
| 1. | 13:05～13:10講師が登壇。「作業を中止し、ここからは、私の言うことをよく聞いて行動してください。」と言って、スタート。 |              |
| 2. | シナリオを参考に、できるだけたくさんの参加者を巻き込んでいく。【10分】                            |              |

<b>配慮・留意点</b>
<p>・まずは、シナリオにある言葉だけで話しかけ、次にジェスチャーや指さし、それでもわからなければ、具体物などを使う・・・というように、少しずつ手がかりを増やしていく。</p> <p>(言葉がわからない状況下で、何を手がかりにわかろうとするか、も実感してもらおう)</p>

## 5. 演習の実施方法3 コミュニケーション障害体験②

- |    |  |              |
|----|--|--------------|
|    |  | <b>指示・内容</b> |
| 1. | 1回目(具体的内容:窓を開けて外に手を振ってください)                      |              |
| 2. | 2回目(少し抽象的:ひとりでトイレに行ってください)                       |              |
| 3. | 2名ペアで、2回実施(他の人は見ている)                             |              |
| 4. | ひとりに、使っていい言葉のメモ(訳付き)を渡し、もうひとりの人に指示してやってもらう。      |              |
| 5. | 質問: 指示した方の人(どうやって伝えようと思ったか、何が難しかったか?)            |              |
| 6. | 質問: 指示された方の人(なんと言われたと解釈したか?何を手がかりにしたか?どこでわかったか?) |              |
| 7. | それぞれ実施後に感想を言ってもらおう【各7,8分】                        |              |

<b>配慮・留意点</b>
<p>・まずは、シナリオにある言葉だけで話しかけ、次にジェスチャーや指さし、それでもわからなければ、具体物などを使う・・・というように、少しずつ手がかりを増やしていきます。</p> <p>(言葉がわからない状況下で、何を手がかりにわかろうとするか、も実感してもらおう)</p>

## コミュニケーション障害体験②-1

(このスライドは、事前に1枚印刷しておきます。大きさは、配付資料6枚)

- ペアの人をことばを使わずに窓際まで連れて行ってください
- そして、次のように話しかけてください
- 「**ジャナラタ クレ ディエ、**  
窓を 開けて、  
**バイレ ハート グレン**」  
外に 手を 振ってください

## コミュニケーション障害体験②-2

(このスライドは、事前に1枚印刷しておきます。大きさは、配付資料6枚)

- ペアの人を、ことばを使わずに廊下まで連れだしててください
- そして、わかってもらうまで、次のように話しかけてください
- 「**エカイ バイカナイ ジャオ**」  
一人で トイレに 行きなさい

## 5. 演習の実施方法4 特性の体験(軍手作業)

- |    |   |
|----|---|
|    | <b>指示・内容</b>                                      |
| 1. | 配られている軍手を両手にはめてください                               |
| 2. | 先ほどつくっていただいた3cm角の紙を5枚一組にしてクリップで留めます。これを3組つくってください |
| 3. | 封筒に一組ずつ入れて、セロテープで封をしてください。封筒詰めしたものが3組できます。【各5分】   |

- |  |  |
|--|--|
|  | <b>配慮・留意点</b>  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具が不足しないように準備しておく</li> <li>・手袋をしてやりにくくなるような準備の仕方にする<br/>(ex. クリップを小さな箱に入れておく、小さめのクリップにするなど)</li> <li>・丁寧に！時間が押しているので急いで！などの声をかけて焦らせるのも○</li> </ul> |

## 5. 演習の実施方法4 特性の体験(紙眼鏡)

- |    |  |
|----|--|
|    | <b>指示・内容</b>   |
| 1. | 配布された資料や、手元の紙などで、紙の筒をつくらせてください   |
| 2. | 片目でのぞいて、もう片目は閉じます  |
| 3. | まず、講師を見てください(大きく、はっきり見えないか？見えなかったものが見えないか？など。逆に、どんな服装か何をしているかわかにくくなっていませんか？) |
| 4. | 次は、近くのものを見てみましょう。お隣の人の服や床などを見てみましょう。(模様や汚れなどがクローズアップされて見えないか？)               |
| 5. | 次は、自分の気になるものを見てみましょう。(何を見ているか数人に聞く。人それぞれ気になるところは違いますね。)                      |
| 6. | では、そのまま立ち上がって、今見ているものの方へ向かって歩いてみてください。【各5分】                                  |

# 5. 演習の実施方法4

## 特性の体験(聴覚過敏)

1. ワークシートを配布。
2. 記入の説明をし、記入を始めてもらう。
3. BGMで大きな音の音楽。ハウリングマイクで、ワークシートの記入の補助説明を。

**指示・内容**

**配慮・留意点**

- ・聴覚過敏の人、耳の持病や障害のある人が受講している可能性もあり、事前に、不快感や不調を感じたら退席していいというアナウンスが必要か？
- ・やっている方も、嫌な音なので、控えめになりがちだが、「人が耳をふさぎたくなる音」を実感できるような音量や時間を。

自閉症の理解演習記録用紙

	どんなことを感じましたか？ そのときの気持ちを率直に書いてください	そのとき、どんな行動をとりましたか？ なにかしたことがあれば、書いてください。	どんな配慮(指示や案内など)があればよかったですか？
①3cm角の紙切り	率直に、感じたまま、思ったまますべてを記入してください。「なんでこんなことしなくちゃならないんだ？」とか「むかついた」とか「あの講師いやなやつだなあ」そんなことをどんどん書いてOKです。	自分がしたことをそのまま記入してください。	やりながら感じたことを書いてください。「もっとこうしてくれれば良かったのに」とか「こんな準備をしておいてくれたら良かったのに」とかスタッフへの注文などです。
②知らないことば(ベンガル語)の指示			
②'ことばの通じない相手に指示を伝える	ここは、やっていただいた方々の感想や、見ていて感じたことを記入してください。		
③特性の疑似体験 手袋で作業 簡めがね 音響さ			

## ワークシートの記入が始まったら

- (聴覚情報処理の場合)3カ所のCDで一斉に音楽をかけ、講師も、記入についてさらにアドバイスなどをする
- (聴覚過敏の場合)音楽を大音量でかけ、ハウリングマイクで講師が記入についてアドバイスなどをする
- どちらも2, 3分

## 音楽をやめて、普通のマイクで

- これも特性体験のひとつでした。
- それから、会場内が暑くなっていました。体温調節のできない人が、緊張したり、何か活動をする、余計に体温があがり、普通ちょうどいいと感じる温度でも暑く感じます。そのことを感じてもらうためのキャップハンディでした。
- このふたつのことについても、一番下の障害特性の欄に記入してください。



## 5分休憩

ワークシートの記入が終わった人から順次休憩。  
次の講義開始時間を伝える。  
休憩時間中に、「演習のReview」の受講者用を配布。

## 演習のReview

演習のまとめ  
(約30分)

# 休憩

(5～10分)

「自閉症の理解」の受講者用を配布。

# 講義

「自閉症の理解」  
30分

# ビデオ視聴

自閉症協会作成DVD

「自閉症の子どもたち  
～バリアフリーを目指して～」  
全編 約30分

# 障害体験用シナリオ

(C)Kumi Yamaguchi 2007

## アッサラーム アライクム！

みなさん、おはようございます！

会場が一瞬しんと引きますが、全く気にしていない様子で  
全体を見渡してもう一度

## ワ アライクム アッサラーム！

おはようございます！

誰かがエコラリアで返してくれたら、にっこり笑って「アッサラーム！」

誰も答えてくれなかったら・・・会場に入って行って  
ひとりひとりにマイクを向けながら↓

## アッサラーム

エコラリアで返してくれるまで続ける。  
幾人かの人に挨拶をしてもらったら

「ではこれから、私の言うことをよく聞いて、言われたように行動してください」

## エコン テケ ショカレール ショバ シュル コルボ

これから、朝の会を始めますよ。

会場の誰かに目を合わせて

## ティッカチェ？

いいですか？

曖昧な反応が返ってくるが、反応があれば OK で、次の人に向かって  
「ティッカチェ？」

## タホレ、ショル コラ ジャク

はい、それでは、始めましょう。

また他の人に向かって

## モン ショクト ホツチェ？

緊張していますか？

マイクを向けて返事を待つ

ニコニコとやさしく

たいていは、曖昧なにこにこの反応か、うなづきが返ってきます

## エト モン ショクト コルベン ナ

まあ、そんなに緊張しないでリラックスしていきましょう

## タホレ、エコン テケ、ニジェ ニジェ ポリチョイ コレ デン

じゃあこれから、自己紹介をしてもらいます

## エクドム パシエール ロック、ナーム ボレン

一番はじめの人、名前を教えてください

はじめは、ことばで言うだけ

あれ？返事がないぞ？という表情で、はじめの人に向かって  
「一番そちらの方」目があったら、「そうですあなたです」

## ナーム ボレン

名前を教えてください

全然わからないという反応にむかってさらに

## ナーム？

なまえは？

## ナーム ト！

なまえだっつうの！

だめだな、という感じで隣の人に

## タルポレ、アップニー？

じゃあ、あなたは？

## ナーム キー？

名前は何ですか？

だめだな、という感じで隣の人に

## タホレ、アップニー？

そしたら、あなたは？

## ナーム

名前ですよ

## ナーム ブジェン ナ？

名前もわからないんですか？

「ナーム」と言いながら、その人の名札を指す

それでも答えられなければ、自分をさして「ナーム、山口久美です」

答えられるまで、会場内を回って次々聞いていく

名前を言えたひとがいたら、OK サインを出しながら

## ティッカチェ！〇〇さんですね。よろしくお願ひします。

会場内で5～6名に聞いていく。

他の人が答えられていても、答えられない人もいます。

その場合は、また上の繰り返し。

ありがとうございました。本当はみなさんのお名前をお聞きしたいところですが、時間も限られていますので、次に進みたいと思います。

**タホレ、ナム ダクレ、ウポレ ハート アガイ ディエ、ウツール コン**

では、名前を呼ばれたら、元気よく手をあげて返事をしてくださいね

終わるのか？！と思ったらまだ続くのかあ…という雰囲気になります。

ゆっくり、単語ごとに区切りながらもう一度

**タホレ、ナム ダクレ、ウポレ ハート アガイ ディエ、ウツール コン**

では、名前を呼ばれたら、元気よく手をあげて返事をしてくださいね

**いいですか？では…〇〇シャヘーブ♂(シャヘーバ♀)**

〇〇さ～ん

名札を見ながら、〇〇に名前を入れて呼びかけてください。

自分になにか言われているんだな、とはわかるけれど、手を挙げて返事、はできないので…

**ティック モト ハート アガイ デン**

きちんと手をあげてください

わかりません…などの反応があったら、隣(or 次)の人に

**ナム ダクレ、ウポレ ハート アガイ ディエ、ウツール コン、ティカチェ？**

では、名前を呼ばれたら、元気よく手をあげて返事をしてくださいね

数名に聞いて、正解がでないところで、

手をあげながら↓

**ハート アガイ ディテ ホベ ト**

手をあげるんですよ

**タホレ △△シャヘーブ(シャヘーバ)**

手をあげるジェスチャーをしながら

それでは、△△さ～ん

手を挙げられたら…

**ティッカチェ**

良くできました

できなかつたら…

**ナー、ナー、ティック ナー**

違う違う！

次の人に向かって

**タホレ ◇◇シャヘーブ(シャヘーバ)**

「はい」と言いながら手を挙げるジェスチャーをして

それでは、◇◇さ～ん

手を挙げられたら…

**ティッカチェ**

良くできました

また、会場内の5～6名に続けて聞いていく

**みなさんよくできました。だんだんわかってきた感じですので、もう少しやってみましょう！**

「え～…」という反応をさらっとかわして

ショバイ シッコッケール コタ、ティック モト シュネン

みなさん先生の言うことをよく聞いて行ってください

ティッカチェ？

いいですか？

チアレール ウポレ ダラン。エーク パ アガイ デン

「椅子の上に立って、片足をあげてください

まず、さらっと言う。

次に、ゆっくり、単語を区切って言う。

難しいですかねえ……。では、少しずつ区切ってやってみましょう。

チアレール ウポレ ダラン。

「椅子の上に立って」

椅子を自分の前に1脚用意。

椅子を示しながら。

チアレール。

椅子。

椅子の座面を示しながら。

ウポレ。

上に。

立つジェスチャー。

ダラン。

立って。

受講者がいろいろ考えて、言葉に出してくれる人がいると思うので、それを拾って「そうそう！」と言って、やってみてくださいと、促す。

できたことには「ティッカチェ」「そうです！」などで返す。

では、この演習はここまでにして、次の演習に移ります。

次は……

では、次に、隣同士でふたり組になってください。  
まずこちら側の人にこのカードをお渡しします。  
これには、ある指示が書かれています。  
その指示を、ペアの人に伝え、指示に従ってもらってください

使えることばは、カードに書かれているものだけです。  
ほかに、身振りなどはどんどん使ってください。

カードを配る

注意:カードは、隣の人に見えないようにきをつけてくださいね。

ペアの人を、ことばを使わずに廊下まで連れだしてください  
そして、わかってもらうまで、次のように話しかけてください

**「エカイ バイカナイ ジャオ」**

「一人でトイレに行きなさい」

はい、では今度は交代です。

ペアの人をことばを使わずに窓際まで連れて行ってください  
そして、次のように話しかけてください

**「ジャナラタ クレ ディエ、バイレ ハート グレン」**

「窓を開けて、外に手を振ってください」

お疲れさまでした。これから10分間の休憩をとります。  
11:10に次の演習を始めますので、席についてください。

# 演習のReview

## (解説ノート付き)

行動援護研修07 II Ver.  
講師・インストラクター用

(C)Kumi Yamaguchi 2007

- 自閉症のキャップハンディとしての演習であったことをまず説明
- 不快感やストレス、怒りを感じる受講者がいるが、謝らない！
  - \* 行動援護(の支援)につながるように解説する
  - ・自閉症の人たちのストレスや不安、恐怖感、怒りなどなどを、感覚として感じ取ってほしいという趣旨からの演習です
  - ・このストレスや不安、恐怖感、怒りなどを感じないで、暮らしていけるようにするための支援を探っていくための手がかりとしてほしい



### 紙切り(3cm角に切る)

- どんなことを感じたか？
- どんなことをしたか？
- どんな配慮があればよかったと思うか？

(C)Kumi Yamaguchi 2007

#### ●紙きり

(趣旨)

- 意味のわからない・・・活動をやらなければいけないストレス  
→なぜ？何を？どれだけ？どのように？いつまで？・・・などなど

- \* それぞれの状況に合わせて、時間の許す限り長く(30分くらい)やれるとよい
- \* 趣旨にあっていれば紙きりでなくて他の作業・活動でもよい

(このコマで気をつけること)

NG: これをしてしまうと、伝えようとするのが十分に伝わりきれなくなります

- 事前の説明、途中での質問(いつまでやるんですか？どうやるんですか？など)に答える
  - ・事前の説明なしでやる活動のストレスや不安感などを体験することが大事
  - \* 事務局スタッフ、講師、インストラクターは、会場から席を外しているとよいと思います

### 自閉症を理解するヒント①

- 初めての場所、初めての人、初めての活動
  - だれでも不安、緊張
- 見通しのない時間と活動
  - いつまでやればいいのか？
  - どのくらいやるのか？
  - なんでやるのか？
  - 指示待ち

☆安心して過ごせるようにする工夫が必要になる

(C)Kumi Yamaguchi 2007

#### ●紙切り

(解説)

- ・なんの説明もなく、初めての場所で、初めての人と、初めての活動をするのは、誰でも不安
- ・意味のわからない活動をするのは、イライラ感や不安、モヤモヤ感を感じる

↓

事前の説明が大事

- ・何を？なぜ？どのように？いつまで？・・・やるのか

私たちは普段、ストレスを感じる前に、無意識に、これらのことを探り、自分で意味づけしたり、人に聞いたりして乗り越えてしまっている。

\* 質問したくなりませんでしたか？

\* まれに、難しい研修を受けるより、こういう単純作業をしている方が好きで楽しかったという感想が出ます。

○人くらい集まると、ひとりくらいいるんですよねえ・・・

ちょうど自閉症または発達障害の人の割合くらいですかねえ(笑)とかなんとか・・・。

- ・外出も説明もなく連れ回されたら不安、ストレス

どこへいくの？行った先でなにをするの？だれといくの？なにでいくの？いつまでつづくの？  
 などなど 伝えてありますか？

ex: 拷問・・・石運び(意味もなく、石を運んで積み上げたら、また元の場所に戻す・・・の繰り返し)  
 豆の皿移し(お箸の使い方の練習っていても・・・意味が分からずやったら拷問と同じ)など

↓

この状況下では、どうすればいいんだ？という不安感と、指示があるまで待っているしかないなという気持ちの両方になる

↓

納得して取りかかれる、やれる、過ごせるようにするための支援が必要 →それが安心につながる

↓

ちゃんと説明してくれる人が好き☆信頼できる☆

EX) ツアーに申し込んだ

- ・集合時間と集合場所しか連絡が来ない・・・

何を聞きたくになりますか？

- ・さて当日、工程もスケジュールも伝えられずいきなり出発、あちこち連れ回され・・・

どんな気持ちになる？

- ・もう一度、このツアーリストのツアーに申し込もう！と思いますか？

## コミュニケーション障害体験①

- どんなことを感じたか？
- どんなことをしたか？
- どんな配慮があればよかったと思うか？

(C)Kumi Yamaguchi 2007

### ●コミュニケーション障害(ベンガル語)

(趣旨)

○わからない言葉の世界を体感・実感する

- ・オウム返し
- ・ニコニコ・にやにや
- ・視線が合わない などなど

- \* 言語はどこのものでもよいが、架空の言葉より、現存する言語がよい  
(「でたらめな言葉では通じるはずがないじゃないか」という感想をなくしたいことと、  
本当の言葉は、言葉の中に法則性を見いだせるから)  
・注意深く聞いていると、わかってくる言葉がある。  
それを手がかりに、また間違っことをしてしまうんですねえ…

(このコマで気をつけること)

NG: これをしてしまうと、伝えようとするのが十分に伝わりきれなくなります

- まずは、言葉だけで 次に、ジェスチャーやわかる言葉の手がかりを加えて  
まだわからなければ、さらに手がかりを増やす…という順番で進める  
はじめから手がかりが多いと、それでわかってしまい、コミュニケーション障害体験の  
意味が薄れてしまう  
言葉がわからないとき、何を手がかりにするか、も実感してほしい

## 自閉症を理解するヒント②

- 意味のわからないことばの世界
  - 相手がニコニコしていても不安、緊張
  - エコラリア
  - にやにや
  - 怒り、イライラ

☆人とのコミュニケーションが楽しい・便利！  
ということを知ってもらふ工夫が必要になる

(C)Kumi Yamaguchi 2007

## ●コミュニケーション障害(ベンガル語)

(解説)

- 知らない環境で知らない人に話しかけられる恐怖感まで想像してほしい
- コミュニケーションができないと相手に合わせようとするか、反発するかしかない状況に、  
自閉症でなくてもなる
  - にこにこ相手と同調
  - わからないとわかっているのに何で話しかけてくるんだ！という怒り
  - 自分から困っていることを上手に伝えられないもどかしさやストレス

○相手を理解しようとする時に何を手がかりにするか？

→ジェスチャー・表情・時々聞こえる日本語・周りの人の動き

\* 多くの自閉症の人がこれを手がかりにしている。

『わかっている』と言われている言葉を文脈・ジェスチャー・表情・周りの人を外して言うことで、本当にわかっているかどうか評価できる(この後の講義で詳しくお話があります)

## コミュニケーション障害体験②

- どんなことを感じたか？
- どんなことをしたか？
- どんな配慮があればよかったと思うか？

(C)Kumi Yamaguchi 2007

### ●コミュニケーション障害②

(趣旨)

○ことばの通じない人に伝える時の、不自由さ、不便さ、難しさ、もどかしさを感じ取ってほしい

- ・言葉がわからない人に言葉だけでは伝わらない
- ・抽象的になるほど難しい
- ・この体験は行動援護に直結する部分になる

ex) 普段どうしていますか？

いきなりトイレに連れて行き、便器の前に立たせていたりしてませんか？

(このコマで気をつけること)

NG: これをしてしまうと、伝えようとするのが十分に伝わりきれなくなります

○この演習も、言葉はわからないのだから、とすぐにジェスチャーや絵、マークなどを使ってしまうと、相手がどこでわかってくれたかがわからなくなるので、講師のリードで、順番に伝え方を変えていくほうがよい

\* この順番が、支援対象者がどんなことを手がかりにしているかを評価するときの支援者側の手がかりになります

☆ 進行で講師がリード・指示

※ 使っていい言葉は、指示されたもののみですが、

日本語のことばと文字以外は使ってよい(サイン・マーク・絵など)です

<リードの順番>

ことば → 指さしやジェスチャー → サイン・マーク・絵など(★3日目の出口さんの演習に

関連)

① 具体的な指示: 「立ち上がって手を振ってください」

② 少し抽象的な指示(質問): 「トイレに行きたいですか？」

受講人数が少ない場合は、全員で2人組になってやってもよい。(交代で1つ目と2つ目をおこなう)

### 自閉症を理解するヒント②'

- ことばの取り扱いが苦手な人たちであるという前提で
- 苦手さを補うために、どんなサポートができるかを考える
- 抽象的になればなるほど、伝え合うのは難しい

☆どうすれば伝わるかを考えることが必要になる

(C)Kumi Yamaguchi 2007

### ●コミュニケーション障害②

(解説)

○「言葉」を全く理解できない訳ではない。

○聴覚から入ってくる音声言語を処理し理解(認識)することが難しい or 苦手

↓

○目に見える手段(コミュニケーションツール)を処理し、理解(認識)することは、易しいor得意

→抽象的なことからは、目に見えるように表現するのが難しい＝伝えることも、理解することも難しい

EX) 日本語が母国語の私たち・・・

英語は少し(ではない人もいるかもしれないけれど)しか理解できない・使えない

↓

・英語でコミュニケーションしなさい！と言われ・・・英語で話しかけられたら、理解するのは大変。

(ヒアリングは苦手)

でも、書いてもらうともう少し理解しやすい。

さらに、絵や写真やマークなどなどをたくさん使ってくれたら、もっとわかりやすい！

・英語で相手に何かを伝えなければいけないとしたら・・・「片言」以下の表現に・・・

ex) 選択肢があると伝えやすい、実物があればなおいい。

yes/no で答えればいいと、答えやすい。

苦手な方法を強要するのではなく、得意な方法を使って、便利に楽しくコミュニケーションできたほうが、  
関係をつくるのも、一緒に生活するのも楽ではないですか？

## 特性の体験

- どんなことを感じたか？
- どんなことをしたか？
- どんな配慮があればよかったと思うか？

(C)Kumi Yamaguchi 2007

### ●身体感覚の特性の体験

(趣旨)

○自閉症の人たちが持っている特性の一部：特に感覚処理の違いを体感し、自閉症の人たちの「つらさ」を理解してほしい

(このコマで気をつけること)

NG:これをしてしまうと、伝えようとするのが十分に伝わりきれなくなります

受講者の大半がしんどい・・・と思う程度まで続けることかな？

中途半端にやると、わかった気になるだけ or まったくわからないで終わってしまう

### 自閉症を理解するヒント③

- 自閉症の人の特性の一部
- すべての人がそうだということではない
- いろいろな特性がある
- 頭で考えて理解したつもりにならないこと
- 怠けや故意などか、特性なのか？知らなければ判断できない

☆ひとりひとりの人の特性に合わせた工夫が必要になる

(C)Kumi Yamaguchi 2007

### ●身体感覚の特性の体験

(解説)

自閉症の人たちは、いろいろな特性を持っている → 体感することで理解してほしい

○軍手：手先の不器用さ(脳の障害による不器用さ。怠けているわけでも、ふざけているわけでもない)

→だとしたら、どんな支援が必要になるでしょう？(質問を投げかけるだけ)

○紙の筒めがね：視野の狭さやシングルフォーカス(器質的に視野が狭い。興味のあるものだけにフォーカス)

→見えないところで見せても、情報としてインプットされません。見せているのにできない？

○音(聴覚情報処理)：全部の音がいっぺんに入ってくる＝必要な音情報だけを選択できない・・・うるさい！集中できない！

○音(聴覚過敏)：私たちにとってはなんでもない音や音量、音域でも、ダメな場合がある。

→環境を見直してみる必要がないでしょうか？

○温度(体温調節)：体温調節が苦手な人が多いです。脳の障害からくる自律神経の働きの違いから起きているのかもしれませんが。

特に暑さに弱い人が多い。夏はもちろん、秋冬春でも、私たちにとって暖かい環境が、実はとても暑いことも・・・。

また、身体を動かす活動をすれば体温が上がります。

→気温、室温、着衣などへの配慮も必要かもしれませんね。

↓

この特性からくる自閉症の人たちのストレスや不安を感じ、そこから生じる行動の意味を理解してほしい

EX)人が耳をふさぎたくなるのは、どの程度のことか。

\* 体感していることが私たちと違っている。ということは・・・？

自分の感覚が当たり前だと思っているとしたら？

相手がどう感じているか、想像するのは・・・「そりゃ～難しい」と思いませんか？！

↓

理解することで、支援の工夫ができる

\* この体験は初心者向けである

「こんなことはわかっている」人たちではない。という押さえがここでも大事。

(★この後の講義、2日目のプログラムの中で、特性理解を深めていってください)



暴言を吐く わけもなく急に怒り出す  
 腫れ上がるほどの自傷声を出す 叩く  
 噛みつく  
 ツバを吐く壁に穴  
 自分の手ぎゅ指示待ち  
 自分の頭を叩く  
 人にさわられるのが嫌で払いのける  
 髪の毛を口に入れる  
 パニックになったら大人4人がかり・・・  
 じっと固まって動かなくなる  
 人を蹴る  
 耳ふさぎ  
 泣き続ける  
 すぐに喧嘩

(C)Kumi Yamaguchi 2007

自閉症だから  
 障害が重いから  
 だから仕方がないのでしょうか？  
 本当にそうなのでしょうか？  
 彼らは好きこのんで  
 こんなことをするのでしょうか？

## 行動障害？

- 生まれてからずっと、ストレスや不安にさらされ続けている
- 人を嫌う
- 自分のわかることだけをする
- イライラが爆発する
- 指示されたことだけをする などなど
- 人として当たり前の表現ではないか？

(C)Kumi Yamaguchi 2007

## 自閉症を理解するヒント

～まとめ～

- 自分の価値観や感覚で考えるのではなく
- 自閉症という障害を理解することが大事
- 自閉症の人には自閉症の人の価値観や考え方、感じ方、コミュニケーションの方法がある  
＝自閉症の文化：異文化

(C)Kumi Yamaguchi 2007

## 例えば

- テンプル・グランディン  
－たいてい...私は火星に降り立ってしまった人類学者のような気分です
- ジム・シンクレア  
－僕には地球外生命体向けにつくった、環境順応のための手引き(オリエンテーション・マニュアル)が必要だったんです

(C)Kumi Yamaguchi 2007

## 相手の立場にたって考える

- 陥りやすい失敗  
－頭だけで考えてわかった気になる  
－自分の見方、考え方：価値観で考えてしまう

(C)Kumi Yamaguchi 2007

### 「悪意のない虐待」

By 佐々木正美氏(川崎医療福祉大学教授)

- 自閉症の人の障害を理解せず
- 私たちの価値観や考え、ことばを押しつけるのは
- 彼らの不安、ストレス、怒りを「放置」「無視」しつづける...のと同じこと

(C)Kumi Yamaguchi 2007

### 求められていることは...

- 自閉症の人の立場にたつことではなく
- 異文化の人として対等の立場で
- 地球・日本に初めて来た異星人に、日本の文化を伝えられる通訳になること
- 彼らに必要なオリエンテーション・マニュアルをつくること

(C)Kumi Yamaguchi 2007

## 障害理解(自閉症の特性)

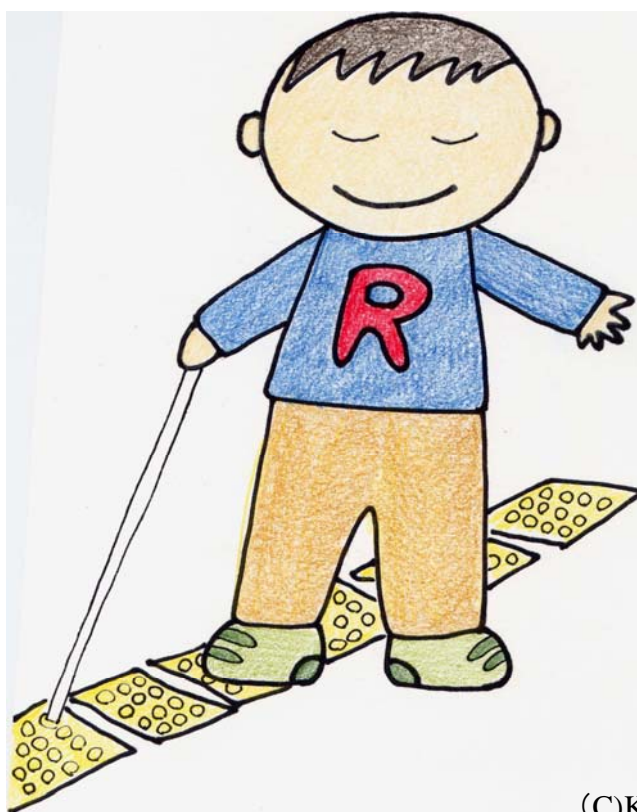
行動援護研修07 II ver.  
K.Yamaguchi

自閉症の人たちとの関わりが  
難しいわけ

- なぜでしょう？

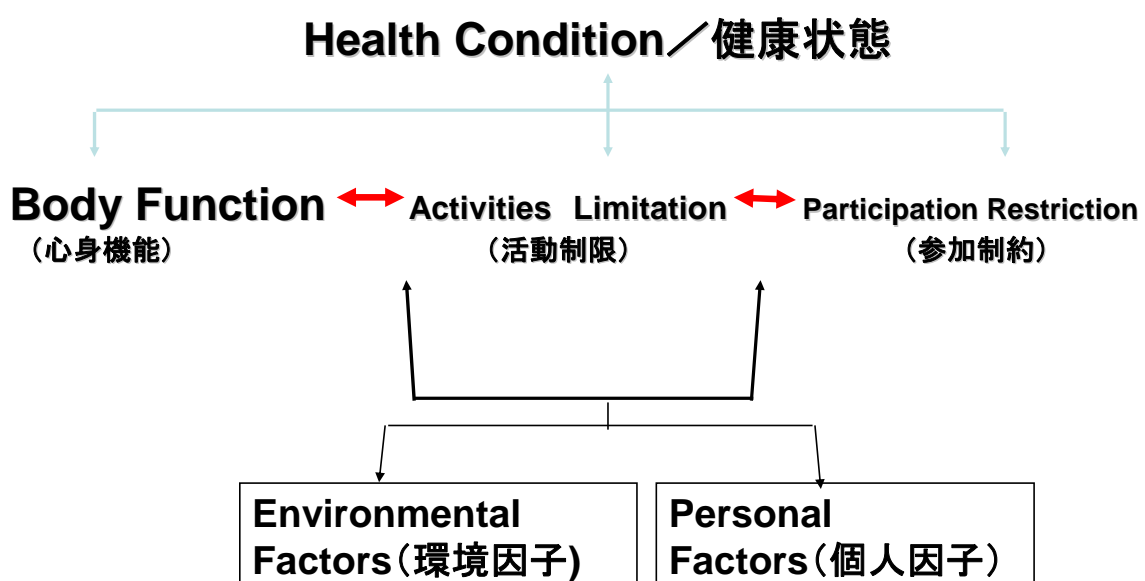


(C)Kumi Yamaguchi 2007



(C)Kumi Yamaguchi 2007

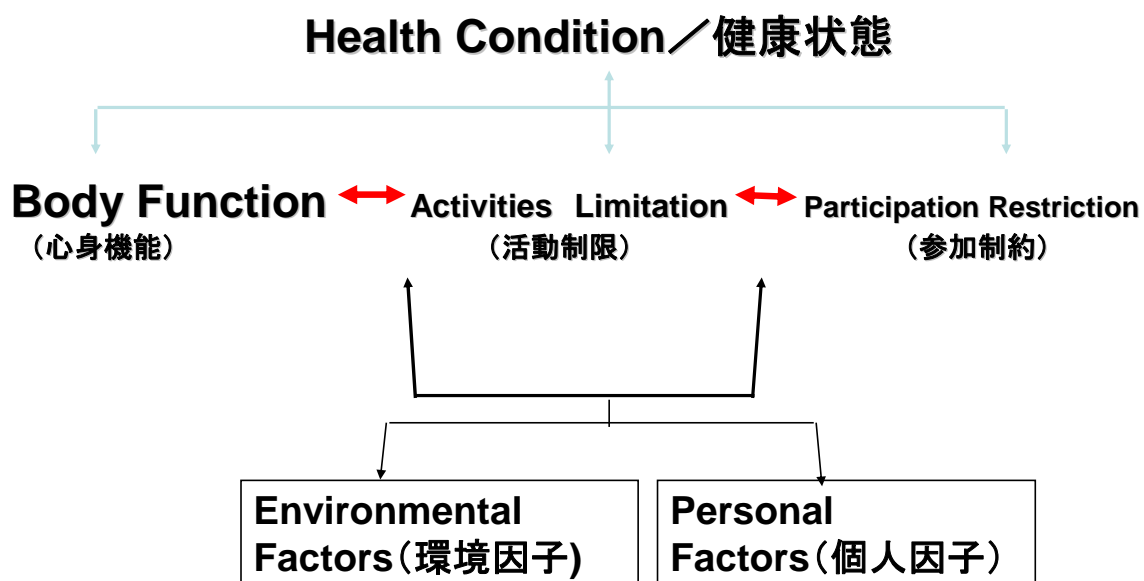
## 思い出してみましよう！ICF

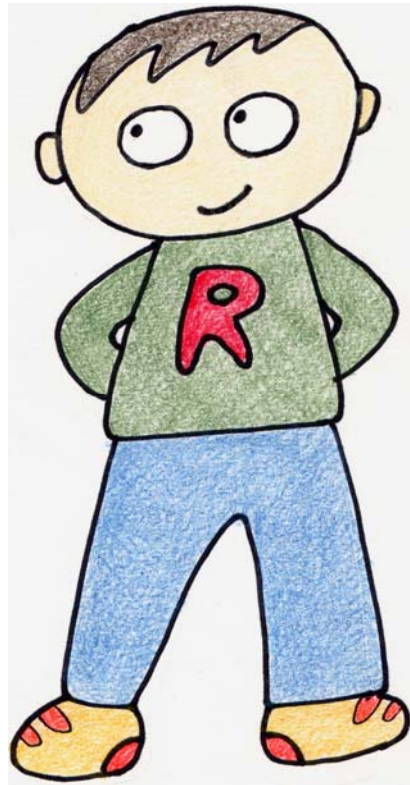




(C)Kumi Yamaguchi 2007

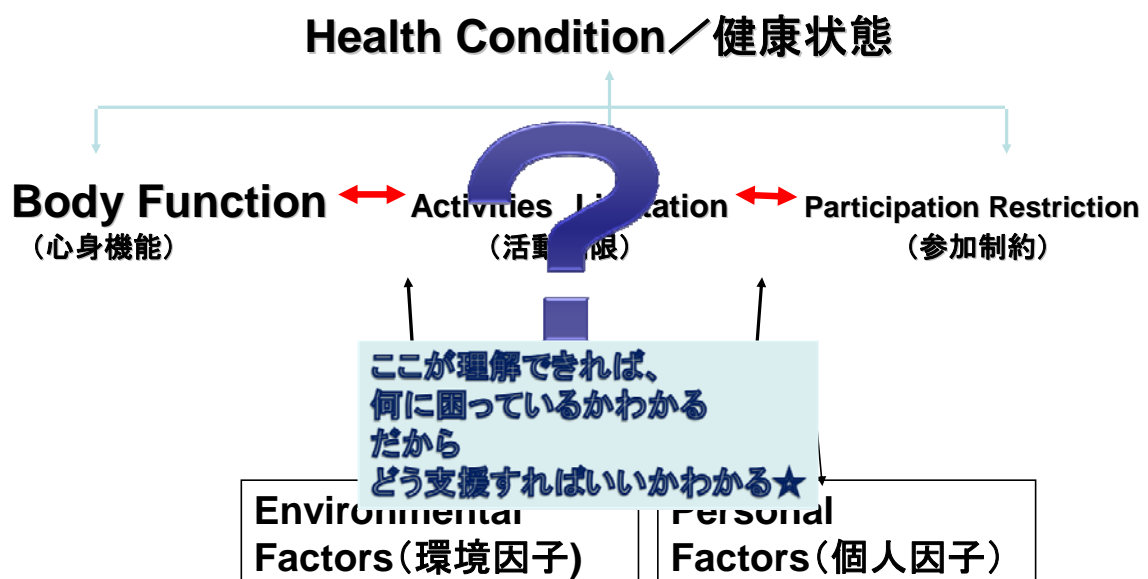
## 思い出してみましょう！ICF





(C)Kumi Yamaguchi 2007

## 思い出してみましよう！ICF



## 自閉症の人たちとの関わりが 難しいわけ

■なぜでしょう？



- 脳の器質的・機能的な障害である  
障害そのものが目に見えない
- 症候群である  
ひとりひとりが、まったく違う
- ひとりの人のなかでも、長所と短所、ある  
いは、能力にばらつきがある

(C)Kumi Yamaguchi 2007

## 自閉症は症候群

- 「自閉症の典型」という人はいません
- ひとりひとりが違い、  
ひとりひとりの症状が違います 🗣️



- ひとりひとりに合わせた、教育や援助のプログラムが必要です(個別化)

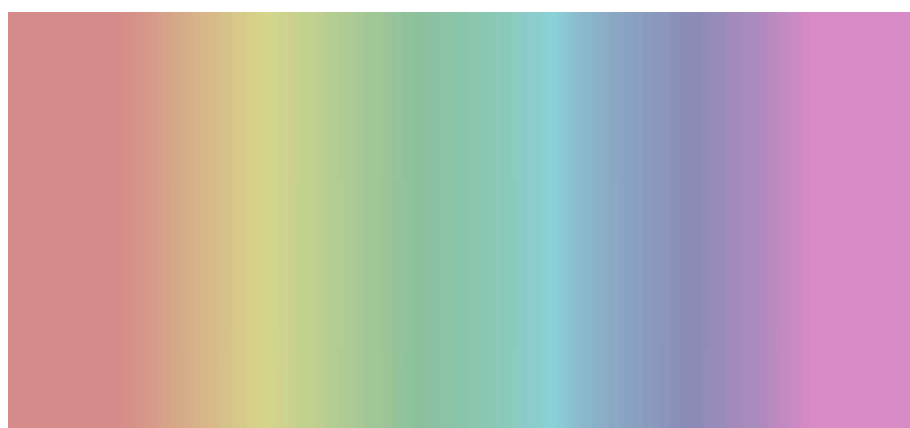


(C)Kumi Yamaguchi 2007

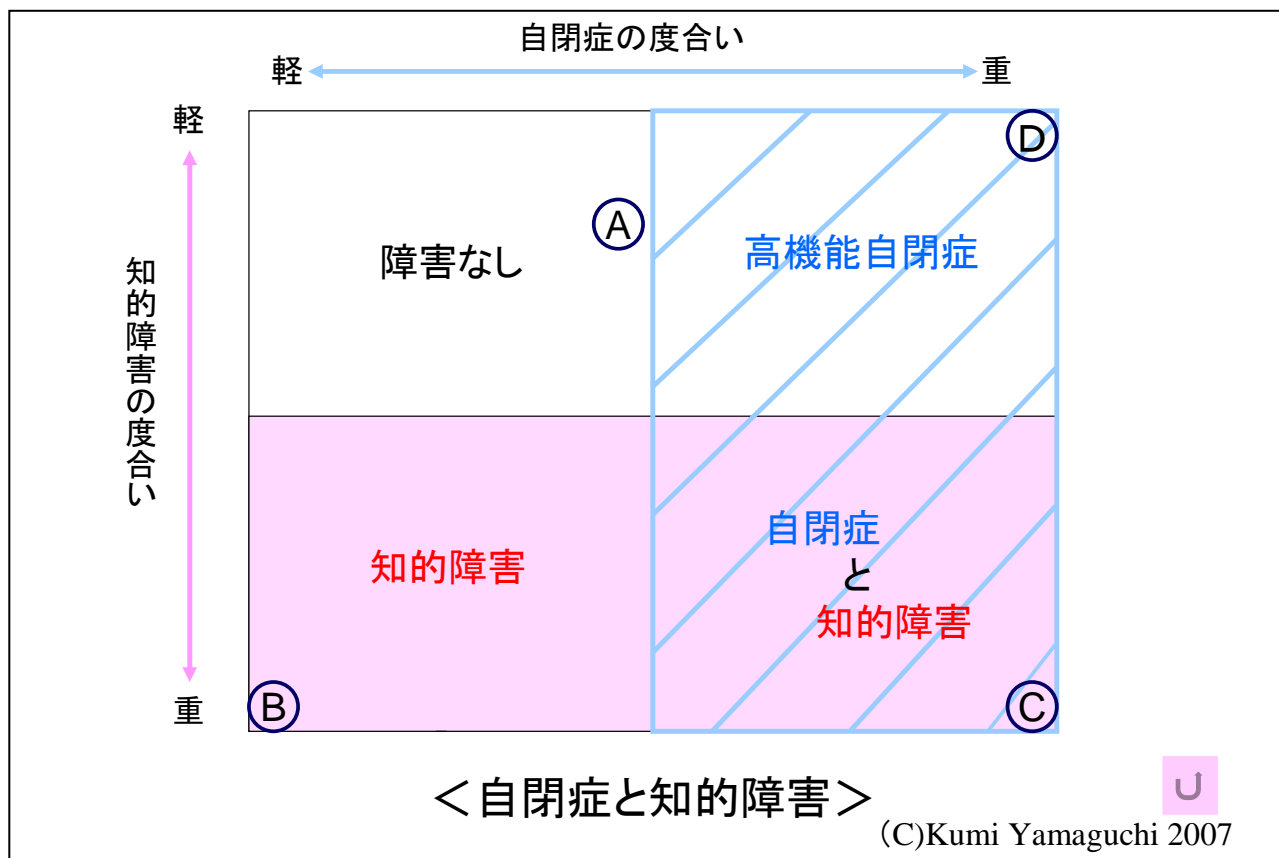




## 可視光スペクトラム



(C)Kumi Yamaguchi 2007



## 脳の器質的・機能的な障害

- 脳の欠損あるいは機能障害が推定される
- 物理的な障害とおなじように  
できないことがある  
苦手なことがある
- 「治せ、服しろ、普通になれ」  
は無理な注文

(C)Kumi Yamaguchi 2007

## その苦手なことは？

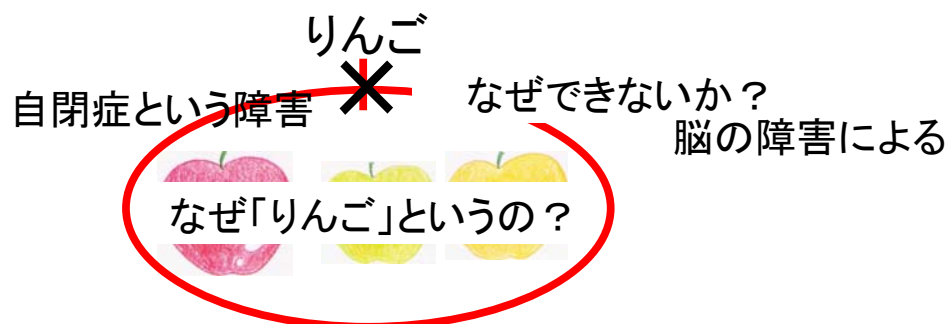
- 抽象的な**概念**や思考を理解することが難しい
- →社会的な仕組みを理解しにくい  
常識・法律・ルール・モラル・  
約束事・みんなで決めたこと
- すべて、「**意味**」があって行われていること
- その「意味」が理解できにくい



(C)Kumi Yamaguchi 2007

## 概念って？

- カテゴリー
- 例えば...



(C)Kumi Yamaguchi 2007

# 概念って？

くだもの 抽象的になれば  
なるほど 難しい  
自閉症という障害 ~~X~~



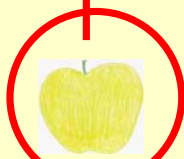
(C)Kumi Yamaguchi 2007

## りんご

りんご1



りんご2



りんご3



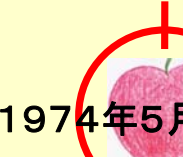
りんご4



りんご5



りんご6



自閉症の人たちの記憶や思考に合わせた支援が重要！

(C)Kumi Yamaguchi 2007

2008年1月8日

朝ねぼうした 

パニックになった



早くしなさい

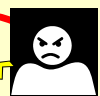
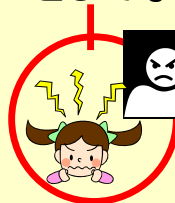


自閉症の人たちの記憶や思考に合わせた支援が重要！

(C)Kumi Yamaguchi 2007

イライラする

じっとしてなさいっ！



ぎっ！

ぱっ！

自閉症の人たちの記憶や思考に合わせた支援が重要！

(C)Kumi Yamaguchi 2007



## ものごとの意味

- 例えば・・・
  - あなたは今、なぜここで前を向いて座り、私の話をだまって聞いているのですか？
  - ○○だから・・・という「意味」の理解が難しいorできない
- どうなる？

(C)Kumi Yamaguchi 2007

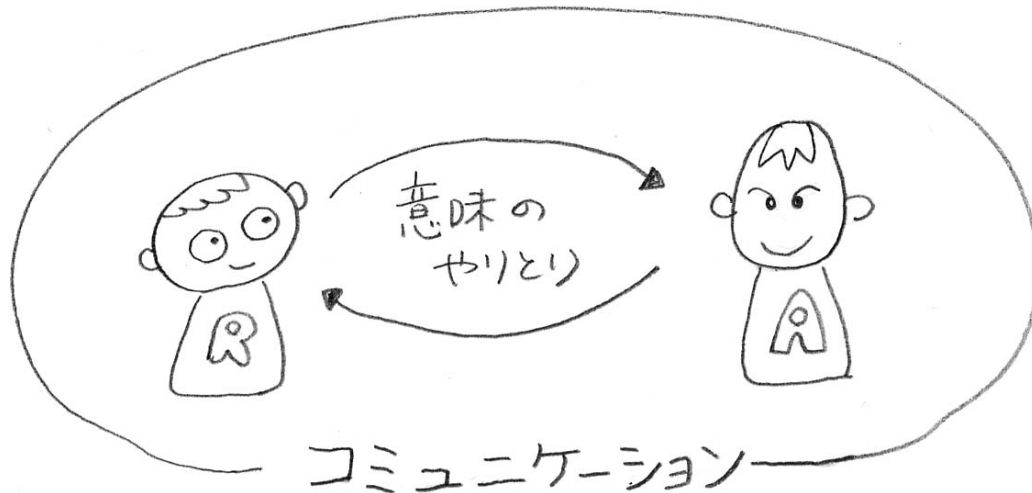
- 例えば・・・
  - 窓のところへ行って外を める
  - パ コンをさわりにくる
  - うろうろ歩き回る
  - 出ていってしまう
  - わーわー騒ぐ
  - 落ち着かない
  - などなどなど...



(C)Kumi Yamaguchi 2007

## 社会生活上もっともたいへんなことは コミュニケーション

- コミュニケーションとは？



(C)Kumi Yamaguchi 2007

## コミュニケーションの障害

- 言語の取り扱いの問題  
→ 耳から入ってくる情報
- 言語の社会的使用の問題
- コミュニケーションの意味の理解
- 抽象的な概念の理解ができにくいことによる  
コミュニケーションの難しさ

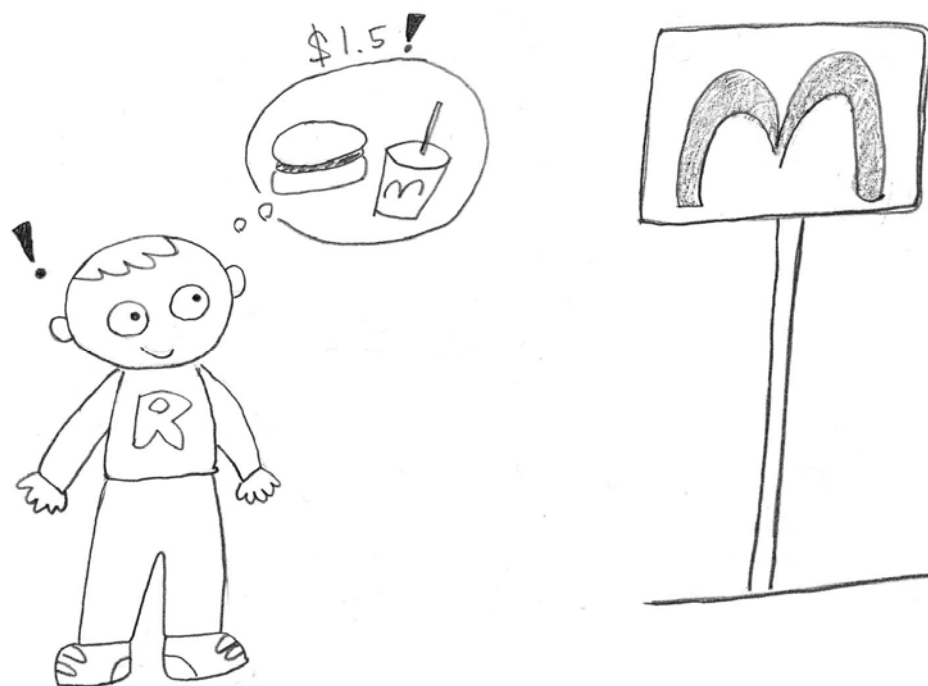
(C)Kumi Yamaguchi 2007

## コミュニケーションができない

- ということが人間に何をもたらすか
- →不安・ストレス
- →自己防衛

思い出してみよう！  
言葉の通じない世界の  
ストレスや不安

(C)Kumi Yamaguchi 2007



(C)Kumi Yamaguchi 2007



- 怖いことはしない、わからないことはしない
- 結果的に
  - 新しいことはキライ
  - 変化を望まない

(C)Kumi Yamaguchi 2007

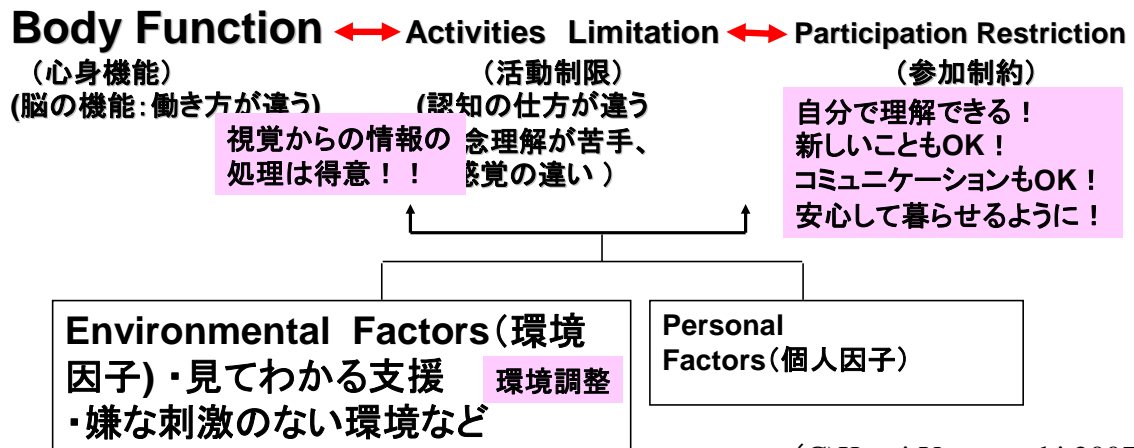
## 自閉症の人のコミュニケーション

- 意味理解の悪さ
- コミュニケーションは苦手
- できないわけではない
- なぜ苦手かを理解し
- どうやってカバーするかを考える
- 視覚優位
- →補うために、見てわかるように伝える

(C)Kumi Yamaguchi 2007

# 復習：自閉症のICF

Health Condition／健康状態  
(脳のなんらかの障害)



(C)Kumi Yamaguchi 2007

## 自閉症の人は

- 自分の困った状況を、ことばにして訴えることが苦手です
- 困っているということさえ、気づけない人もいます
- 彼らの訴えを、彼らの行動から読み取り、ニーズとしてとらえ、代 する役割を、私たちは担っています
- 行動援護は、彼らの自立を支援する大切な役割を担っているのです
- 彼らの障害特性、抱えている困難を「信じて」ください
- 信じられたとき、本当に必要な支援が見えてきます

(C)Kumi Yamaguchi 2007

# 自閉症の子どもたち

## ～バリアフリーを目指して～

これから自閉症協会作成DVDを視聴します

(C)Kumi Yamaguchi 2007

## 視聴のポイント

- 今日学んだ自閉症の障害や様々な特性が、実際の行動としてはどのように現れてくるか
  - ・行動 → 特性 → だからこの支援
- ひとりひとりが違うこと
  - ・登場するひとりひとりがどんな特性をもっているか
- 今日の演習では体感できなかった特性  
(例えば)
  - ・見え方  
(こんな所が見えている・すべてが見えてしまう)
  - ・音や声の聞こえ方

(C)Kumi Yamaguchi 2007



# 1日目 午後



## 発達障害の特性の理解

水野 敦之

NPO 法人それいゆ

それいゆ成人支援センター長

## 自閉症の理解と支援

### ～行動支援にむけて～

それ いゆ 成人支援センター 水野 敦之

## ゴール！！

- 自閉症の様々な特性について知る
- “困難さ”と“強み”、違いに注目する
- 自閉症の特性に関する解説シートを2日目、3日目の演習の中で活用できるようにする

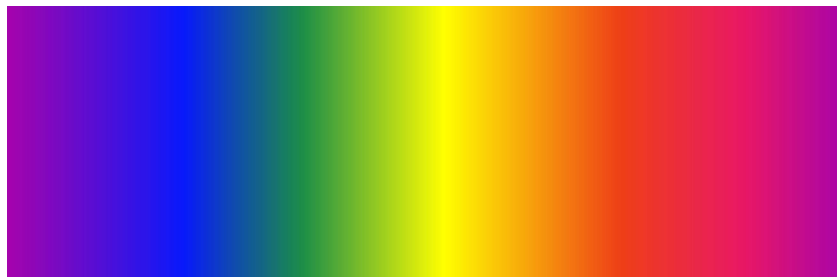
## 自閉症の3つの障害領域

DSM-IV, ICD-10 etc...

- ①対人関係や社会性の質的な障害
- ②言語・非言語性コミュニケーションの質的な障害
- ③想像思考、限局的(狭い)興味関心や常同的、固執的な行動

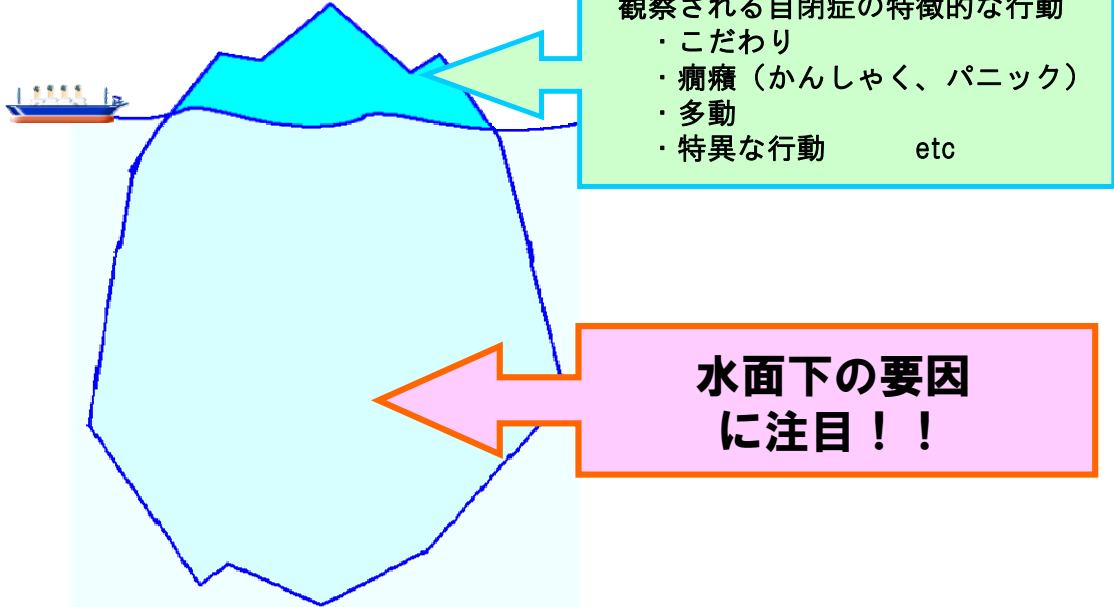
**困難さ！強み！ 違いに着目！**

## 自閉症スペクトラム



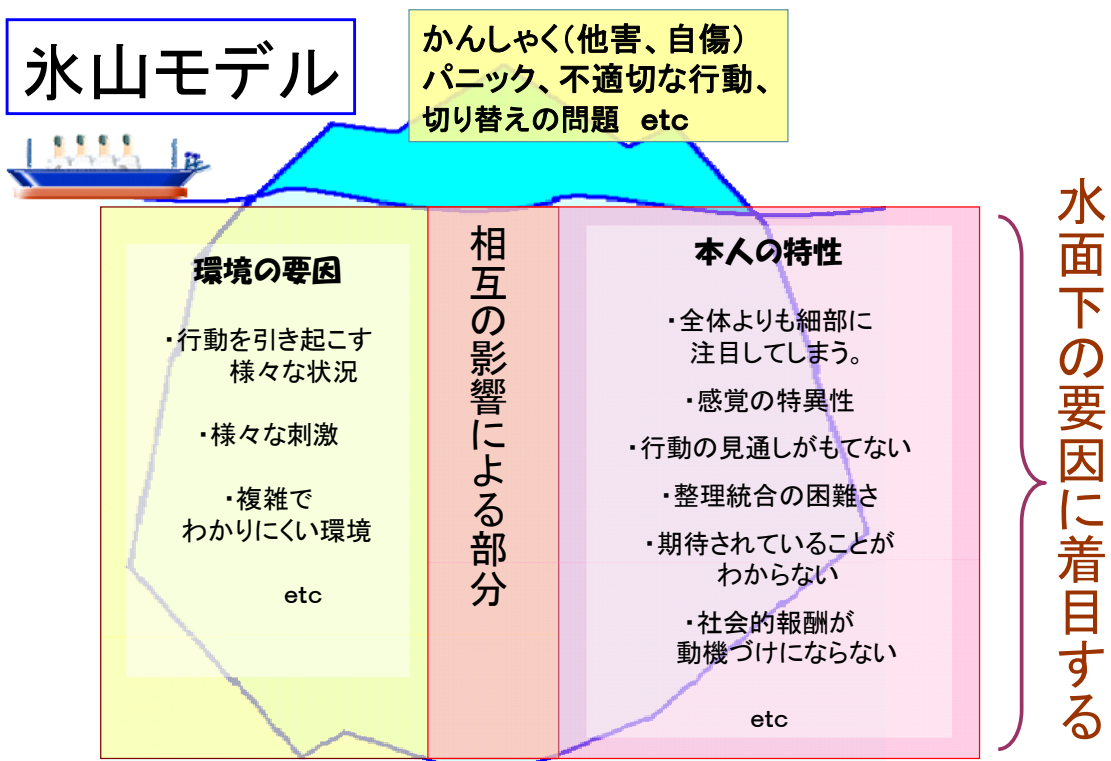
**個別のアセスメントと指導・支援が必要！**

# 冰山モデル



参考文献：自閉症の人たちを支援するということTEACCHプログラム新世紀へ（朝日新聞厚生文化事業団 2007）

# 冰山モデル



参考文献：自閉症の人たちを支援するということTEACCHプログラム新世紀へ（朝日新聞厚生文化事業団 2001）



## 冰山モデルによる支援

**冰山の一角（行動）よりも水面下の要因に着目する。**

### 行動支援の場面では...

- 環境の要因からくる様々な行動（混乱、  
、自傷、他害 等）
- 本人の特性による様々な行動（混乱、実行することの困難さ、誤解）
- その相互的な影響による様々な行動、誤学習

### 支援計画に向けて

- 冰山モデルを意識した長期、短期、現場での支援計画をたてましょう！
- 様々な利用者が見せる様々な行動は冰山の一角にすぎません。
- 水面下の要因に着目しましょう！
- 環境面や本人の特性を十分にアセスメントをして、その要因を考えた上で支援計画を立てみましょう！

## 情報・コミュニケーションの特性

# 自閉症の障害は？

- 自閉症は**脳**の障害です
- 自閉症は**情報処理**の障害です。

## 脳の情報処理

情報を**キャッチ**する

- ◆ **耳**からの情報
- ◆ **目**からの情報
- ◆ **鼻**からの情報
- ◆ **口**からの情報
- ◆ **皮膚**からの情報

情報の**発信**

- ◆ **話す**
- ◆ **移動する**
- ◆ **手で持つ**
- ◆ **食べる etc**

処理に私たちとの違いをもつ

情報に対する優先順位をたてることの困難さ  
複雑な情報処理の特性

- 情報を無視する働き
- 情報を選択する働き
- 複数の情報を整理処理する働き

**個々の情報処理の特性に着目！**

〔コミュニケーションとは〕

- 発信（表出コミュニケーション）
  - メッセージを伝える。（私が伝える）
- 受信（受容コミュニケーション）
  - メッセージの理解（あなたのメッセージが分かる）
- 社会的相互交
  - メッセージを伝え合う

## 1. 相手からのメッセージの理解の困難さ (受容コミュニケーション)

- 言語性・非言語性コミュニケーションの困難さ
- 字義通り理解する
- 相手の言葉の細部に着目してしまう

★ 視覚的な情報に強い(視覚優位)→活用する

補足: 文脈による理解→理解のアセスメントについて

## 本人にあった視覚情報を活用する

- 具体物
- 写真
- 絵、図
- 単語
- 文章
- 色や形、記号等



写 真



具体物

文字

きゅうしょく

文章

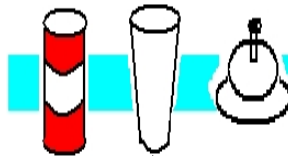
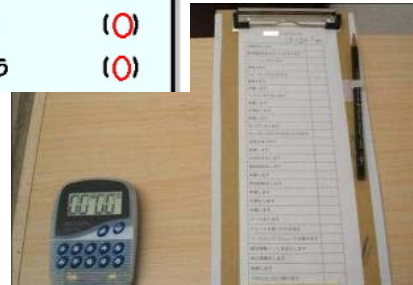
体育館に行きます

# スケジュール（予定の視覚化の利用）

## 様々なタイプのスケジュール



2月10日	
かおあらい	(○)
きがえ	(○)
ごはん	(○)
がっこう	(○)



## 1. 相手からのメッセージの理解の特性

### 個々にあわせて具体的に情報提供（提示）

#### 行動援護の場面では...

- 指示が理解できない。(何処にいくの？ 何をしたらいいの？)
- 支援者の指示の多さにより理解できない情報がある→わからない、混乱、恐怖
- 見通しがもてなくて混乱する。

#### 行動支援に向けて

- 本人が理解できる形態の情報で伝える。  
→ 具体物,写真,絵,単語,文等 その他...モデルの提示、見本の提示、ジェスチャー
- たくさんの情報をいっぺんに伝えない。(本人にあわせた情報量)
- 声のかけ方も個別化  
→ たくさん話すより適切な分量、本人の理解にあわせて、不必要な人もいる
- 抽象的なもの。絵にしにくいものは理解が難しい  
→ イメージしやすい具体的な内容で伝える。情報提示

## 2. 相手に気持ちを伝えることの特徴 (表出コミュニケーション)

- 意欲的(自発的)にコミュニケーションを使うことが少ない。
- 自分の気持ちを伝えられないことでの混乱・不安
- 文脈 存:場面や人が変わると使えなくなることも(般化の問題) 例:お家で伝えられて、新しい場所では伝えられない。
- ジャーゴン 反響言語
- 独特なイントネーション
- 独特な言葉選び

## 代替コミュニケーションの活用

具体物・行動(動作)・写真・文字・文 等

## 2. 相手に気持ちを伝えることの特性

### 様々な形で気持ちを伝えます











#### 行動援護の場面では...

- 自分の気持ちを伝えられないことによる不安、混乱。
- 時には ・自傷・他害などの手段で気持ちを伝えます。
- 本人の発している言葉が本人の気持ちとは限りません。

#### 行動支援に向けて

- 様々な表出コミュニケーションの(=メッセージを伝える)形態があります。  
**具体物・行動(動作)・ジェスチャー・写真・文字・文 等**
- 代替コミュニケーションを容認してください。(情報は親御さんがもってます)
- 本人の状態をよく観察して、状態をイメージしてください。(行動にメッセージが)
- ・パニック・自傷・他害には、その要因とメッセージがあります。
- 反響言語等をそのままうけとらないでください。

## 3. 感覚の特異性

	<b>聴覚</b>	音が苦手 耳ふさぎ	
	<b>視覚</b>	光、蛍光灯が苦手 薄目、サングラス	
	<b>嗅覚</b>	私たちと同じように 感じていない	
	<b>味覚</b>	私たちと同じように 感じていない	
	<b>触覚</b>	服の素材によって いと感じる方も	

### 3. 感覚の特異性

## 環境整備で工夫 + 自己回避

#### 行動援護の場面では...

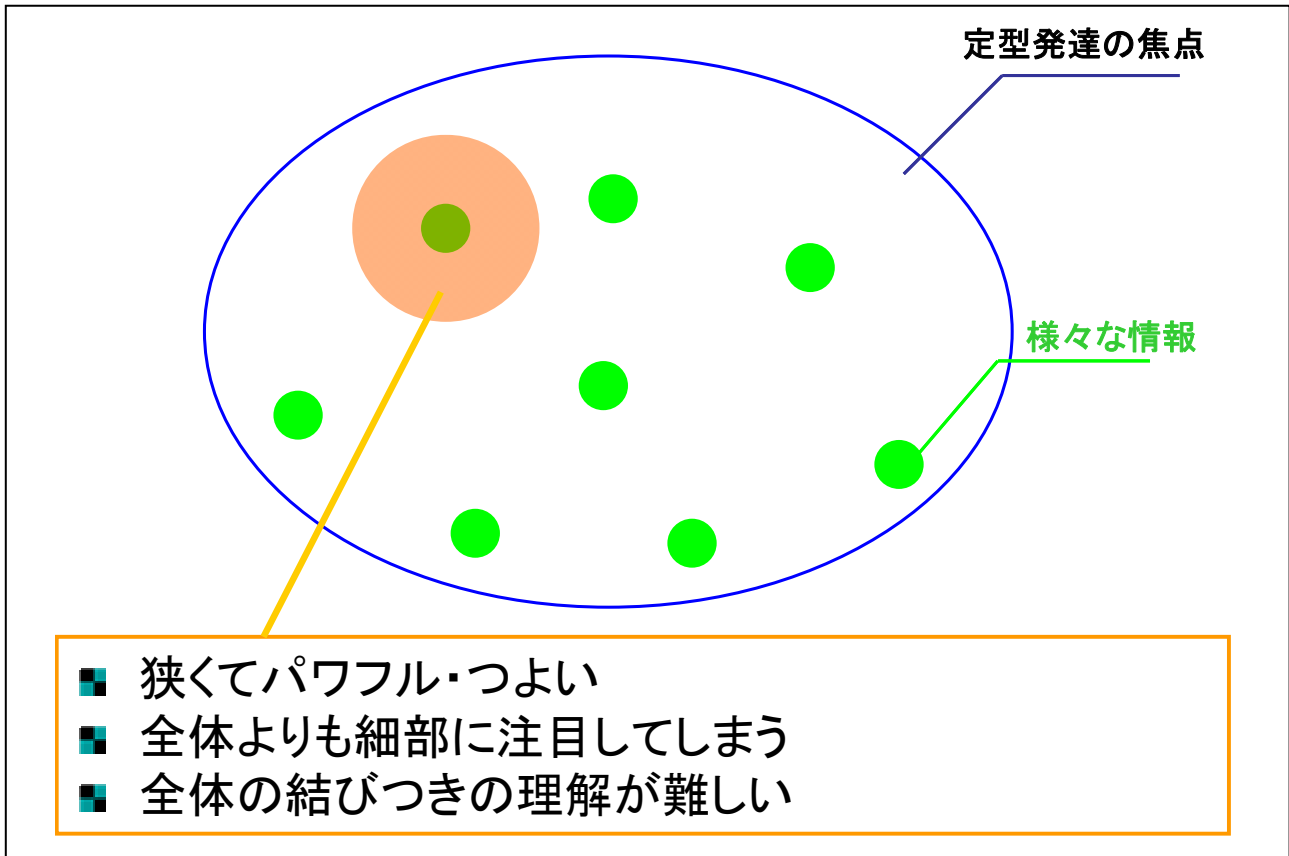
- ・ 様々な刺激により、不安、混乱等を起こす場合があります。
- ・ 感覚の問題
  - 聴覚刺激: 街のざわめき、自動車、機械等、人の声
  - 視覚刺激: 蛍光、人の動き、光の らめき
  - 嗅覚刺激: 部屋の臭い、車の臭い、食べ物
  - 触覚刺激: 一部の服が着られない、服を脱ぎだす子
  - 味覚刺激: 苦手な食べ物がある

#### 行動支援に向けて

- ・ 感覚は えたり、慣れさせるものではありません。
- ・ 刺激の統制の工夫(サングラス、ヘッドホーンなどの利用)
- ・ まずは配慮、環境整備の工夫が必要です。
- ・ 本人の行動をよく観察してください。
- ・ 自己回避、自己防衛への支援も。

全体よりも細部に注目する特性





## 4. 転導性(、衝動性)

- 様々な刺激に影響をうけて(次から次に)突き動かされて行動してしまう。
- 落ち着きがなく見える
- 注意注目の困難さ。

### 刺激(情報)に影響を受けやすい

刺激になっている情報を  
なんらかの方法で統制する

今やるべき行動を  
明確に指示する

影響を受けている刺激を遮断して、自立活動を支援



視覚刺激→仕切り、間接照明

聴覚刺激→防音

触覚刺激→エアコン

e t c

**物理的構造化**

影響を受けている刺激を遮断することで必要な情報に注目しやすくする。

#### 4. 転導性・衝動性 その1

### 刺激の統制→環境設定、環境整備

#### 行動援護の場面では...

- ・ 刺激に影響を受けて、混乱したり、行動の遂行が困難になったりします。
- ・ 急に何かに強く反応した行動
- ・ 落ち着きがなく見える行動
- ・ ウロウロ、いろいろなことに注目します。

#### 行動支援に向けて

- ・ 刺激を少なくするための環境の工夫(物理的構造化)
- ・ 地域にあるもので環境整備
- ・ 本人の刺激の影響にあわせて場所の選択を行う。
- ・ 各場面ごとに、緊急時のカームダウンする場所を考えておく。

影響を受けている刺激を遮断することで必要な情報に注目しやすくする。

# 次の活動に移り難い (スイッチが難しい)

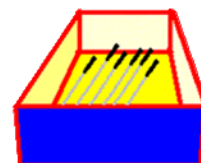
スケジュールの利用・工夫



個々の特性にあわせたスケジュールのタイプ

## 終わりの提示が大切

- ○時○分まで
- タイマーがなるまで
- 材料が無くなったらおしまい
- 次の活動の提示まで 等



## 4. 転導性・衝動性 その2

### 終わりの提示と次の活動の提示 見通しを伝える支援→スケジュール等

#### 行動援護の場面では...

- ・ 次への行動の切り替えが難しい。
- ・ 見通しをもった行動が難しい。

#### 行動支援に向けて

- ・ 本人にあった明確な終わりを伝える。
- ・ 具体的に今、何をするのかを提示する。
- ・ 本人にとって意味のある形で、(視覚的に、本人の理解、量にあわせて)
- ・ 本人にあわせて、より整理した状態で、より明 に

## 整理して考えることの困難さ

～時間・空間の組織化、総合的な判断の難しさ～

- 時間を整理して考えることの困難さ
- 空間(場所、材料)を整理して考えることの困難さ
- 時間や物事の変更
- 分析し総合的に判断することの困難さ  
(全体よりも細部をみる)

## 5. 時間の整理統合することの困難さ

- ・予定、行程などの計画を立てることの困難さ
- ・変更したり、調整したりすることの困難さ

## 5. 時間の整理統合することの困難さ

### 予定、変更を伝えるスケジュール等の活用

#### 行動援護の場面では...

- ・活動(予定)の見通しがもてない。
- ・活動に移ることが難しい。
- ・混乱したり、不安をしめしたり。
- ・日課の変更への対応が困難

#### 行動支援に向けて

- ・活動予定や行程などを視覚的に提示。
- ・1つ1つの活動の終わりを明確にする。
- ・終わったら何があるのかの提示。
- ・日程の変更も視覚的に伝える

## 6. 空間の整理統合の困難さ

(場所・物の整理統合の困難さ)

- ・ 場所(空間)を多目的に使うことの困難さ
- ・ 空間を整理しながら使うことの困難さ
- ・ 自動的に境界をイメージできることの困難さ
- ・ 様々な用具、材料などを整理しながら遂行することの困難さ(例:調理での器具、食材の整理)

**1つの場所に複数の活動があると混乱  
(情報処理の問題)**

曖昧な場所の設定

例:多目的に利用・不明確なエリア

## 6. 空間の整理統合の困難さ

### 環境の設定 材料や物の整理

#### 行動援護の場面では...

- ・どこで座ったり、活動するのが自動的にわからない。
- ・カームダウンする(落ち着く)場所がわからずに外に飛び出す。
- ・様々な活動の準備や活動開始の難しさ。

#### 行動支援に向けて

- ・1つの場所をあまり多目的で使わない。(1つの場所は1つの活動の設定)
- ・休憩(カームダウン)スペース、緊急時の避難エリアの確保。
- ・椅子やマットなどで具体的場所を提示する。
- ・物・材料の置く場所等を具体的な提示。(物を置く場所も固定)

## 7. 変化の対応の困難さ

- ・いつも同じは得意ですが、いつもと違うのは苦手です。
- ・場所、人、予定、習慣になっているものの変化に対して不安や抵抗をしめす。

## 7. 変化の対応の困難さ

**いつも同じは得意ですか、いつもと違うのは苦手です！**

### 行動援護の場面では...

- ・日程の把握が難しい＝見通しがもてないことに混乱、不安
- ・急な変更に対応できない。

### 行動支援に向けて

- ・本人に予告が必要です。(本人にあわせた情報提供で)
- ・見通しを持たせるちょっとした工夫。終わりの提示
- ・変更の視覚的提示。(スケジュールの活用)
- ・急な変更をできるだけ避ける。

## 8. 般化の特性：

般化しすぎる



般化できない

**構造化が般化を支援**



## 8. 般化の特性

### 構造化が有効！ 1場面1場面丁寧に！

#### 行動援護の場面では...

- ・ 支援者によって、本人の行動が違う。
- ・ 場面によってできている行動が違う。

#### 行動支援に向けて

- ・ 1つの場面のできるからといって、本人が般化できているとは判断しない。
- ・ 1場面、1場面丁寧に伝える必要がある。  
(1から10を覚らせるのはやめる)
- ・ 状況を見て理解するのではなく、指示を見て理解する。

## 記憶の特性について

## 9. 記憶の維持の困難さ

- 短期に記憶したことの記憶の維持が困難
- 自分がとっている行動を継続して記憶できない。(作業記憶の維持の困難)

### 記憶を維持する手だてが必要

→スケジュールカードの移動

→リマインダーの利用

## 9. 記憶の維持の困難さ

### 視覚的な物を活用 リマインダーの活用

#### 行動援護の場面では...

- ・ 遂行中の行動を忘れてしまう。
- ・ 一時的な記憶の維持が困難

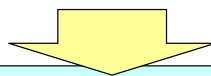
#### 行動支援に向けて

- ・ 視覚的なもの(スケジュールや手順書などの利用)
- ・ リマインダーの利用

## 10. 長期記憶の特性

### フォトグラフィックメモリー＝ 写真で撮ったように記憶する

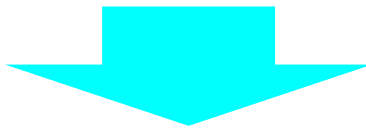
- ・ 間違った行動はそのまま記憶
- ・ 間違った指導もわすれない
- ・ やり直しの指導はやり直したまんま覚える



- ・ 視覚的な支援
- ・ 成功体験が重要

## ルーティンで学ぶことがうまい！！ (慣れ親しみによって学ぶ)

- いつも一緒に得意！
- 習慣化して覚える。



しかし一日全部を  
ルーティンで伝えて良いの・・・??  
答えは ！ダメ！

## 10. 長期記憶の特性

### 成功体験で伝える 構造化の活用

#### 行動援護の場面では...

- ・同じ間違いを繰り返す
- ・変更・修正が難しい

#### 行動支援に向けて

- ・失敗から気付かせるのではなく、成功体験をつみかさねる
- ・成功体験のために→手立て、本人にあわせた情報提供
- ・活動の日程は、視覚的な予告＝スケジュールで伝える。
- ・変更の視覚的提示。

## 11. 相手の気持ちを想像すること、状況理解の困難さ

- 「暗 の了解」がわからない(K )

## セオリ・オブ・マインド(心の理 )

- その場の状況をつかんで、瞬時に相手の気持ち、人間関係をつかむのが困難。

## 11. 相手の気持ちを想像することの困難さ

### 具体的な情報提供（暗黙の了解を押し付けない）

#### 行動援護の場面では...

- ・ 周囲の状態から相手の気持ちを想像することが困難
- ・ その場の状態にあわせた行動や周囲から期待される行動をとることが困難

#### 行動支画に向けて

- ・ 状況判断で伝えるのではなく。
- ・ 具体的に情報を伝えることが重要

# 構造化された指導

物理的構造化

スケジュール

ワークシステム

視覚的構造化

- ・ 視覚的指示
- ・ 視覚的整理統合
- ・ 視覚的明瞭化

ルーティンの活用

## 構造化とは？

### 自閉症のかたに

- ✚ 「いつ」
- ✚ 「どこで」
- ✚ 「何を」
- ✚ 「どのようなやり方で」
- ✚ 「どうなったら終わりなのか」
- ✚ 「終わったら、次に何があるのか」

→ 6つの情報を視覚的に伝える

### ① 物理的構造化

影響を受けている刺激を遮断することで  
必要な情報に注目しやすくする。

#### 行動援護の場面では...

- ・ 刺激に影響を受けて、混乱したり、行動の遂行が困難になったりします。
- ・ 急に何かに強く反応した行動
- ・ 落ち着きがなく見える行動
- ・ ウロウロ、いろいろなことに注目します。

#### 行動支援に向けて

- ・ 刺激を少なくするための環境の工夫(物理的構造化)
- ・ 地域にあるもので環境整備
- ・ 本人の刺激の影響にあわせて場所の選択を行う。
- ・ 各場面ごとに、緊急時のカームダウンする場所を考えておく。

## ① 物理的構造化

### 1つの場所は1つの活動 エリアの設定

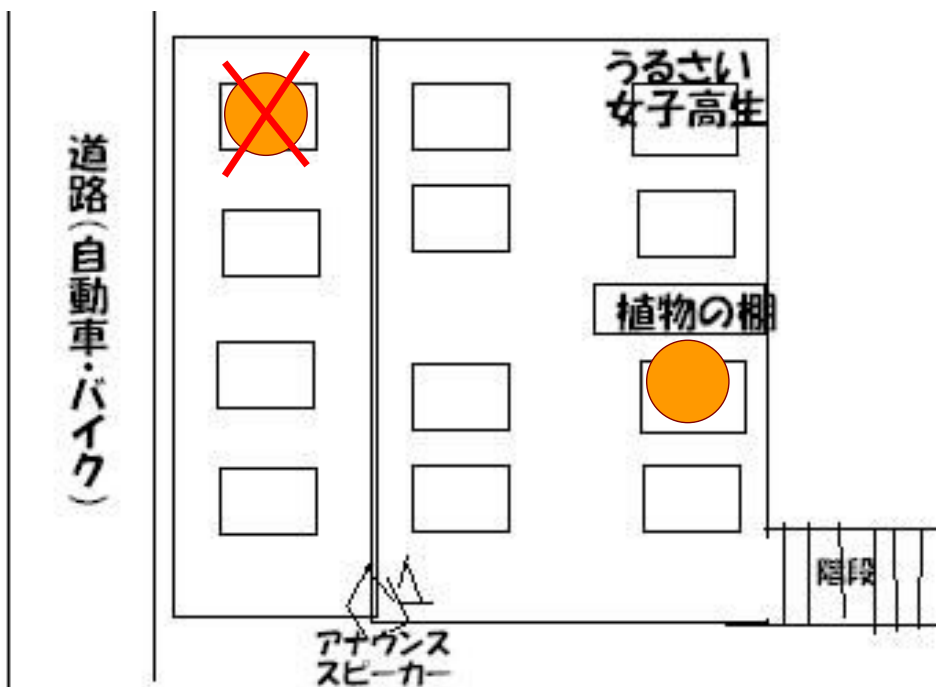
#### 行動援護の場面では...

- ・どこで座ったり、活動するのが自動的にわからない。
- ・カームダウンする場所がわからずに外に飛び出す。
- ・様々な活動の準備や活動開始の難しさ。

#### 行動支援に向けて

- ・1つの場所をあまり多目的で使わない。(1つの場所は1つの活動の設定)
- ・休憩(カームダウン)スペース、緊急時の避難エリアの確保。
- ・椅子やマットなどで具体的場所を提示する。
- ・物の置く場所を変えない(固定)

## 物理的構造化







### ③ ワークシステム

「何を」「どのくらい」「どうなった終わりか、」  
「終わったらなにがあるか」の情報を提示

#### 行動援護の場面では...

- ・ 活動の見通しが難しい
- ・ 次への行動の切り替えが難しい。
- ・ 見通しをもった行動が難しい。

#### 行動支援に向けて

- ・ 具体的に今、何をするのかを提示する。
- ・ 本人にあった明確な終わりを伝える。  
(どれくらいの量をするのか、いつ終わるのか)
- ・ 終わったら次に何をするのか

### ④ 視覚的構造化

個々にあわせて見える形でわかりやすく

#### 行動援護の場面では...

- 指示が理解できない。(どうしたらいいのか?)
- 指示に注目することが難しい(何に注目したらいいのか?)

#### 行動支援に向けて

- 本人が理解できる形態の情報で伝える。(視覚的指示)  
→ 具体物,写真,絵,単語,文、見本の提示、等
- 本人あわせて注目しやすくする。(視覚的明 化)  
→ マーキング、色の活用、不要なものを隠す
- 注目しやすく、頭で整理しやすく材料等を工夫する。(視覚的整理統合)  
→ 材料をまとめる。箱などを活用する。

## ⑤ ルーティンの活用

**いつも同じは得意を活用！！**

### 行動援護の場面では...

- ・ 支援が変わると混乱したり、前にできたことができない。

### 行動支援に向けて

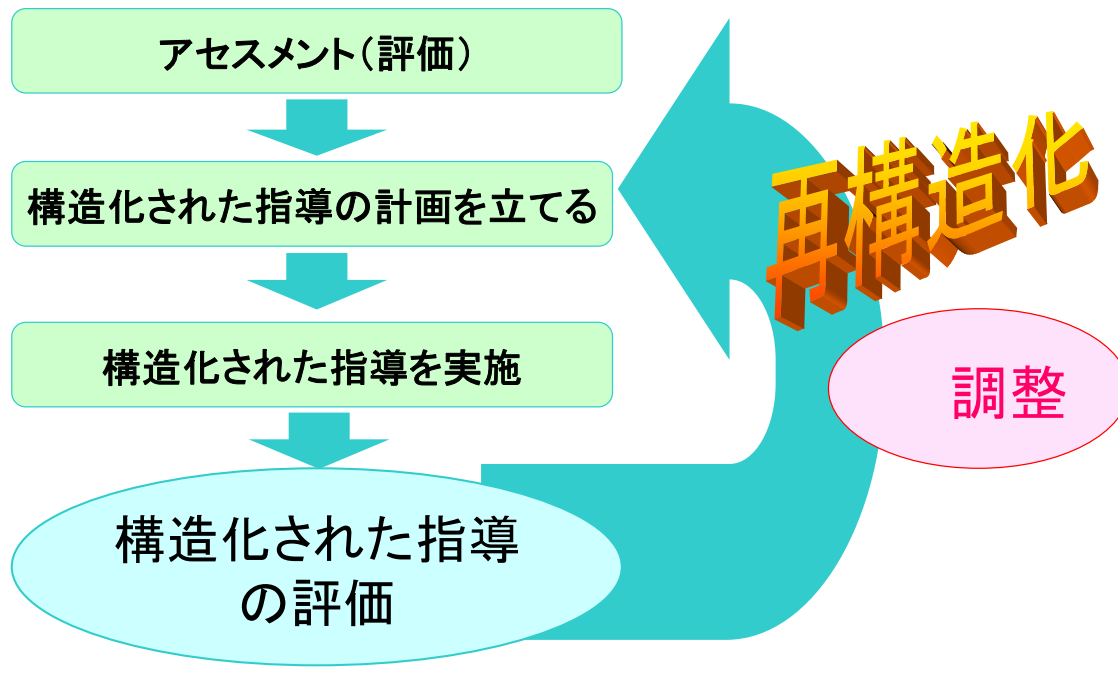
そこで・・・システムを習慣化して(ルーティン)を活用する

- ・ スケジュールやワークシステムの確認、システムをいつも同じ  
(1日の活動をルーティンで教えることはしない。変更に対応できない。)
- ・ 変更を伝える方法もいつも同じにする。

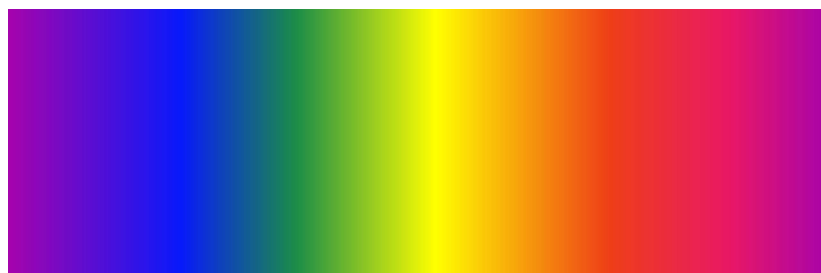
## 変更を伝える

- ・ 構造化の1つの大きな役割として、変更を伝えることがある。
- ・ 予定の変更、活動の変更、指示の修正

## 構造化の指導の基本的な流れ！！



## 自閉症スペクトラム



自閉症に理解と特化した支援  
個別のアセスメントと指導・支援



参考資料A：行動援護従業者のための自閉症の特性に関する解説シート(表)

20080203 (C) Atsushi Mizuno

特性の解説		チェック・ポイント	行動援護の場面で想定される行動	支援の指針	構造化等のアイデア	
情報・コミュニケーションの特性	1. 相手からの情報・メッセージをキャッチ(理解)することの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手からのメッセージや情報を理解するの困難さ。</li> <li>言葉の理解の困難さ。</li> <li>情報が多いことに起こる混乱。</li> <li>★視覚的な情報に対する優位さ。(視覚につよい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな情報ならば理解できるのか</li> <li>理解できないための混乱や不安</li> <li>非文脈でのアセスメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示がわからないことにより行動への移行が難しい。</li> <li>指示や周囲で起こっていることが理解できないことに起こる混乱や不安の行動に。</li> <li>言葉どおりに解釈して裏の意味をとれない(例、空気を読む)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人が理解できる形態の情報で伝える。(文字、絵、写真、具体物等)</li> <li>あまりたくさんの情報をいっぺんに伝えない。</li> <li>イメージしやすい具体的な内容で伝える。</li> <li>抽象的なもの。絵にしにくいものは理解が難しい→具体的にわかりやすい情報提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュール(予定の視覚的な提示)</li> <li>視覚的構造化(見てわかりやすくする)</li> </ul>
	2. 相手に気持ちを伝えることの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分からコミュニケーションしようとするのが困難。</li> <li>周囲の状況に左右される。</li> <li>相手にとってわかり難いメッセージ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どうやって自分の気持ちを伝えているのか(形態:行動、具体物、写真、文字、言葉) ジャーゴン、反響言語</li> <li>場面(文脈)によって、コミュニケーションの状態が違う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動や具体物などで自分の気持ちを伝える。</li> <li>パニックや自傷他害で自分の気持ちを伝える。</li> <li>反響言語(相手の言葉の反復や同じことばを繰り返す。コマースナルなどのことばを繰り返す)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人にあった代替コミュニケーションの活用。例えば写真つきメニューやメニューサンプルのあるお店を活用。</li> <li>行動面を観察して、本人が伝えたい内容をつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なコミュニケーションスキルの活用(カードコミュニケーション等)</li> </ul>
	3. 感覚の特異性	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚刺激に対して私たちとは違いをもつために過敏だったり鈍感だったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>五感の敏感さ、鈍感さ</li> <li>視覚刺激(蛍光灯、人の動き等)</li> <li>聴覚刺激(機械音、音声等)</li> <li>触覚刺激(一部の服が着れない等)</li> <li>味覚刺激(苦手な食べ物等)</li> <li>嗅覚刺激(部屋の臭い等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>五感の鋭敏さ、鈍感さによる反応や無反応</li> <li>視覚刺激→避けたり、目で隠したり等</li> <li>聴覚刺激→耳ふさぎ、大きな声等</li> <li>触覚刺激→服まくり、服脱ぎ等</li> <li>味覚刺激→苦手な食べ物等</li> <li>嗅覚刺激→部屋に入れない等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備・環境整理(刺激の統制)</li> <li>本人にあった場所の選択(例:刺激がすくない場所)</li> <li>配慮が必要</li> <li>サングラス、ヘッドホンの使用</li> <li>できれば自分で回避する方法があった方がプラスチックを回避しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理的構造化(刺激の統制)</li> </ul>
全体よりも細部に注目する特性	4. 転導性・衝動性	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な刺激に影響をうけて(次から次に)突き動かされて行動してしまう。</li> <li>注意注目の困難さ。</li> <li>★一度注目向けると継続的に集中しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心が激しく移り変わる。</li> <li>急に1つのことに突き動かされる。</li> <li>注目しなくてはいけない部分に注目できない。注目しなくていい部分が気になってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着かない行動。</li> <li>ウロウロとアッチコッチに動き回る。</li> <li>街の中で急に飛び出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人が突き動かされている刺激を少なくする。</li> <li>環境整備・環境整理(刺激の統制)</li> <li>配慮が必要</li> <li>安全の確認と支援</li> <li>注目して欲しい部分(例えば、活動予定)を明確に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理的構造化(刺激の統制)</li> <li>スケジュール(予定の視覚的な提示)</li> <li>視覚的構造化(見てわかりやすくする)</li> </ul>
	5. 時間整理統合の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の予定を計画したり、変更したり、理解したりすることが困難。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を理解することの困難さ</li> <li>次の活動がわかっていても、全体活動の見通しが難しい</li> <li>活動の変更が困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動(予定)の見通しがもてない。</li> <li>活動に移ることが難しい。</li> <li>混乱したり、不安の反応をしめしたり。</li> <li>日課の変更が困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動予定や行程などを視覚的に提示。</li> <li>1つ1つの活動の終わりを明確にする。</li> <li>終わった後何があるのかの予告。</li> <li>日課の変更も視覚的に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュール・ワークシステム(活動予定、行程、終わった後の内容の視覚的な提示)</li> <li>タイマー等の利用</li> </ul>
	6. 空間整理統合の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所を多目的に使うこの混乱。</li> <li>物や材料を整理しながら活動をすすめることの困難。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの場所で、いくつかの活動をすることが難しい</li> <li>自分で準備して、整理して活動を進めるのが難しい(例:調理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこで座ったり、活動するのが自動的にわからない。</li> <li>様々な活動の準備や活動開始の難しさ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの場所をあまり多目的に使わない。</li> <li>休憩(カームダウン)スペースの確保。</li> <li>椅子やマットなどで具体的場所を提示する。</li> <li>物の置く場所等の具体的な提示。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理的構造化(1つの活動は1つの場所の設定、境界の明確化)</li> <li>視覚的整理統合</li> </ul>
	7. 変化の対応の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつも同じが得意ですが(★)、場所、人、予定、習慣になっているものの変化に対して不安や抵抗をしめす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ活動の繰り返しは得意</li> <li>活動予定(日程)の変更が難しい。</li> <li>物や人の位置などへのこだわり</li> <li>ルーティン(習慣化)を維持しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日程の変更で混乱、不安の行動。</li> <li>支援者が変わると混乱する</li> <li>いつもとは違う道順だと混乱する。</li> <li>スリッパなどの置き方にこだわって動けなくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いつも同じが得意」つまりルーティンを活用する</li> <li>視覚的に活動予定、支援者等の予告が必要。</li> <li>変更も視覚的に提示する。例えば写真カードを入れ替える。</li> <li>こだわりは活用する。こだわりかたを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュール(予定・変更の視覚的な提示)</li> <li>視覚的構造化(指示の修正)</li> </ul>
8. 般化の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの場所でできていることが、違う場所で応用できにくい。(般化しにくさ)</li> <li>人や場面と活動を結びつけて学んでしまう。(般化しすぎる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>違う場所で応用できにくい。(般化しにくさ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家でできていることが、外出中にできない。</li> <li>支援者が変わるとできたことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一場面、一場面丁寧に教える。</li> <li>システムのルーティンの活用</li> <li>視覚的なものは般化を助ける。(システムの活用)</li> <li>場面によってできなくなっていくことを想定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュール</li> <li>ワークシステム</li> <li>視覚的構造化</li> <li>その他のシステムの活用</li> </ul>	



参考資料：行動援護従業者のための自閉症の特性に関する解説シート(裏)

20080203 (C) Atsushi Mizuno

特性の解説		チェック・ポイント	行動援護の場面で想定される行動	支援の指針	構造化等のアイデア
記憶の特性	9. 記憶の維持の困難さ (個人差がある)	・短期に記憶したことの記憶の維持が困難 ・自分がとっている行動を持続的に記憶できない。(作業記憶の維持の困難)	・指示されたことを忘れる。指示の理解の困難さ。 ・移動途中で何処に行っているわからなくなる。	・視覚支援の活用。 ・リマインダの活用。	・スケジュール(移動タイプ) ・視覚的指示の活用
	10. 長期記憶の特性	・一度覚えたこと(経験したこと)が消えない、忘れない特性。 ★一度正しい方法も学ぶとそれを継続するのは得意。	・失敗経験も記憶もそのまま忘れない。 ・フラッシュバック ・同じ行動の繰り返し。	・できるだけはじめから成功体験で伝える。 ・そのために具体的な提示する。 ・視覚的に提示する。 ・フラッシュバックを起こす要因の除	・視覚的構造化(指示、修正)
	11. 相手の気持ちを想像すること、状況理解の困難さ	・空気が読めない。 ・その場の状況をつかんで、瞬時に相手の気持ち、人間関係をつかむのが困難である。	・セオリー・オブ・マインド(心の理) ・メタ認知 ・その場での状況判断の困難さ	・状況を判断できずに をおこす。 ・周囲の空気を読んでない暴言 ・相手と自分との気持ちの違いに気づかない。	・なんらかのトラブルによって不安定になった場合は、まずは落ち着くことが優先。 ・後、視覚的に状況を伝えるとわかる場合もある。

★…得意な部分、強み、活用できる部分

参考資料B：自閉症バリアフリーとしての構造化のアイデアの解説シート

20080203(C) Atsushi Mizuno

構造化のアイデア	解説・目的	関係する主な特性	個別化する時のポイント	行動援護の中で工夫・ポイント	
物理的構造化 (環境の工夫)	環境を整えることで自立を げる刺激を統制する。(必要な情報に注目しやすくする)	刺激に影響を受けやすい。感覚の特異性。	人、または場面によって影響を受ける(もしくは受けない)刺激の範囲は異なる。(どのくらいの統制で活動に注目できるか)	静かな環境を選んだり、パーティションの変わりになるようなものは地域の中にあり活用できる。(例えば、フーストフードならば棚など。講演ならば 根)	
	場所と活動を1対1の設定にする(1つの活動を1つの場所)ことで、その場所で期待される活動を明確にする。	複雑な情報処理の困難さ。	人によっては、多目的な場所の活用がある程度可能。しかし、休憩する場所などは、別に用意した方が障害特性にあっている。		
スケジュール (活動日程を視覚的に提示)	視覚的に「いつ」「どこで」「何を」の情報を伝え、見通し、変更を伝える。	時間の整理統合。見通しの持ちにくさ。変更への対応の困難さ。	視覚化のタイプ(具体物、写真、単語、文)。スケジュールで提示する量。形態。個別化が必要。	インターネットや事前の調査で写真などを調達する。パンフレットやガイドブックも活用。	
ワークシステム (活動とその終わり等を視覚的に提示)	1つの場面で、いくつかの活動を提示するときに活用。「何をするのか」「どれくらいするのか」「どうなったら終わりか」「終わったら次に何があるのか」の情報を伝える。	時間の整理統合。見通しの持ちにくさ。終わりが理解できことによる不安や混乱。	視覚化のタイプ(色、数字、リスト等)。提示する量。形態。個別化が必要。終わりの提示の仕方も個別化する。	ボーリングやカラオケの終わりの提示。(付 などを活用)	
視覚的構造化	視覚的指示	本人にとって理解できる指示で具体的に提示する。	曖昧な情報だとわかりにくい。視覚的優位。	視覚化の (具体物、写真、絵、図、文字、文、線等)	物の位置。修正の情報。禁止ホント。
	視覚的明 化	指示をよりわかり易く明 にする。	注意・注目の困難さ。	強調させる工夫も個別化(マーキング等)	色テープ等を活用。蛍光の付 。
	視覚的整理統合	自分で準備をしたり、整理したりすることの困難さを補う。	空間や物を整理して考えることの困難さを。	ボックスの利用、材料の配置を指示する。	ボックス、袋、様々な容器の活用。
ルーティン(の活用)	慣れ親しんだシステムをいつもつかうことで理解を補う。(注意) 活動全体は習慣化して教えない(それはスケジュール等を活用)	般化の困難さ。ルーティンで覚える。変化への対応の困難さ。	それぞれのルーティンを個別化 ルーティンを形成するときの教え方、支援の方法。(手添え、モデル提示、ジェスチャー、言葉)	初めての活動は少し補助を強め、少しずつ自立に。	





## 2日目

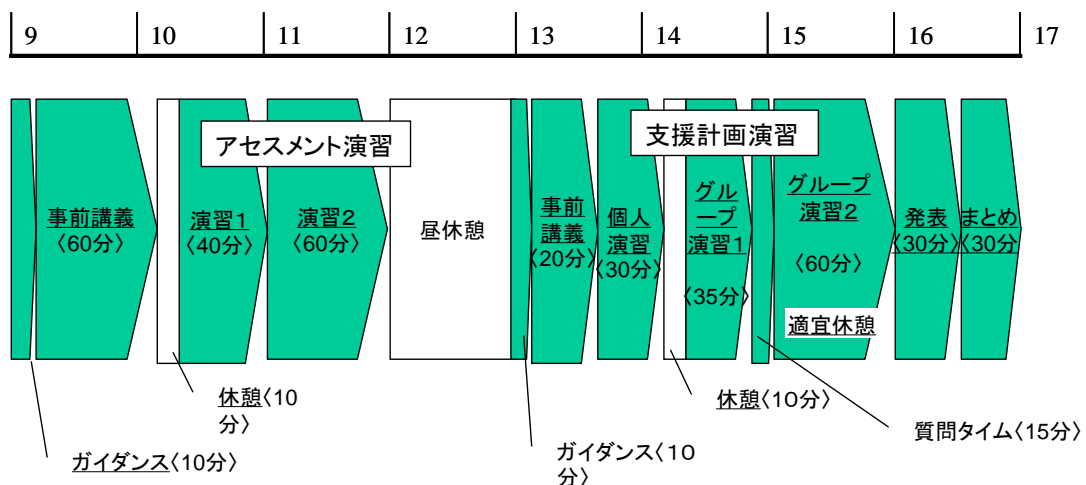
# 行動援護の技術

- I-1 アセスメントの実際（講義）
- I-2 アセスメントの実際（演習）
- II サービス改善プラン（講義&演習）

安井 愛美

サポートセンターぴっころ代表

## 2日目 本日の予定(流れ)



## 行動援護の技術 I-1

- この時間は行動援護の技術 I。アセスメントの方法を学びます。
- 事例を通してアセスメントを実際に体験していただき、適切な支援を提供するためには、アセスメントが重要であることを理解していただきたいと思います。
- また、併せて適切なアセスメントのためには、障害特性の理解が欠かせないということも学んでいただきたいと思います。

# 事前講義

9:10~10:10(60分)

アセスメントの実際

## 理解してほしいこと

1. アセスメントとは何かを理解する
2. アセスメントの必要性を理解する

- 社会福祉の実践に、アセスメントは欠かせません。
- しかし、医療などの分野と違い、介護(ケア)や支援(サポート)の仕事は必ずしも専門家でも行うことが可能であるために、愛情や思いやり比べ専門性の高さは重要視されないことがあります。
- 愛情や思いやりだけでは、本当の支援にならないことを知り、アセスメントの必要性を理解していただきたいと思います。

(受講生が、アセスメントの必要性を理解し、実践につなげる意欲をもつことをこの時間の目的とします。)

## 1. アセスメントとは何か

- (1) 事前に行うアセスメント
- (2) 関わりながら行うアセスメント

- まず始めに、そもそもこの時間のテーマである「アセスメント」とは何かを解説していきたいと思います。
- テーマは2つです。
- (1)アセスメントとは何をすることなのか
- (2)アセスメントはいつする仕事なのか

## (1) 事前に行うアセスメント

### アセスメントのイメージ

サービスを利用したいんです



どんなことにお困りですか  
(アセスメント・利用者理解)



月に〇〇時間行動援護を利用しましょう  
(ケアプラン・支援計画の作成)

- 一般的なアセスメントのイメージはこのような感じではないでしょうか。

### 事前に行うアセスメント

- サービス開始前に
- サービス提供責任者やケアマネージャーのような役割の人が
- 情報を収集する

**一般的なアセスメントのイメージ**

- サービス開始前に、どんな目的で、どれくらいの量の、どんなサービスが必要かを理解するために行われる情報収集もアセスメントです。
- とても重要な仕事です。
- この情報をもとに、ヘルパーのマッチングや初回利用への計画が立てられていきます。
- このような仕事はヘルパーには直接関係ないように思えます。
- しかし、これはアセスメントの一部分です。

## さあ、どうしますか？

- Aくんは自動販売機の前を通ると必ずジュースを買おうとします。
- 今日はもうジュースをたくさん飲んでいて、お小遣いも残っていません。
- 活動も終了して、あとは帰宅するだけです。
- ところが、自動販売機の前を通ってしまいました。

- では、どこでアセスメントとヘルパーの仕事はつながっていくのでしょうか。
- ヘルパーは日々このような場面に遭遇します。
- その都度、このような出来事を適切に乗り切らなければなりません。
- あなたなら、どうしますか？

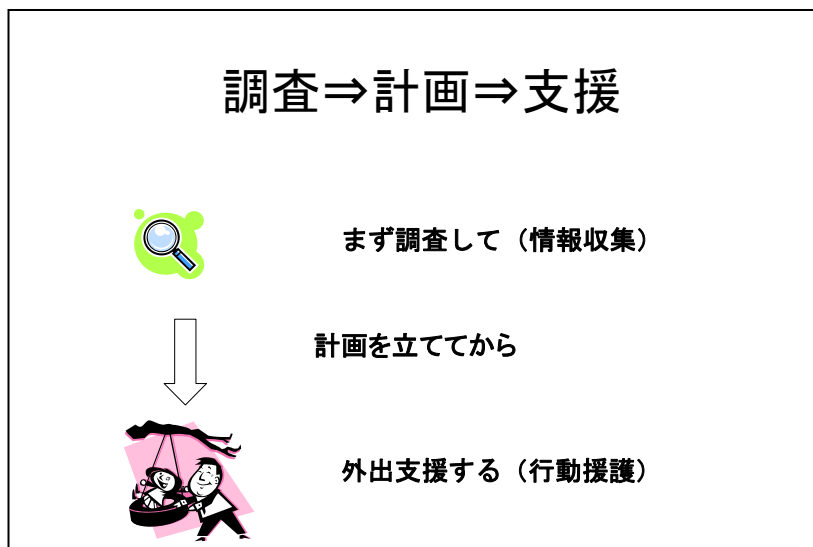
## アセスメントと支援計画

例えば、

- 自動販売機の場所を予め調べておく
- 散歩ルートを決めておく
- 活動のスケジュールを決めておく
- 予想外のことが起きたときの対応を考えておく

というような準備が大切です。

- 行動援護では、予想外の出来事が起こる可能性が室内よりも高いと言えます。
- ですから、どうしても「ヘルパーの力量」＝「機転がきく」とか、場合によっては「力でなんとかする」というようなことをイメージすることになりがちです。
- しかし、そうではありません。
- アセスメントを有効に計画に活かすということが、何より重要な仕事であると気づくべきです。
- 実は、丁寧な外出計画がとても大切です。



- 初対面の利用者と外出するのに、何の情報もなしに、「2時間どこかで過ごしてください。」と言われたら、ヘルパーとしてはとても困ると思います。
- 予め、「公園が好き」「プールが嫌い」「犬が苦手」「自動販売機を見るとジュースを買う」「お腹が空くと泣くことがある」などなど、外出するにあたり、知っておきたい情報はたくさんあります。
- あるいは、この外出は楽しむことが目的なのか、社会のルールを学ぶことが目的なのか、この2時間は家の都合でどうしても出掛けていないと困るのか、早目に切り上げて帰宅してもよいのか、サービス利用の文脈によって、サービスの組み立ては変わってくることもあります。
- ただ、漠然と「外で遊ぶ」ということだけでは、たいていの場合は失敗に終わります。ヘルパーは失敗だったと気づいていなくても、長い目で見たときにはあまり良い体験になっていないこともあるのです。
- 集めた情報を有効に使うためには計画に反映するという手続きが必要です。
- まず調査して、計画を立てて、そして外出する。この手順がとても大切です。
- アセスメントをしていないと、計画さえも立ちません。外出先で何かが起こっても機転を利かせるくらいしか、対処方法がなくなってしまいます。それでは、あまりにも危険です。

## (2) 関わりながら行うアセスメント

### 関わりながら行うアセスメント

- サービス利用中に
- ヘルパーが
- 情報を収集し、分析し、統合していく

**これが重要！**

- 職場(支援者)の共通理解へと発展させる

- サービス利用中にヘルパーが行う利用者理解の過程もアセスメントです。
- このようなアセスメントは関わりながら行い、更にはサービス終了後職場の共通理解のためにも必要です。
- これは、サービス終了後(事後)の評価となりますが、次回のサービスから見ると事前の評価とも言えるわけです。

### 情報からの利用者理解

- 犬が嫌い

- オートバイを怖がる

- 入浴後ドライヤーで髪を乾かそうとすると泣き出したり逃げたりする

**音かな？**

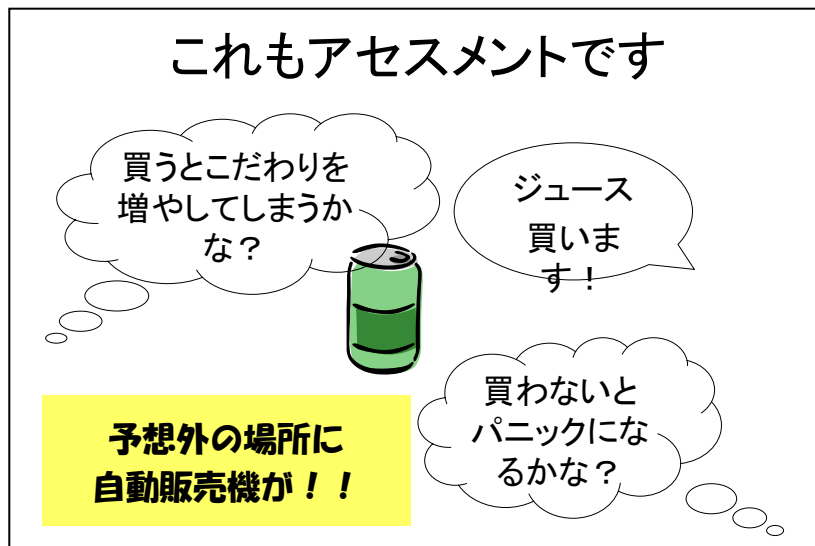
- しかし、情報はたくさん集めれば良いということでもありません。
- 「犬が嫌いなんだって」「オートバイが怖いらしいよ」「ドライヤーをかけると泣くんだった」という情報はいくら知ってもきりがありません。この情報からどんなことが推察できますか？
- ここで、もし「あれ？音に関係あるのかな？」と気づくことができると、「飛行場の近くは嫌いかも」「スピーカーの傍だと落ち着けないかな」などと理解が深まっていきます。
- たくさん情報を入手することよりも、入手した情報をどう分解し、つなぎ合わせ、計画に盛り込むかが大切です。

## 理解のための情報

利用者を <b>理解</b> する	音が気になると 落ちつけない
情報を <b>統合</b> する	音が苦手？
情報を <b>分析</b> する	なぜ嫌うのかな？ なぜ怖がるのかな？ なぜで泣くのかな？
情報を <b>収集</b> する	犬が嫌い オートバイが怖い ドライバーで泣く

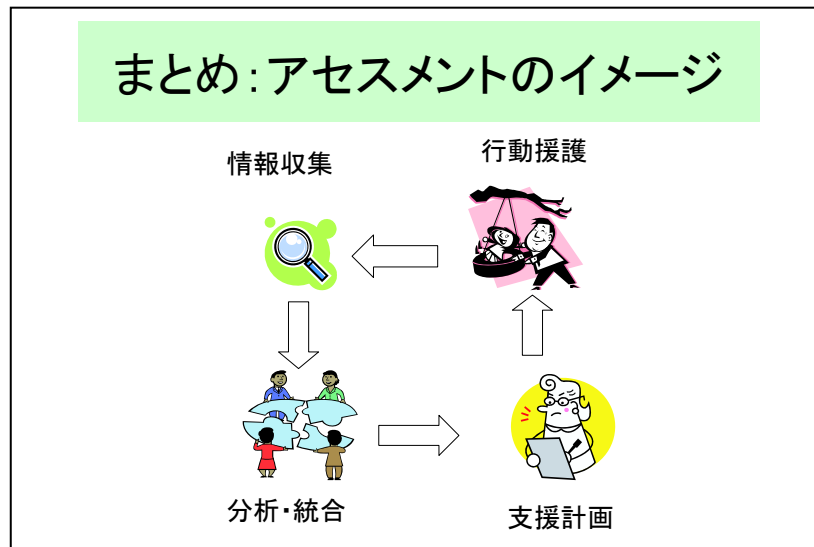
- つまり、アセスメントは情報収集することではなく、利用者を理解することが目的なので
- ですから、「事前に理解すればよい」という話にはなりません。
- 利用者は日々変化しますし、事前に知りうる情報量には限りがあります。実際に支援していくと、必要となる情報が増えることも考えられます。
- アセスメントは事前に終わる種類のものではないのです。

## これもアセスメントです



- ここでジュースを買うことで、またこだわりを増やしてしまうかもしれません。
- ここでジュースを買わないことで、大パニックになってしまうかもしれません。
- Aくんに関する情報だけでは、すぐに適切な方法が見つからないことがあります。
- しかし、ヘルパーの日々の仕事は、このような場面に適切に対応することです。
- 何を優先すべきかを自分で考えなければならないのです。





- アセスメントは主に事前評価など日本語訳されていますが、実際には事前の評価と言うより、利用者に会うたびにより正しく利用者を理解していく過程がアセスメントのイメージになります。
- 情報を収集するだけでなく、集めた情報を細かく分けて、更につなぎ合わせて理解することが重要です。
- そうして行われる利用者理解が、支援計画に反映されていきます。
- 支援計画を作るという意味では、アセスメントはサービス提供責任者の仕事ということになるのかもしれませんが、利用者の行動をきちんと理解できるヘルパーがいることは、利用者の立場から考えると大変心強いものだと思います。
- また、実際にサービス提供場面では、ヘルパー自身が状況判断をし、関わりの手立てを選択し、実践しなければなりません。また、実践で得られた情報が、次回の関わりのためのアセスメントになっていきます。
- その現実を考えると、アセスメント(利用者理解)の力は、本来はヘルパーにとっても必須条件ということになります。

## 2. アセスメントの重要性

- (1) アセスメントしない支援の危険性
- (2) 見立て違いの支援の危険性

- 次にアセスメント本当に必要なのかどうかについて考えてみます。
- しばしば現場では、「先入観があると新しい人間関係を作るのに邪魔になる。」「関わればわかることだから事前の情報はそれほど必要ではない。」というような声を聞きます。
- このような考えは、経験に基づいているのでしょうから、ある場合には正しい考えなのかもしれませんが、行動援護というサービスを考えた場合には、事前の情報が必要でないという考えは、危険性が高いことを理解する必要があります。
- ここでは、アセスメントなしの支援の危険性と、アセスメントがうまく行かなかった場合の支援の危険性について考えてみたいと思います。

### (1) アセスなし支援の危険性

- アセスメントをせずに支援する場合の弊害はいろいろありますが、ここでは大きく2つのことをとりあげます。
- ①大きな事故につながる危険性
- ②自閉症という障害特性からくる誤学習の危険性

## ①大きな事故

- 排気ガスの臭いが大好きなAくんは、停車中の車の後ろにしゃがみこむことがよくあります。
- Bさんは、混乱すると、ガラスに突進して体当たりをします。

**危険予知・危険回避**

- ヘルパーが想定できる行動には限りがあります。
- 人によって、そのような行動は様々です。
- あまり危険な行動をとらない人もいれば、大変危険な行動を頻繁にとる人もいます。
- また、ある特定の条件が揃わなければそのような行動をとらないということもあります。(停車中の車がなければ、そのような危険な行動はとらない というように)
- 危険回避のために、危険を予知することは、とても大切な仕事です。危険予知のためには、事前の情報は大変大きな助けとなります。
- もちろん、混乱させないように支援することこそが行動援護ヘルパーのもっとも重要な役割です。

## ②誤学習させる危険

- 初めての公園でトイレの場所がわからなかったAくんは、すべり台の前でおしっこをしました。その後、Aくんはすべり台の前でおしっこをするようになりました。
- デパートの水洗トイレで水遊びを始めたBくんを、仕方がないと思いが済むまでやらせたら、その後デパートに行くとトイレに直行して水遊びをするようになりました。

**先入観なしの利点<危険性**

- 自閉症の人たちは、一度の体験がその後に大きく影響する特性があります。
- 誤って覚えてしまったやり方は消えないので、その後新しく正しいやり方を覚えた後も、最初に覚えた間違った方法を続けてしまうことがあります。
- こちらは1回くらいは大丈夫と思いがちですが、1回でも定着するのに充分だと考えるのが妥当です。
- 事前の情報がなくて知らなかったからと言って、誤ったやり方を学ばせることは、結果として本人の苦労を増やすこととなります。知らなかったでは済まされないことも多々あります。
- 行動援護の場合、事前情報で先入観を入れずに関わる利点よりも、事前情報なしで関わる危険性の方が遥かに大きいということを理解してください。

## (2) 見立て違いの危険性

- アセスメントが重要性は、情報を知っているということだけではなく、そこから一步進んでより正確なニーズを理解するところにあります。
- ニーズの読み違い(見立て違い)は、適切な援助に結びつかないどころか、二次障害を作ってしまうこともあります。

### ① ニーズと支援の食い違い

- Kくんは養護学校の寄宿舎で、食事のとき頻繁に泣きます。
- Kくんは自閉症です。

- Kくんにどんな支援が必要でしょう。
- アセスメントとは、このように「泣く」、あるいは「怒る」「不適切な行動をとる」というような表現でしか訴えることができない利用者の「困っていること」や「支援してほしいこと」を適切に理解する過程でもあります。
- 何故「泣く」のか理由がわからなければ、適切な支援はできません。

## Kくんの理解

- 多くのものが一度に目に入ると混乱しやすい
- うるさい場所では、落ち着いて食べることが難しい
- 始まりと終わりを理解するのが難しい

### A：障害特性からの理解

- 「寂しい」⇒家に帰りたい
- 「悔しい」⇒あの子より盛りが少ない
- 「悲しい」⇒大好きな先生が他の子の隣に座ってしまった

### B：一般的な理解

- Aは一般的な自閉症の障害特性です。
- 昨日の講義を思い出してください。
- 自閉症の障害特性を知らなければ、Bのような一般的な理解を優先することになります。
- 一般的な理解としては特に問題はないように思えますが、自閉症の人たちの困り具合とはかみ合っていないと言えます。

## A 見立てによって支援が変わる

- 自分のエリアがわからない
- どれを食べたらいいの
- 先生の指示が理解できない
- どうしたらいいの？

- トレイでしきる
- とりわけてあげる
- 静かな場所で食べる
- 「いただきます」「ごちそうさま」がわかるような工夫をする

- Kくんが自閉症であるために困っていることを考え、それに合わせた支援内容はこうなります。

## B 見立てによって支援は変わる

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 家に帰りたい</li> <li>• あの子より盛りが少ない</li> <li>• 大好きな先生が他の子の隣に座った</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 寂しくないように声をかける</li> <li>• 帰宅する日を教える</li> <li>• おかずを足してあげる</li> <li>• 慰める</li> </ul> |
|---|---|

- 見立てが変わると支援はこんなに変化します。

## 見立てによって支援は変わる

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• トレイでしきる</li> <li>• とりわけてあげる</li> <li>• 静かな場所で食べる</li> <li>• 「いただきます」「ごちそうさま」がわかるような工夫をする</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 寂しくないように声をかける</li> <li>• 帰宅する日を教える</li> <li>• おかずを足してあげる</li> <li>• 慰める</li> </ul> |
|--|---|

**A**

**B**

- AとBではかなり支援の内容が違います。
- Aの支援を必要としている人にBの支援を提供するのでは、支援になっているとは言えません。(もちろんBの支援を必要としている人にAの支援をするのも同じです。)

## ②二次障害の形成

- 食事場面で自分のエリアがわからないKくんは、よく人のおかずを食べてしまいます。そのたび注意されますが、何が悪かったのかよく理解できません。だんだん食堂に入ると、泣くようになりまして。そのうち、食堂の前の廊下を通ることができなくなりました。最後には、食事の時間が来ると、手を噛んで泣き叫ぶようになってしまいました。

### 作られる障害

- 見立てが違くと適切な支援が届かないばかりでなく、この不適切な支援が利用者に別の障害を持たせつことにもつながってしまいます。
- 自閉症の人たちの行動上の問題は、誤学習や、不適切な支援の積み重ねによって作られたものであると考えられます。

## 自閉症だから・・・？

- 手を噛むのは自閉症だから・・・？
- 泣き叫ぶのは自閉症だから・・・？



- 手を噛むほどの混乱がある
- 泣き叫ぶほどの理由がある

- アセスメントはとても重要です。
- 必要とされている支援が何なのかを理解しない支援は、支援になっていないどころか、時として利用者を苦しめることにもなります。
- だれも、利用者を苦しめるような仕事はしたくないはずです。
- 的外れな支援のせいで、利用者が手を噛むほど混乱したり、泣き叫ぶほど恐怖を感じたりするという事実を受け入れましょう。

## まとめ:アセスは関わる側の義務

危険回避のために  
誤学習回避のために  
適切な支援を提供するために  
二次障害防止のために

**利用者の困り具合に寄り添いたいなら**

- 利用者の立場に立った支援とは、利用者が本当に困っていることを理解し、そこに手を差し伸べなければなりません。
- 自分勝手な支援は、支援にならないばかりか、利用者を苦しめます。
- アセスメントを行うことは関わる側の義務なのです。

## 行動援護の対象者

- 自閉症で知的障害のある人
- 統合失調症などの精神障害のある人
- 行動面に困難を抱えている人



- 適切な環境調整のために障害特性を理解することが必要

- 行動援護の対象となる人たちは多くが自閉症で知的障害のある人です。また、現状では利用者が多くはありませんが、統合失調症などの精神障害のある人も含まれます。共通項は、行動面に困難を抱えている人であるということです。
- このような人たちの支援は、直接「行動を変える」ために本人にだけアプローチするということは、現実的でないこともあります。また、福祉サービスの得意とするところでもありません。むしろ、環境を調整することで、問題を解決するという手法が福祉サービスではスタンダードであると言えます。

しかしながら、直接本人にアプローチするにせよ、環境にアプローチするにせよ、困っているその人に何が起きているのかを理解できなければ、適切な支援方法は思いつきません。アセスメントは、環境調整のためにも必ず必要な仕事です。



## 行動援護の技術 I-2 アセスメントの実際 (演習)

- ここからは実際にDVDを見ながら利用者理解を深めていきたいと思います。

# アセスメント演習1

10:20～11:00

- アセスメント票1への書き込み  
行動を根拠に判断する  
判断の手続きを言語化する

## 演習の方法

- ヘルパーと利用者S・Tさんの外出風景をDVDで視聴してもらいます。
- S・Tさんの支援計画を作るために、アセスメントを行います。
- その結果をもとに午後の演習につなげます。

- 午前のアセスメントをもとに午後の演習につなげることを説明します。

## 演習1：行動を読む

- ① 予定を理解する
- ② ハンバーガーショップへ移動
- ③ 食べたいものを購入する
- ④ 食べる
- ⑤ 片づける
- ⑥ 自宅へ移動する

- 演習1は行動を根拠に状況を判断する練習です。
- アセスメント票1を確認しながら、課題の説明を行います。
- これから、S・Tさんとヘルパーの外出風景のDVDを視聴し、6 場面それぞれの利用者の印象(どのような状況に見えたか)を書いてもらうことを説明します。
- 受講者の中には普段から利用者の行動をていねいに読んでいる人と、自分の文脈で解釈しがちが人があると思います。行動を根拠にして状況を書くということの意味がわからない場合もあるので、丁寧に説明してください。

## S・Tさんのプロフィール

- 19歳
- 療育手帳A判定
- 行動援護の対象者

- ここで、S・Tさんの基本的なプロフィールを情報提供します。
- ここではプロフィールを配布せず、基本的な情報・年齢や療育手帳の判定行動援護対象者であることなど最低限のもの・を口頭で説明するほうがよいかと思われます。
- 本来は、映像からのアセスメントを重視したいのですが、自閉症支援の経験がない受講生の場合は、映像から知的障害の重さを理解できない場合があります。そのため、「行動援護の対象者である知的障害者」であるという情報はきちんと伝える必要があります。

## DVDの視聴

- ステップ1を通してみます(10分程度)

- DVDを通して視聴します。

## アセスメント票1への書き込み

- それぞれ書き込んでください

- ここでは、①行動を根拠に判断するということ ②根拠を言語化するということが課題となります。
- 経験のない受講者はかなり戸惑うことも予想されます。このような見方の経験がない場合、表現することがたいへん難しいと感じる人もいます。
- 講師は(場合によってはインストラクターは)戸惑っている受講者に積極的にアドバイスをしてください。普段からこのような見方を行っている受講生は時間が余るかもしれませんが、仮説をたくさん出すよう促してください。

## 基本的な理解

- 言葉を理解できていると感じましたか？
- 目的(ハンバーガーショップへ行く)を理解していると感じましたか？
- 喜んでいると感じましたか？

- 模範解答例を参考にしながら、共通理解したい見方をここで提示します。
- この時点で、言葉を理解できている、目的が理解できている、楽しんでいるという見方が妥当でないことを説明します。
- 「理解して楽しんでいた」と見えている受講者には、演習2を通して、違った見方ができるようになることを目標にしてもらいます。
- ほとんどの受講生がすでに目指すべき共通認識を持っている場合は、演習2でその根拠となる行動をていねいに拾っていくよう心がけます。
- 受講生の理解に差がある場合は、初心者に合わせた内容で進めますが、経験者が納得できる解説を行うことで、理解を深めるのに役立つよう心がけます。

# アセスメント演習2

11:00~12:00

- アセスメント票2への書き込み  
行動を根拠に利用者理解をする  
障害特性を根拠に利用者理解をする

## 演習2:障害特性からも読む

- アセスメント票2 利用者の頭の中
  - もう一度ビデオを見ます
  - 言葉理解が難しい人です
  - 言葉理解が難しいとすれば目的は理解できているでしょうか
  - 目的が理解できないとすれば楽しめているのでしょうか
- 
- 今度は場面ごとに見るポイントをしぼってアセスメントしていきます。
  - アセスメント票2の確認を行ってください。6枚(6場面)あります。
  - 課題の説明をしてください。課題は①利用者の台詞を考え(どのような状況にあるかの把握) ②根拠となる行動をあげる(ここまでは演習Iの復習) ③障害特性をシートを参考に根拠にそえる 3点になります。
  - ここから先は、作業と解説をバランスよくていねいに行ってください。ポイント解説→視聴→書き込み→解説
  - 多少誘導的になっても、この演習では模範的な共通理解がぶれないように導いてください。

## 場面①予定を理解する

- 情報を一度にたくさん処理できない
- 言葉の理解が難しい
- いつもと違う状況が苦手

などの障害特性を頭に入れて見る

- 場面ごとに視点を解説してからDVDを見る
- 場面ごとにDVDを止めてアセスメント票2(頭の中)を埋める
- その場で解説し、別紙を参考に模範解答的見解を示す

## 場面②ハンバーがショップへの移動

- 目的を理解していないとすれば
- 目的を達成するまで目的を覚えていられないとすれば
- ヘルパーの言葉の指示がわからないのだとすれば

- 視聴のポイントをしぼる

### 場面③食べたいものを購入する

- 言葉が理解できないとすれば
- たくさんの情報(刺激)を一度に処理できないとすれば
- 状況判断が難しいのだとすれば

- 視聴のポイントをしぼる

### 場面④食べる

- 状況判断が難しいとすれば
- 言葉ではない情報で状況を理解しているとすれば

- 視聴のポイントをしぼる

## 場面⑤片づける

- 自閉症の強みを考えましょう
- どんな力をもっている人たちなのでしょう

- 視聴のポイントをしぼる

## 場面⑥自宅へ移動する

- スタートした時との表情の違いに注目しましょう。

- 視聴のポイントをしぼる



## アセスメント結果の共有

- 喜んでいるように見えた⇒不安なのかもしれない
- ヘルパーの言葉がわかっている⇒わからないので通じていないかもしれない
- 目的を理解している⇒理解できなくて困っているのかもしれない

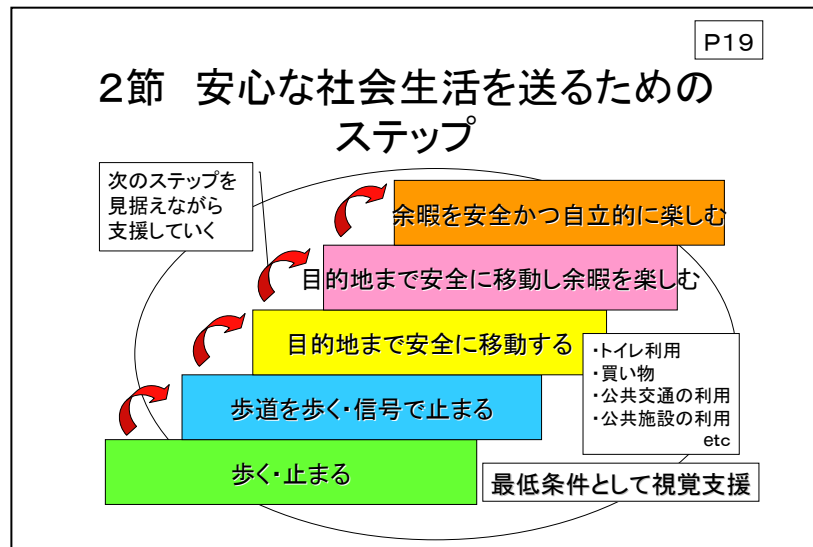
- 最初に喜んでハンバーショップへ行ったという印象をもった人が印象を変えられることが目標です。
- 印象が変わらなかった人には、これが正しい見方であると納得できなくても、知識として入れてほしいことを説明してください。障害特性を学ぶことで、違った見方もあることを理解してほしいことなど伝えてください。
- 最初から正しい見立て(アセスメント)ができていた受講生とは理解を共有できるよう心がけます。
- 午後にむけて①予定が理解できず ②不安で適切に行動できず ③困っている S・Tさん像を共有し、支援方法を考えていくという目的を確認してください。
- 場合によっては、午後の「強み」理解のヒントとなる見方まで解説してもよいと思います。受講生の理解度に応じたまとめを行ってください。

## 行動援護の技術Ⅱ サービス改善プラン(講義&演習)

### 事前講義 支援の実際について

行動援護  
OJTハンドブック参照

午前中にアセスメントした内容を受け、午後からは実際の計画を立てていくことを確認。  
実際に計画を立てる前に配慮して欲しい点、また日々の支援の中で配慮を要するポイントについての内容であることを確認する。



どんな人でも、いきなり安全に自立的に外出などを楽しめるわけではないということを強調。いくつかの行動がステップとして積み重なってはじめて外出という一連の流れが成り立っていることを確認。

またそのひとつずつのステップを丁寧に経験し、学ぶという過程が利用者には必要であることを確認。

そのステップの中には、例えば何気なくしている“道を歩く・止まる”というレベルまで含まれている。支援する側は、機会ごとに各ステップをどのような状況かということ进行评估していくことが必要である。

より安全で自立的な、また利用者が楽しめるような外出に向けて、上記のステップをしっかりと意識しながら、次のステップを見据えながら支援をしていくよう心がけていくことを確認。

また、その際、利用者が理解できるレベルでの視覚的な支援を考えるべきである。写真カードなどがあれば利用者にとって手がかりになるのか？もっと具体的な実物などを提示するほうがいいのか？更には、現場での指差しや身振りなどの視覚的な情報を使用し、過剰な言葉がけなどで利用者が混乱することを避け、理解できるだけの情報量を提供できているかどうか？に配慮する必要がある。視覚的な支援などを通して、利用者がよりスムーズに理解し、主体的に活動ができるように支援者は支援を組み立てることが必要である。

## 移動支援において支援する行為

1. 歩く、止まる
2. まつ
3. 選ぶ・買う
4. 乗り物に乗る(自動車、バス、電車など)
5. 降りる、乗り換える
6. トイレを利用する
7. 食事をとる
8. 予定を理解し自立的に行動する

このほか、休憩を適切に取る、水分補給をする、服薬する、着替えをするなどの支援も含まれます。

1.の歩くは後述する

2.“待つ”ということも、利用者にとっては何をしたらいいか？明確さがなくなり、不安になりやすい時間である。タイマーなどのタイムメーカーを使用し、どのくらい待つのか？待つ間どのようなことをしていたらいいのか？を示したり、順番がどのくらい先なのか？ということ視覚的に示すなど、具体的に利用者がどうすべきなのか？とるべき行動や目処を伝えることが必要である。

3.買い物に行き、商品を選び、お金をはらうなども、多くの行動が連なって成り立っている活動である。課題分析などをし、利用者がどの部分でどのように躓いているか？を把握し、適切な支援をする必要がある。選ぶことも意外に難しい場合が多く、商品が選べなかった場合、商品棚からいくつかの商品を出すような形で選択肢をいくつか絞って提示してみるなど、利用者が理解できる情報の量に絞っていくことも必要になってくる。

外でトイレを使用できるか？(洋式・和式、介助が必要な場合介助しやすいトイレがあるかどうか？、本人の理解の仕方はどうか？)、どういうタイミングでトイレに行くのか？トイレをどのように伝えるのか？なども、安全な外出をする上でとても大切なポイントである。

公共の交通機関、施設などの利用についてのアセスメントも大切。どんなところが使えるか？どのくらいの時間使用できるか？バスなどでは座席などのこだわりなどがないかどうか？それらに対して協力してくれる機関かどうか？など、情報を得ておくと、支援がよりしやすくなると思われる。またどのくらい乗車しているか？乗換えまで何駅かというような情報も知っていると支援の際便利。

P53

## 1. 歩く・止まる

- 歩道を安全に歩く
  - 縁石を歩かない
  - 車道に飛び出してしまう
  - 民家等にいたずらをしてしまう
- 速度を合わせて歩く
  - 走ってしまう
  - 溝やグレーチングに石を入れるなど(道草)
  - 座り込む・動けなくなってしまう
- 信号・横断歩道で止まる
  - 安全な場所で止まる

歩くということひとつ取っても、上記のような要素が含まれていることを確認。

また利用者の体力、移動をどのくらいの距離・時間、歩いて移動できるか？知っておきましょう。  
将来的に自分で車を運転したり、自転車を活用することが難しい彼らにとって“歩く”ということは、社会に参加をしていくためにもっとも大切な能力です。“手をつないで歩ける”ということだけがゴールになるのでは乱暴です。

してはいけないことをしてしまう時に、どのような視覚的な情報が有効か？ヘルパーがどのような位置に立って同行するのが適切か？確認する。

また何のために今歩いているか？という目的地などの提示をするなどして、ササッと目的地まで歩くためのモチベーションを保つための支援も必要。

P64

課題分析を使って評価してみよう

## 7. 食事をとる

- レストランで食事をする。
  1. 案内されるまで待つ
  2. いすに座る
  3. メニューから食べたいものを選ぶ
  4. 店員に注文する
  5. 食事が出てくるまで待つ
  6. 食事を(適切に)食べる
  7. お金を払い店を出る

どのようなお店を選ぶか？

混雑時に行くことになるのかどうか？それによっては予約をしておく必要があるかどうか？

テイクアウトなどができるお店か？利用者はそれを理解できるか？

なども大切なポイントです。

椅子に座って待つ場合、どのような行動をとるか？アセスメントしているといい。なかなかこない食事に対してイライラし、大きな声を上げたり、ロックンロールしたりする場合、座る席などの選定にも工夫が必要。

また、待つときにどのようなことをしていたらいいか？本を見る、ゲームなどをするなど、本人が落ち着いて一定時間座って過ごせる活動があれば、知っておくといいでしょう。

また食事中、他人のものを欲しがったりすることもあるが、どのように対応すべきか？いつでも人のものをもらえるというような理解につながり、食事の枠組みが分かりにくくなることも考えられるので、注意が必要。

また、自分ひとりが食べ終わったらすぐに帰れる、ということでもなく、同行の人たちが終わるまで適切に待つことも行動として求められる場合がある。

P69

## 8. 予定を相手に伝えてみましょう

- これから行うことを本人にわかる形で伝える
- 伝える方法は
  - 具体的なもので
  - 絵や写真で
  - 字で
  - ジェスチャーや言葉で
- 日本語のわからないアメリカ人の子どもに伝えるイメージで

本人に分かる形で、分かる量の提示を心がけましょう。

具体的なもので

「車のキーを見せる」・・・車に乗ってでかける

「洗面器を渡す」・・・お風呂に入る

絵や写真で

「ブランコの絵カード」・・・公園に行く

「電車の写真カード」・・・電車に乗って出かける

ジェスチャー

「泳ぐまね」・・・プールに行く

「下腹部を叩く」・・・トイレに行く

など、本人が日ごろから使用している表現方法、言葉、ジェスチャー、サインなどをそのまま使って伝えるのも有効な方法です。

また、スケジュールとして予定を示すことは、利用者側にも学習が必要です。視覚的に示したからと言って、すぐに何でも理解し、行動できるようになるわけではありません。すぐに理解できるレベルの方法を探し、日々の支援に結び付けて行きましょう。

# 個人演習

13:30～14:00(30分)

- 行動支援計画シートへの書き込み  
本人が見せる困難さ  
活用できる本人の強み等

もう一度DVDを見ます

- 午前中のアセスメント結果を思い出してください。
- 本人の見せる困難さは？
- 活用できる強みは？
- 個人で書き込んで見ましょう。

# 休憩

14:00～14:10(10分)

休憩後はグループ演習になります。  
机の移動をお願いします。



# グループ演習

14:10～17:00(170分)

- 行動支援計画シートの完成  
グループでの共有・質問内容の検討  
支援計画の完成

## グループですること

- 司会・記録・発表を決める
- 個人で書き込んだ内容を発表する
- 質問項目を考える

インストラクターの指示に従ってください

## 質問タイム

- グループごとに質問する
- 同じ質問は避けなるべく違う質問を

## 支援計画を作る

- シートを完成させる
- 発表の準備をする
- 16:00から発表

**インストラクターの指示に従ってください**

## 発表

- グループごとに発表

# まとめ

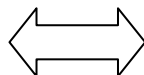
16:30～17:00(30分)

## ひとりひとりに合った支援

- スケジュールの提示方法はそれぞれ違う
- 通じない相手ではない
- 通じる方法を考えて関われば通じる相手
- 障害特性は困難という側面だけではない
- 困ったら場面ごとに細かく考える

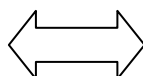
## 【アセスメント票1 第一印象】

場面①(予定を理解する)  
この場面のSTさんはどんな状況？



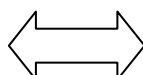
どの行動からそう判断しましたか？

場面②(ハンバーガーショップへ移動)  
この場面のSTさんはどんな状況？



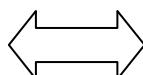
どの行動からそう判断しましたか？

場面③(食べたいものを購入する)  
この場面のSTさんはどんな状況？



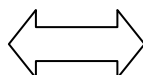
どの行動からそう判断しましたか？

場面④(食べる)  
この場面のSTさんはどんな状況？



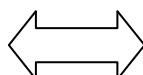
どの行動からそう判断しましたか？

場面⑤(片づける)  
この場面のSTさんはどんな状況？



どの行動からそう判断しましたか？

場面⑥(自宅へ移動する)  
この場面のSTさんはどんな状況？



どの行動からそう判断しましたか？

**【アセスメント票2 利用者の頭の中】**  
**場面（①予定を理解する）**

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性



※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

Memo

**【アセスメント票2 利用者の頭の中】**  
**場面（②ハンバーガーショップへ移動）**

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

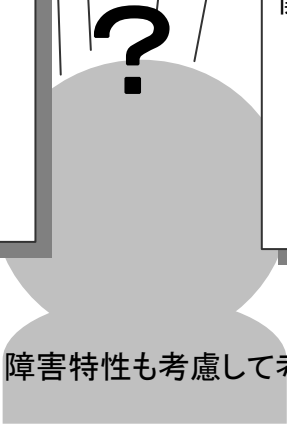
根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性



※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

Memo

**【アセスメント票2 利用者の頭の中】**  
**場面（③食べたいものを購入する）**

内容（ことばで）  
 根拠となる行動  
 関連する障害特性

内容（ことばで）  
 根拠となる行動  
 関連する障害特性

内容（ことばで）  
 根拠となる行動  
 関連する障害特性

内容（ことばで）  
 根拠となる行動  
 関連する障害特性

※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

Memo

## 【アセスメント票2 利用者の頭の中】 場面（④食べる）

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性



※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

Memo



**【アセスメント票2 利用者の頭の中】**  
**場面（⑤片づける）**

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性



※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

Memo

**【アセスメント票2 利用者の頭の中】**  
**場面（⑥自宅へ移動する）**

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

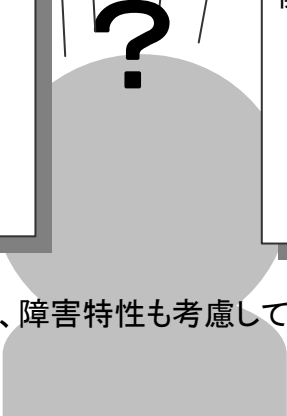
根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性



※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

Memo



2008年3月5日 行動援護従業者養成中央セミナーⅡ仕様

# 行動援護従業者研修 「進行マニュアル」2日目午前

## 【演習】アセスメントの実際

### も く じ

1. 演習(講義)のねらい
2. 本日の予定(流れ)
3. 演習の展開イメージ
4. 演習カリキュラムの概要
5. 演習の実施方法
  - － 「アセスメント」事前講義と演習のイメージ作り  
(演習説明とアセスメント理解の講義)
  - － 「アセスメント」演習1(アセスメント票1)
  - － 「アセスメント」演習2(アセスメント票2)

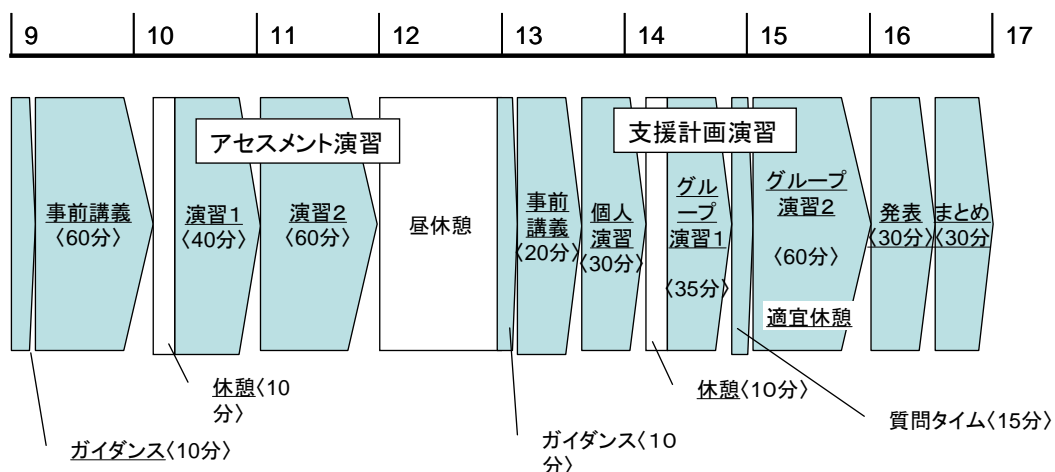
# 1. 演習(講義)のねらい

1. アセスメントとは何かのイメージを学ぶ。
2. アセスメントなしの支援の危険性を学ぶ。
3. 適切なアセスメントには障害特性の理解が欠かせないことを学ぶ。
4. 利用者の行動から理解する方法を学ぶ。
5. 障害特性から理解する方法を学ぶ。

## 指導者(都道府県実施時)としてのポイント

- 自分の経験や常識的な判断だけでは適切な支援はできないことを講義の中で、徐々にイメージしていけるようにする。
- 障害特性の理解がアセスメントには欠かせないことを納得できるようにする。
- 利用者の行動を根拠に、利用者の状況を説明できるようにする。
- 「言葉理解の困難さ」のわかりにくさが理解できるよう、丁寧に説明する。
- アセスメント結果を午後の支援計画演習につなげる見通しをもつ。

# 2. 本日の予定(流れ)



### 3. 演習の展開イメージ

1. 演習1では、全体を通してDVDを視聴し、根拠となる行動から印象を読み取る体験をします。
2. 演習2では、場面ごとに区切って視聴し、障害特性と照合し、より詳しく利用者のおかれている状況を理解していきます。

**事前講義**

行動援護における**アセスメントの重要性**を解説

**演習説明**

STさんのプロフィールと**演習の進め方**について解説

**1回目演習**

- ①利用者がどのような状況にあるか行動を根拠に判断する体験をする
- ②どの行動を見てどう判断したのかを言語化する練習をする

**ポイント：行動を根拠に判断するという手続きを体験する。**

**2回目演習**

- ①利用者の台詞を考える(どのような状況にあるかの把握)
- ②根拠となる行動をあげる(演習1の復習)
- ③障害特性から(解説シートを参考に)説明する

### 4. 演習カリキュラムの概要

#### アセスメント演習1

- DVDを通して視聴する。
- アセスメント票1に6場面の印象を根拠となる行動とセットで書き込んでいく。

#### アセスメント演習2

- DVDを場面ごとに区切って視聴する。
- アセスメント票2に利用者の台詞(もし、話せるとしたら言いたいであろう気持ち)、根拠となる行動、障害特性を書き込んでいく。
- 講師がすぐに模範解答的解説をする。
- DVD→書き込み→解説を6回繰り返す

## 5. 演習の実施方法

### 演習1

1. DVDを視聴する。【10分】
2. 個々人でアセスメント票1に書き込む。【10分】
3. 講師が模範解答的解説を行う【10分】

### 演習2

1. DVDを視聴【1～2分】
2. 個々人でアセスメント票2に書き込む【3～4分】
3. 講師が模範解答的解説を行う【2～3分】  
(7分×6回=42分くらいを目処に)

# アセスメント演習1

10:20～11:00

- アセスメント票1への書き込み  
行動を根拠に判断する  
判断の手続きを言語化する

## 1. 演習の解説

10:20～10:25(5分) **解説**

### 受講生の動き

- 解説を聞く

### 講師の動き

- 演習内容の再確認
- S・Tさんの簡単なプロフィール
- 行動を根拠にして状況を理解する(どの動きを見て、どのように判断したのか説明する)意味をていねいに説明

## 2. DVD視聴

10:25～10:35(10分) **視聴**

### 受講生の動き

- DVDの視聴

### 講師の動き

- DVDの操作または視聴



### 3. アセスメント票1への記入

10:35～10:50(15分) **個人演習**

#### 受講生の動き

- 6場面について記入する

#### 講師の動き

- 会場を巡回し、受講者の状況を把握する。
- STさんについて  
言葉理解ができている  
目的が把握できている  
楽しくて走っている  
と(正しくない)印象をもつ人の割合を把握する。

### 4. 模範解答的解説

10:50～11:00(10分) **解説**

#### 受講生の動き

- 解説を聞く。

#### 講師の動き

- 解説シートを使い、行動の特性から、言葉理解が困難で、目的が伝わっていない状況を解説する。
- ロッキング等の自己刺激行動を喜びの表現でないことを説明する。

## 使用する様式

【アセスメント票1 第一印象】	
場面①(予定を理解する) この場面のSTさんはどんな状況？	どの行動からそう判断しましたか？
場面②(ハンバーガーショップへ移動) この場面のSTさんはどんな状況？	どの行動からそう判断しましたか？
場面③(食べたいものを購入する) この場面のSTさんはどんな状況？	どの行動からそう判断しましたか？
場面④(食べる) この場面のSTさんはどんな状況？	どの行動からそう判断しましたか？
場面⑤(片づける) この場面のSTさんはどんな状況？	どの行動からそう判断しましたか？
場面⑥(自宅へ移動する) この場面のSTさんはどんな状況？	どの行動からそう判断しましたか？

# アセスメント演習2

11:00~12:00

- アセスメント票2への書き込み  
 行動を根拠に利用者理解をする  
 障害特性を根拠に利用者理解をする

## 1. 演習の解説

11:00～11:10(10分) **解説**

### 受講生の動き

- 解説を聞く

### 講師の動き

- 演習内容の確認
- シートの説明
- 頭の中のセリフについてていねいに説明する
- DVD→書き込み→解説×6回の流れを説明

## 2. 演習

11:05～11:47(42分) **解説**

### 受講生の動き

- DVDを視聴
- アセスメント票2への書き込み
- 解説を聞く

**7分×6回**

### 講師の動き

- DVD操作(必要に応じて)
- 書き込みの様子を見る
- 解説はできるだけ明解に(行動を解説する要領で)
- 余裕があれば強みにも触れる

### 3. まとめ

11:47~12:00(13分) **解説**

#### 受講生の動き

- 解説を聞く

#### 講師の動き

- 最低限、言葉理解が困難で、目的の理解が不十分であること、喜んでいとは限らない行動であることを伝える。

### 使用する様式

【アセスメント票2 利用者の頭の中】

場面 (①予定を理解する)

内容 (ことばで)	内容 (ことばで)
根拠となる行動	根拠となる行動
関連する障害特性	関連する障害特性

内容 (ことばで)	内容 (ことばで)
根拠となる行動	根拠となる行動
関連する障害特性	関連する障害特性

?

※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう!

Memo

# 昼休憩

12:00～13:00(60分)

「進行マニュアル」2日目午後につづく

2008年3月5日 行動援護従業者養成中央セミナーⅡ仕様

# 行動援護従業者研修 「進行マニュアル」2日目午後

## 【演習】サービス改善プラン

### も く じ

1. 演習(講義)のねらい
2. 本日の予定(流れ)
3. 演習の展開イメージ
4. 演習カリキュラムの概要
5. 演習の実施方法
  - － 「サービス改善プラン」事前講義と演習のイメージ作り  
(演習説明と支援の実際についての講義)
  - － 「サービス改善プラン」個人演習
  - － 「サービス改善プラン」グループ演習

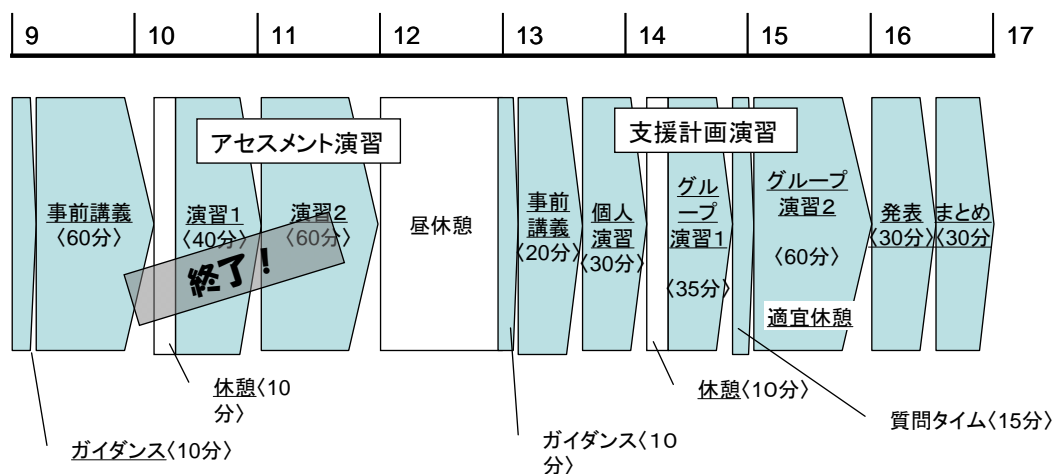
# 1. 演習（講義）のねらい

1. ていねいな段階を踏んで目標を目指していくことを学ぶ。
2. 課題分析的な視点を学ぶ。
3. アセスメントを基にした支援計画作りを体験する。
4. 利用者の困難さと強みの視点から計画を立てることを学ぶ。
5. 構造化のアイデアを使った支援方法を考える。

## 指導者（都道府県実施時）としてのポイント

- 一段ずつのステップアップを繰り返していくイメージを持てるようにする。
- 課題分析まではできなくても、場面ごとに切り分けて考える大切さに気づけるようにする。
- 困ったときに、障害特性から考えるという道筋を示す。
- 利用者の困難さだけでなく強みを活かすという考え方に気づけるようにする。
- （自閉症支援であれば）構造化のアイデアから方法を考えることを知らせる。

# 2. 本日の予定（流れ）



### 3. 演習の展開イメージ

1. 午前のアセスメント演習での共通理解を軸に、どこを改善したらよりよい支援になるかを検討する。
2. 障害特性からの理解を中心とし、構造化のアイデアを利用して計画を立てる。

**事前講義**

行動援護における**丁寧な支援計画**とはどのようなものかを解説

**演習説明**

**演習の進め方**について解説

**個人演習**

- ①STさんの困難さを書き込む
- ②STさんの強みを書き込む

**ポイント：利用者の困難さと強みを把握して計画に反映させる。**

**グループ演習**

- ①個人演習の内容をグループで突合せる
- ②質問内容の検討
- ③支援計画(改善プラン)を立てる

### 4. 演習カリキュラムの概要

**個人演習**

- DVDを通して視聴する。
- 行動支援計画シートの本人が見せる困難さ、活用できる本人の強みを書き込む。余裕がある人は支援計画を考えてもよい。

**グループ演習**

- 個別演習の結果をグループでまとめる。
- 質問項目を検討する。
- 支援計画を立てる。



## 5. 演習の実施方法

### 個人演習

1. DVDを視聴する。【10分】
2. 個々人で行動支援計画シートに困難さと強みを書き込む。【20分】

### グループ演習

1. 個人演習の内容を共有し質問内容を検討する(グループ演習1)【35分】
2. 質問をする【15分】
3. 支援計画を立てる(グループ演習2)【60分】
4. 発表する【30分】
5. まとめ(DVDと解説)【30分】

## 事前講義

13:10～13:30(20分)

## 個人演習

13:30～14:00(30分)

- 行動支援計画シートへの書き込み  
本人が見せる困難さ  
活用できる本人の強み等

## 1. 演習の解説

13:30～13:35(5分) **解説**

### 受講生の動き

- 解説を聞く

### 講師の動き

- シートの説明
- 困難さと強みの解説
- 必要によっては具体的ヒントを与える

## 2. DVD視聴

13:35～13:45(10分) **視聴**

### 受講生の動き

- DVDの視聴

### 講師の動き

- DVDの操作または視聴

### 3. 行動支援計画シートへの記入

13:45～14:00(15分) **個人演習**

#### 受講生の動き

- 行動支援計画シートの本人の見せる困難さ、活用できる強みへ書き込む。
- 余裕がある人は、具体的な支援の計画に進んでもよい。

#### 講師の動き

- 困難さは午前の復習であることを促す。
- 強みは具体例をいくつか示すなどして、書き込みが進むよう支援する。
- 会場によってはインストラクターも巡回しながら指導する。

## 使用する様式

行動支援計画シート

利用者氏名:S.Tさんの外出支援計画

行動・場面	本人の取った行動	本人が見せる困難さ	活用できる本人の強み等	具体的な支援の計画
①予定を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左右に大きく身体を振る</li> <li>・オウム返しをしている。</li> <li>・声がでる</li> <li>・ヘルパーから顔を背けたりしている。</li> </ul>			
②移動する バーガーショップへ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走る</li> <li>・肩ひもがさがっている</li> <li>・急に立ち止まったりする</li> </ul>			
③食べたいものを購入する (選ぶ・支払う・受け取る)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オウム返し・多弁</li> <li>・待っている間に膝をつく</li> <li>・お金は自分でははらわない</li> <li>・レシートを破る</li> </ul>			
④食べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を洗う前に食べ始める</li> <li>・ごみ拾いに熱中している</li> <li>・一気に口に押し込める</li> <li>・床に落ちたものを食べる</li> </ul>			
⑤片付ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな同じ場所に入れようとする</li> </ul>			
⑥移動する 自宅へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩いてかえる</li> <li>・肩ひもがさがっている</li> </ul>			

# 休憩

14:00~14:10(10分)

# グループ演習

14:10~16:00(110分)

- 行動支援計画シートの完成  
グループでの共有・質問内容の検討  
支援計画の完成

## 1. グループでの共有

14:10～14:45(35分) **グループ演習1**

### 受講生の動き

- 休憩中にグループ移動を行う。
- **15分** グループで自己紹介  
司会、記録、発表者を決める。
- **20分** 個人で書き込んだ内容をグループで共有し、質問内容を検討する。

### トレーナーの動き

- グループの課題を再確認する。
- 司会、記録、発表者を決めることを促す。
- タイムキーパーを務める。
- 清書用の用紙を配布する。

## 2. 質問タイム

14:45～15:00(15分) **質問**

### 受講生の動き

- 利用者に関する質問をする。

### 講師の動き

- プロフィールシートにある情報の中から質問に答えていく。

### 3. 支援計画を立てる

15:00～16:00(60分) **グループ演習2**

#### 受講生の動き

- サービス改善プランを場面ごとに作っていく。
- 清書用シートに書き込み完成させる。
- 発表のための準備をする。
- 適宜休憩をとる。

#### トレーナーの動き

- タイムキーパーを務める。(6場面60分)
- 障害特性を無視したり、構造化のアイデアから外れて行く場合は、課題の再確認を行う。(「自閉症の障害特性から考えるとその考えは？」等と投げかける)

## 発表

16:00～16:30(30分)

#### 受講生の動き

- グループごとに支援計画を発表する。

#### トレーナーの動き

- グループの発表の後にコメント(講評)する。
- 十分に考えられていない部分に関しては、しっかりと指摘する(受講生が誤解したまま帰らないように)。

# まとめ

16:30～17:00(30分)

## まとめ

16:30～17:00(30分)

**DVD視聴と解説**

### 受講生の動き

- DVDを視聴する。
- 解説を聞く。

### 講師の動き

- DVDの支援の組み立てを解説する。
- 各グループが考えた支援の有効性または方向の違いの確認をする。
- 本日のまとめをする。

# S・Tさんのプロフィール

(H19.9 時点)

年齢 19歳

性別 男性

手帳 療育手帳 A判定

家庭構成 平成16年末 母死亡 現在ケアホームにて生活をしている

近隣に祖母・叔父が生活している。未成年後見人制度を活用している。

利用サービス 日中 火曜日～土曜日 生活介護(養鶏事業)

夜間 ケアホーム ホームヘルプ(食事・入浴・排泄 1日2時間使用)

休日 日中一時支援事業によるデイサービスおよび行動援護を利用

健康面 季節的に肌の調子が悪くなり皮膚科受診。その他 風邪などによる内科受診。

身体面 起き上がり・寝返り・姿勢保持等身体機能に障害はない。

衣類着脱 前・後ろがわからないために1人で着ると前後ろが的確に着ることができない。

脱いだものはその場に脱いだ状態でおきっぱなしになる。

衛生保持 手洗いについては声かけで自分でできるが、その意味は果たしておらず、再度洗う必要がある。耳掃除に関しては、耳が過敏であるため嫌がる。

食事全般 あぶら揚げ以外はすべて食べることができる。自分のものと一緒に食べる人のものを区別することができない。1人分で分けて提供すれば自分のものだけ食べる。ほしいものであれば、人のものにも手を出すことがある。目の前にあるものを食べ過ぎてしまい、嘔吐したこともある。通常より食べるのは早い。

こだわり行動 床におちているものが気になり、拾って見えないところに捨てるという行為がある。また気になることがあると片膝をつく行為が目立つようになる。

パニック時の様子 不安定になり、介助者の腕を強くつかむことがある。手をかむことがあり、皮膚が硬いところがある。服を破り、物を投げることもある。

他動・行動の停止 状態によって、行動が別人のようになる。行動が機敏でいきなり走りだすとき、まったく動くことができず食事を自分の口に運べないこともある。


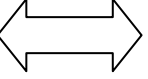
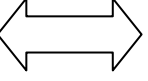
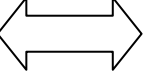
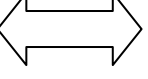
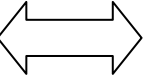
コミュニケーション 日常の行為であれば短い言葉で意図が通じることがある。カードや写真で示したほうが理解度は高い。ことばは出るが、オウム返しである。関連した歌を歌うことがある。何かをしたいときは、手を引っ張るなどクレーン動作がある。

好きなこと 体を使って遊ぶこと、乗り物に乗ること、絵をかくこと、歌を歌うこと、歌を聴くこと

嫌いなこと 犬を含めた動物全般、暗いところ、高いところ



## 【アセスメント票1 第一印象】

<p>場面①(予定を理解する)</p> <p>この場面のS Tさんはどんな状況？</p> <p>やや不安 状況を理解できていない 言葉の理解が難しい</p>		<p>どの行動からそう判断しましたか？</p> <p>激しく揺れている オウム返しが目立つ</p>
<p>場面②(ハンバーガーショップへ移動)</p> <p>この場面のS Tさんはどんな状況？</p> <p>目的を理解できていない 手がかりをさがせていない 状況がわからない (不安)</p>		<p>どの行動からそう判断しましたか？</p> <p>自己刺激行動 (激しい動き) ヘルパーの指し示す方向を見ていない 不安気な顔をしている</p>
<p>場面③(食べたいものを購入する)</p> <p>この場面のS Tさんはどんな状況？</p> <p>質問の意味がわかっていない 選んでいることがわかっていない 購入のしくみがわかっていない</p>		<p>どの行動からそう判断しましたか？</p> <p>オウム返ししているだけ 品物が出てきても持っていない コップだけ持とうとする ヘルパーの指示に従えない</p>
<p>場面④(食べる)</p> <p>この場面のS Tさんはどんな状況？</p> <p>あわてている 手洗いの目的を理解できていない</p>		<p>どの行動からそう判断しましたか？</p> <p>一気に飲みしている 早食いしている 手を洗ってから床をさわっている</p>
<p>場面⑤(片づける)</p> <p>この場面のS Tさんはどんな状況？</p> <p>捨てるという目的を理解している 分別することもなんとなくわかる</p>		<p>どの行動からそう判断しましたか？</p> <p>捨てるという目的を行っている おちついて行動している</p>
<p>場面⑥(自宅へ移動する)</p> <p>この場面のS Tさんはどんな状況？</p> <p>帰宅すると理解している</p>		<p>どの行動からそう判断しましたか？</p> <p>おちついて歩いている 目指す方向をしっかりと見ている 不安な表情をしていない (意味のわからない顔ではない)</p>

## 【アセスメント票2 利用者の頭の中】 場面（①予定を理解する）

内容（ことばで）  
誰に話してるんだ？  
さっぱりわからない

根拠となる行動  
顔をそむける

関連する障害特性  
1. 相手からの情報・メッセージを  
2. 相手に気持ちを伝えることの困  
7. 変化の対応の困難さ

内容（ことばで）  
これから何をやるんだろう？  
意味がわからない

根拠となる行動  
なかなか行動に移せない（立ち上が  
らない）

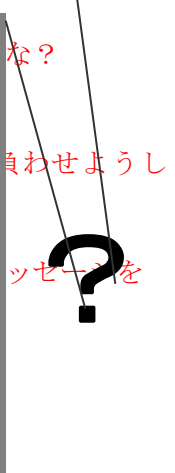
関連する障害特性  
1. 相手からの情報・メッセージを  
5. 時間整理統合の困難さ

内容（ことばで）  
「ポテト」だって  
ポテトって何だ？

根拠となる行動  
オウム返し

関連する障害特性  
1. 相手からの情報・メッセージを  
2.

な？  
負わせようし  
ッセー



※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

### Memo

この場面を見て、S・Tさんが言葉を理解できているかどうかをある程度判断できるはずですが、したがって、ここで言葉がわかると思い込んでしまう人たちは、後々の判断がすべて変わってきます。オウム返しを理解できたときの反応ととるか、理解できないときの反応ととるかは、自閉症理解の初歩的な段階では、大変重要なポイントだと思います。ここで、しっかり誤解を修正し、言語理解の困難性を伝える必要があります。また、「自分」が講師の予めの解説やヘルパーの言葉を聞いて、筋書きを理解できると、S・Tさんも理解できたような思い込みをもちやすいということも、あわせて確認できると良いと思います。

## 【アセスメント票2 利用者の頭の中】 場面（②ハンバーガーショップへ移動）

内容（ことばで）  
走ればいいんだね？

根拠となる行動  
カメラマンに影響されている

関連する障害特性  
6. 転導性・衝動性  
8. 般化の特性

内容（ことばで）  
どこに行くんだ？  
何をするんだ？

根拠となる行動  
ヘルパーの指し示す方向を見よう  
としてない（期待していない行動）

関連する障害特性  
1. 相手からの情報・メッセージを  
9. 記憶の維持の困難さ

内容（ことばで）  
道があるということは進めばいい  
んだな

根拠となる行動  
ヘルパーを振り切って走っている

関連する障害特性  
6. 空間整理統合に困難  
8. 般化の特性

内容（ことばで）  
ゆっくりってなんだろう？

根拠となる行動  
指示に従ってゆっくり歩けない

関連する障害特性  
1. 相手からの情報・メッセージを



※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

### Memo

この場面は、初心者をもっとも誤解しやすい場面です。S・Tさんの行動は喜んで走っているように見える場合があるからです。自己刺激行動とも受け取れる、激しい動きは不安をやわらげる、あるいは理解できない状況をなんとか理解しようと頭をフル回転させているときに現れやすい行動です。あるいは、興奮状態で走るという行動は、通常の喜びの表現よりは混乱に近い状態です。知的障害者だからハンバーガーを食べられるということで、大喜びするに違いないと解釈するのはあまりにも単純です。この場面の見極めが一番難しいかもしれません。

【アセスメント票2 利用者の頭の中】  
場面（③食べたいものを購入する）

内容（ことばで）

ああここね

根拠となる行動

今までとは違い、ややおちついてカウンターへ向かった

関連する障害特性

7. 変化の対応の困難さ（いつも同じは得意）

内容（ことばで）

ハンバーガーどっちですかってなんですか？

根拠となる行動

オウム返し「ハンバーガードッチデスカア」

関連する障害特性

1. 相手からの情報・メッセージを

内容（ことばで）

どれを見ればいいんだ？

根拠となる行動

メニューやヘルパーの動きに関心を示していない 予測して見ていない 目の前のものを見ている

関連する障害特性

1. 相手からの情報・メッセージを  
4. 転導性・衝動性（注目の困難）  
6. 空間整理統合の困難さ

内容（ことばで）

お金？ わたすの？ お財布に入れるの？ 紙だ、やぶこう！

根拠となる行動

ヘルパーに指示されるままに動いている 理解している表情ではない

関連する障害特性

1. 相手からの情報・メッセージを  
8. 般化の特性



※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

Memo

この場面は、一見すると理解して、行儀よくカウンターに立っているようですが、よく見ると目的がわかっていないということがわかるシーンです。ヘルパーが親切に選択の機会を与えていますが、意味がわからず答えることができません。選択肢が載っている写真のメニュー表を見ているにもかかわらず、選べば好きなものが食べられるということがわかっていません。あるいは、どれが食べたいのかわからないのかもしれないかもしれません。また、ハンバーガーが出てきてもそれほど喜ぶ様子もなく、すぐに持って行って食べようとしません。行儀がよい、社会性があるようにも見えますが、どちらかというとならないので行動できない様子と判断できます。

## 【アセスメント票2 利用者の頭の中】 場面（④食べる）

### 内容（ことばで）

ごみが気になるな

### 根拠となる行動

ごみひろいに熱中している

### 関連する障害特性

4. 転導性・衝動性（注意注目の困難さ）

### 内容（ことばで）

ジュースまだ入っているよ  
とらないでよ

### 根拠となる行動

あわてて一気飲みしている

### 関連する障害特性

1. 相手からの情報・メッセージを
2. 相手に気持ちを伝えることの特
5. 時間整理統合の困難さ

### 内容（ことばで）

なんで手を洗うの？

### 根拠となる行動

言われるままに動いている

手を洗った後に再び床をさわっている

### 関連する障害特性

1. 相手からの情報・メッセージを
5. 時間整理統合の困難さ



※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

### Memo

この場面では、スムーズに動いているように見えて理解できていないことに気づく行動に注目します。言葉がうまく通じないので、ヘルパーの行動を勘違いしていることがわかります。ヘルパーは飲み物を奪おうとしているわけではありませんが、あたかも奪われると思っているかのように慌てて飲んだり、床を触って手が汚れているのでハンバーガーを食べる前に手を洗いましょうと促されて、手をせっかく洗ったのに、ハンバーガーを食べる前に再び床をさわるといったシーンがあります。（もっと深い解釈もできますが、ごく普通に解釈すると、言葉が通じていないことがよくわかるシーンとなります。）

## 【アセスメント票2 利用者の頭の中】 場面（⑤片づける）

内容（ことばで）

捨てるんだね

根拠となる行動

分別は理解していないが、自分で捨てようとしている

関連する障害特性

1. 相手からの（★視覚優位）
7. 変化の対応の困難さ（★同じは得意）
10. 長期記憶の特性

内容（ことばで）

食べたから終わったのかな？

根拠となる行動

落ち着いて行動している

関連する障害特性

5. 時間整理統合の困難さ
7. 変化の対応の困難さ（★同じは得意）
10. 長期記憶の特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性



※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

### Memo

見ればわかる、言われてもわからないは自閉症の特性の一つです。この場面では、見てわかるように指示されればできることが増えることを暗示しています。支援計画につなげるためのヒントとなる場面です。また、これまでの体験から、食べたら帰るといふ、文脈での理解を感じさせる場面のようにも見えます。また、「食べる→なくなる」といふように、活動の終わりがわかりやすいものへの安心感をもつ特性のあらわれと見ることも可能でしょう。

## 【アセスメント票2 利用者の頭の中】 場面（⑥自宅へ移動する）

内容（ことばで）  
食べたから帰るのかな

根拠となる行動  
落ち着いて行動している

関連する障害特性  
7. 変化の対応の困難さ（★）  
10. 長期記憶の特性

内容（ことばで）  
この道ってことは家に戻るんだな

根拠となる行動  
目的を目指して歩いている（適切な方向を見据えている）

関連する障害特性  
7. 変化の対応の困難さ（★）  
10. 長期記憶の特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

内容（ことばで）

根拠となる行動

関連する障害特性

?

※本人の行動や前後関係、障害特性も考慮して考え、書き出してみよう！

### Memo

この場面では、困難はあまり目立ちません。本人の強みをアセスメントすることも重要です。また、出掛ける（目的地に向かう）という活動に比べると、帰るという活動はわかりやすい活動であると言えます。出掛ける活動は目的地が伝わっていなければ、目的地は無数にあることとなります。しかし、活動終了後に帰宅するというパターンは、よくあるパターンであることを考えると、パターンで予測しやすい工程ということとなります。つまり、理解しているとしても、パターンの場合は勘違いもしやすいことが予測できます。







# 行動支援計画シート

利用者氏名: S.Tさんの外出支援計画

行動・場面	本人の取った行動	本人が見せる困難さ	活用できる本人の強み等	具体的な支援の計画
①予定を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左右に大きく身体を振る</li> <li>・オウム返しをしている。</li> <li>・声のでる</li> <li>・ヘルパーから顔を背けたりしている。</li> </ul>			
②移動する バーガーショップへ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走る</li> <li>・肩ひもがさがっている</li> <li>・急に立ち止まったりする</li> </ul>			
③食べたいものを購入する (選ぶ・支払う・受け取る)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オウム返し・多弁</li> <li>・待っている間に膝をつく</li> <li>・お金は自分でははらわない</li> <li>・レシートを破る</li> </ul>			
④食べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を洗う前に食べ始める</li> <li>・ごみ拾いに熱中している</li> <li>・一気に口に押し込める</li> <li>・床に落ちたものを食べる</li> </ul>			
⑤片付ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな同じ場所に入れようとする</li> </ul>			
⑥移動する 自宅へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩いてかえる</li> <li>・肩ひもがさがっている</li> </ul>			

# 行動支援計画シート

インストラクター用

利用者氏名:S.Tさんの外出支援計画

行動・場面	本人の取った行動	本人が見せる困難さ 午前中の仮説を元に、この欄に書き込んでもらう	活用できる本人の強み等 インストラクターに助言をもらいながらこの欄を埋める	具体的な支援の計画 16:00までの間に、グループごとに検討し、具体的な対応方法(支援計画)を話し合い、作りこみ、書き込んでいく。  ビデオの後半部分を見て仮説と支援計画の答え合わせをしていく
①予定を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左右に大きく身体を振る</li> <li>・オウム返しをしている。</li> <li>・声がでる</li> <li>・ヘルパーから顔を背けたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもと違う状況が苦手</li> <li>・ことばの理解が苦手</li> <li>・紙は破ってしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵や写真の理解が可能</li> <li>・視覚的手がかりが記憶を助ける</li> <li>・ものの名前等ある程度理解可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の日課をアセスメントによって分かった本人さんが理解できる絵や写真などを活用し、スケジュールを示す。</li> <li>・本人には、そのスケジュールの写真を確認してもらい、今から外出することへの理解を促す。</li> </ul>
②移動する バーガーショップへ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走る</li> <li>・肩ひもがさがっている</li> <li>・急に立ち止まったりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的なことば(ゆっくり・ゆっくり歩こうなど)の理解が苦手</li> <li>・信号の理解ができない</li> <li>・安全の確認ができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外に出るのは好き</li> <li>・手をつながずに道路の隅を歩ける</li> <li>・他人と出かけることは理解できている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今から向かう場所をスケジュールを提示することによって知らせる。</li> <li>・ひとつの活動が終わるごとにスケジュールを確認し、次の活動へ移ることを伝える。</li> <li>・必要であれば、スケジュールから写真をはずして本人に持ってもらい、目的を維持し行動できることを促す。</li> </ul>
③食べたいものを購入する (選ぶ・支払う・受け取る)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オウム返し・多弁</li> <li>・少しイライラしたように手を絶え間なく動かしている</li> <li>・待っている間に膝をつく</li> <li>・お金は自分からは払わない</li> <li>・レシートを破る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選ぶという行為が理解できない</li> <li>・指示が具体的でないと理解できない</li> <li>・待ち時間が苦手</li> <li>・ことばだけではことばを繰り返すだけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手渡しや受け取りができる</li> <li>・やれることが具体的に示されればできることもある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金などはあらかじめヘルパーが出しておき、適切な金額を渡し、払ってもらうようにする。</li> <li>・レシートなどは速やかに財布に片付ける。</li> <li>・無用な質問などをせず、静かに対応する。</li> <li>・あらかじめメニューを選んでいくことも一つの方法。</li> </ul>

④食べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を洗う前に食べ始める</li> <li>・ごみ拾いに熱中している</li> <li>・ジュースは一気飲み</li> <li>・一気に口に押し込める</li> <li>・床に落ちたものを食べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくり食べたり、飲んだりすることが苦手</li> <li>・気になりだすと細かなゴミが気になって仕方ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べることは好き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要によっては、手を洗うなども誘うためのカードを用意する。</li> <li>・無用に食べ物に手を出さずに静かに見守る。</li> <li>・卓上のゴミなどの処理は本人の意向に従い、気にならないような配慮を心がける。</li> </ul>
⑤片付ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな同じ場所に入れようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの分別が理解できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やることが具体的に示されればできることもある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずトレイを置いてから片付けることを促す。</li> <li>・本人が持ったものを捨てるゴミ箱を開ける、指差し指示するなどして片付けることを促す。</li> <li>・本人がしたことをやり直しさせるような指示ではなくできるだけ予告的な促しを心がける。</li> </ul>
⑥移動する 自宅へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩いてかえる</li> <li>・肩ひもがさがっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信号の理解ができない</li> <li>・安全確認ができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りというような目的がはっきりしていれば落ち着いて歩くことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールを確認し、帰ることを伝える。</li> </ul>

# 3日目

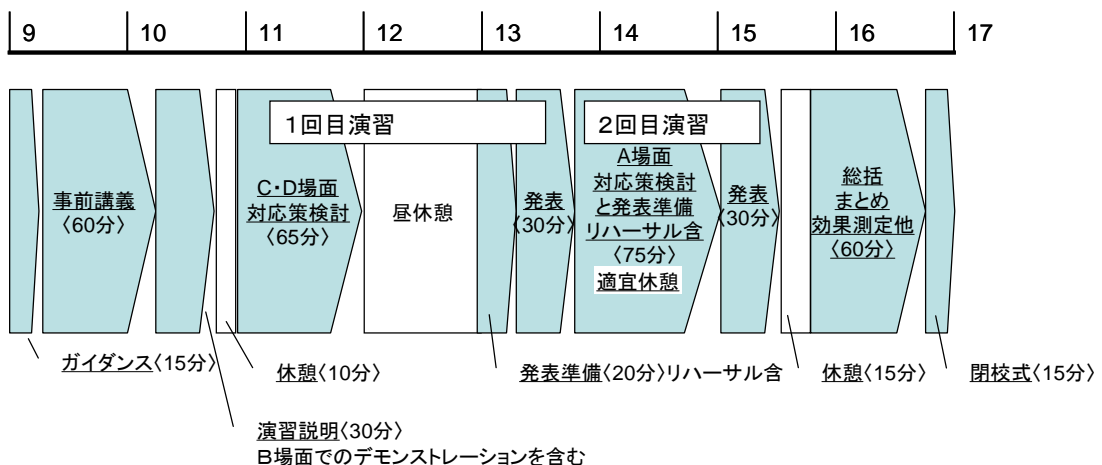
## 事例分析

移動支援の実際・ピカ夫くん

出口 晋

特定非営利活動法人ゆめじろう理事長

## 3日目 本日の予定(流れ)



# 演習趣旨説明(講義)

## ピカ夫くん

3日目の演習に入る前の講義として使用します。

### 行動援護検討事例 「ある日の(ピカ夫くんと)出来事」

**A**ある日のこと、ピカ夫くんとショッピングセンターへ色鉛筆を買いに行くことになりました。ショッピングセンターの文房具コーナーはおもちゃコーナーの先です。しかし、おもちゃコーナーを通り過ぎようとした時、

**B**ピカチュウの人形を見つけ「欲しいよー」と言いました。「今日は色鉛筆を買いに来ただけだからおもちゃはかわないよ」と言うと、

**C**「違う」「ピカチュウ買います」とピカチュウの人形を抱えてレジへ走り込もうとします。なおも止めようとする、「たすけてー」と叫びながらひっくり返って激しく暴れてしまいました。(パニック) まわりの人は、あなたとピカ夫くんのことを不審そうにじろじろと見えています。

**D**そのうち、店員や警備員の人も「どうかしましたか?」と集まってきました。

本日一日かけてとり組む事例です。

- ・ 講師は声を出して読んで下さい。

## 介入ポイントの違いによる対応の変化

### 1. 予防的介入

1.5 予防的介入 + 軌道修正的介入

### 2. 軌道修正的介入

2.5 軌道修正的介入 + 危機回避的介入

### 3. 危機回避的介入

3.5 危機回避的介入 + 啓発的介入

### 4. 啓発的介入

さて、ピカ夫くんの事例のような場合、ヘルパーとしてどのような介入(支援)したらよいのでしょうか。支援における介入のポイントで、行う対応は大きく4つに分けられます。また、4つの中間に複合した対応が必要になる場合もあります。

対応を怠ると、より密度の濃い対応が必要になってしまうので注意が必要！

この演習では、4つの介入ポイントについて必要となる知識や技術を実地で学習していきます。

## 1. 予防的介入

### 1. 目的地の環境アセスメントの視点

- どんな場所(経路)か
- そこに危険箇所はあるか
- 苦手な環境か(苦手な刺激がないか)
- 活かせる強みはあるか(好きなもの、得意)

### 2. 障害特性を理解した上での事前準備

- 目的の明確化(どこで、何を、どれくらいするか)
- 事前予告(前もって分かるように伝えておく)  
 …伝え続ける(転動性・衝動性、記憶の維持困難)

予防的介入は4つの介入の中で最も大切な介入であり基礎的な支援技術です。大きく分けると、目的地の環境アセスメントの視点と障がい特性を理解した上での事前準備です。事前予告の中の伝え続けるというのは、一度伝えただけでは忘れてしまったり、他の刺激に引っ張られてしまっただけから注意がそれてしまったりと言えないよう、伝え続ける必要のある人がいるということです。

## 目的地の環境アセスメント

### ショッピングセンター

- おもちゃ売り場やゲームセンターがある
- 混雑している
- 音に溢れている(館内放送、人の声)

### 経路

- 道(歩道の有無)
- 交通機関(電車・バスの混雑)
- 使用できるトイレがあるか(匂いなど)

目的地の環境アセスメントについて演習場面に沿って説明します。

1. 今日は、ヘルパーさんと一緒に町内のショッピングセンターまでバスに乗って色えんぴつを買いに行きます。ショッピングセンターには、買わなければいけない色えんぴつの他に、ピカ夫くんの好きなおもちゃ売り場やゲームコーナーなどもあり注意が必要です。どんなリスクが潜んでいるかだけでなく、その人の得意や興味を利用して使えそうなものはないかななどにも着目します。

行き先がヘルパーやピカ夫くんにとっては初めての場所であれば、事前の下見や下調べも必要です。

1. 目的地までの道のりに心配はないでしょうか。歩く道には歩道はあるでしょうか。利用するバスは温水プールやショッピングセンターへ行く子供たちで結構混雑し、騒がしい状況が予想されます。ピカ夫くんはそうではありませんが匂いが苦手だったり、エアータオルの音が苦手な特定のトイレしか利用できない人もいます。どこのトイレを利用するかということも必要に応じて調査が必要です。



## 障害特性を理解した上での事前準備

### 環境アセスメントに基づいた準備

- ルートの検討
- 購入場所の検討
- 不快刺激に配慮した支援
- 情報の確認(バス時刻、営業時間など)

### 視覚支援

- 具体物、絵カード、写真カード、文字など
- スケジュール

本人の苦手や、引きつけられ突発的に行動する場面も予想されることから、色えんぴつを購入するためには障害特性を理解した上での事前準備が必要となります。

#### ●環境アセスメントに基づいた準備

**ルートの検討:** ショッピングセンターや目的の売り場へ行くまでに課題がある場合は、ルートの検討を行います。

**購入場所の検討:** ショッピングセンターで買うことが目的でない場合は、刺激が少なく買い物がしやすい場所を選びます。ショッピングセンターは楽しめても、目的の買い物が出来ないのであれば意味はありません。

**不快な刺激に配慮した支援:** 音や混雑が苦手な人は沢山います。ショッピングセンターでは急な館内放送が入ってパニックになってしまう人もいます。そのような場合は、耳を塞いだり、ヘッドホンで音楽を聴いたり、館内放送のはいらないコンビニや個人商店、専門店などを選択するとよいでしょう。混雑が苦手な人であれば、混雑の時間を避けたり、混雑の少ないバスを利用するなど工夫も必要です。

**情報の確認:** 利用するバスの時刻やお店の営業時間などについても確認をしておきましょう。

温水プールが、大会の使用で一般開放がされない等のことはよくあります。また、休日と平日でバスのダイヤが違うこともあります。その場で困らないよう情報の確認が必要です。また、キャラクターショーやイベントがある時、クリスマス前などいつもと様子が変わるので要チェックです。

#### ●視覚支援

本人に外出の目的をしっかりと伝え、落ち着いて買い物が出来るよう具体物、絵カード、写真カードなどの視覚支援を行いましょう。自閉症の人＝絵カードが理解できるというのはあまりにも乱暴な解釈です。その人が理解しやすいものを色々試してみる必要があります。また、適当なものが無ければその人に合わせてオーダーメイドで作成します。

一つ一つの予定がしっかり伝わるようになったら、縦や横に予定を並べスケジュールにして伝えることでより自立した外出が出来るようになってきます。スケジュールが使えるようになると、事前に予定の変更も伝えることが可能になります。

ただし、カードやスケジュールはいきなりは使えませんし、使っていくにはそれなりの知識やこつも必要です。十分な事前学習も必要です。

## 2. 軌道修正的介入

### 1. その場面で可能な環境調整のための対応

- 身体を使った分かりやすい支援
  - 対応スピード
  - わかりやすい対応
- 対応の技量**

### 2. 状況判断

- その日の本人の状態を勘案する力
  - 周囲の環境と本人のストレス耐性を勘案する力
  - 壁とドアの使い分け
- 調整の技量**

軌道修正的介入には大きく分けて対応の技量と調整の技量が求められます。

対応の技量は、身体を使った分かりやすい支援、対応スピード、わかりやすい対応などを使いこなす技量です。

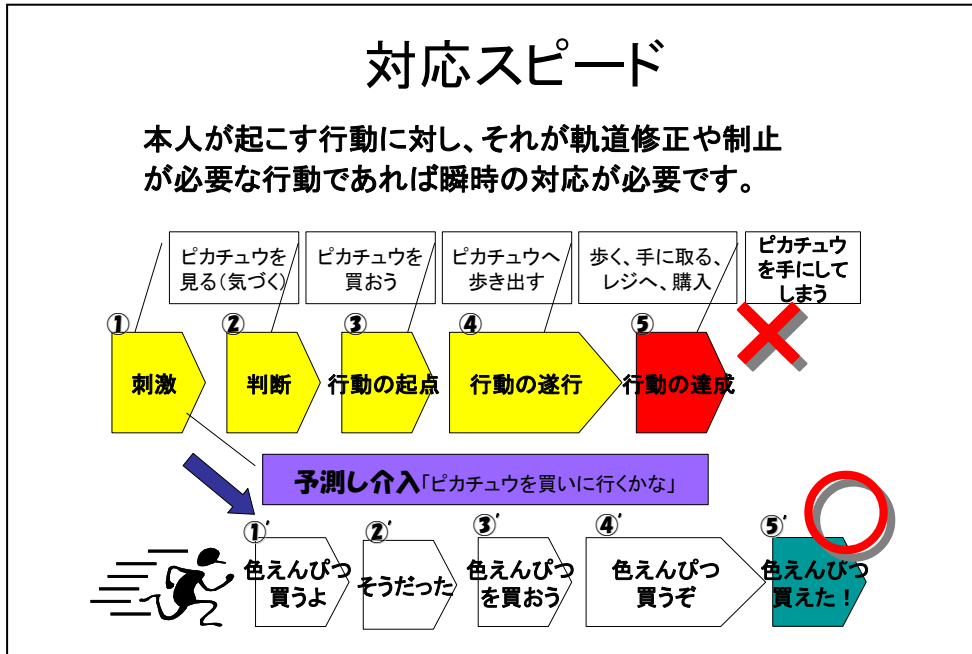
調整の技量では、対応の技量を周囲や本人の能力やその日の調子によって状況判断をし調節する技量です。

## 身体を使った支援

- 訓練室や教室、家庭などのある程度こちらの都合で環境調整が出来る場所とは違い、スーパーや公園など街中には刺激がいっぱいです。そのような場所では、壁代わりになったり、誘導表示代わりになったり、追い風(圧力)になったりヘルパーの身体を使った支援が必要になります。



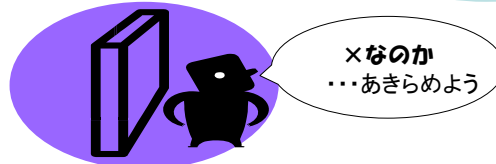
ヘルパーは目的地まで安全かつ正確に誘導する道先案内人です。ある時はカーナビの役割をしたり、またある時は通行止めの看板の役割をしたり、苦手な刺激から遠ざけるために背中を押してその場を一気に走り抜けたり、苦手な犬から守るために壁になったり。それを効果的に行うためには、ヘルパー自身の身体を有効に活用します。



最近のカーナビは進歩したので、曲がるべき交差点の直前で指示を出したり、カーナビ自身が迷ってしまったりということは少なくなりました。車は動いているので、スピーディーな対応が求められます。行動援護の支援も同様です。本人がその気になって行動を起こす前に、その行動が間違っている場合はそのことを知らせ本来の正しい道へ誘導しなければなりません。自閉症の人たちは一旦行動を起こすとなかなか止められない特性も持っています。誤ったスイッチが入ってしまう前に、どんなスイッチを入れようとしているのか予測をし、そちらではなくこちらのスイッチを入れて下さいとスピーディーな対応をとることが必要となります。

## 分かりやすい対応① 壁とドアの対応

制止 **×** を明確に伝える 壁の対応



制止 **×** を曖昧に伝える ドアの対応



アウトドア支援の成功を左右するものに壁(×制止)を壁と伝えられるかということがあります。これは「ダメなものはダメなんです」を口で言い聞かすこととは違います。本人にとって、「これはドアではなく壁だから通り抜けてはいけない」と見える支援が出来ているかどうかです。実はこの見えるということが重要です。男の子に「そっちは女性トイレだからはいっちゃダメ!」というだけでは、言葉の理解に限界のある人たちにとっては壁があるようには見えずに通り抜け可能なドアとして見えているかもしれません。しかし、女性トイレに前に立ちはだかり手で大きくぼってんマークを作るとそれは壁に見えるかもしれません。同じようにやっても身体の大きさや、力の入り具合ではドアや少し穴の空いた壁に見えてしまうかもしれません。

結果を出すヘルパーさんとそうでないヘルパーさんの違いは結構こんな所にあるかもしれません。

## わかりやすい対応②

×(制止)だけでなく  
○(何をどうするか)もセットで伝える

「おもちゃではなく、色えんぴつ」



制止 × をするとき、  
その代わりに何をしたらよいか ○ を  
セットではっきり伝える。

しっかりと壁を作れるようになったら、○をはっきり示せるようにします。「君は男の子だから、女性トイレではなく、男性トイレを使えばいいんだよ」という具合に、女性トイレの前に立ちはだかり、男性トイレの入口を指さす。はっきりというのは、曖昧な指さしではなく気持ちいいほどまっすぐに腕が伸びた指さしだったりするかもしれません。

新米ヘルパーさんの場合、自信が無く遠慮気味なために○が△や□のように伝わってしまい「どっちなの？」と混乱させてしまうことも多いかもしれません。

本人が苦手な言葉を氾濫させても○を△や□に見せてしまう結果になります。

### 3. 危機回避的介入

#### 1. 誤学習に配慮した視点

**原則論**・・・誤学習をさせない

**例外**・・・安全確保が図れない場合

※大きな心の傷になるおそれがある場合

#### 2. 環境に応じたパニックの収束方法

**どこで**(場所)収束させるか**どんな**環境にするか

- 安全が確保できるか(本人、周囲)
- マイナス刺激の調整が可能か
- 収束しやすさ
- 収束後の移行しやすさ

総合的に判断

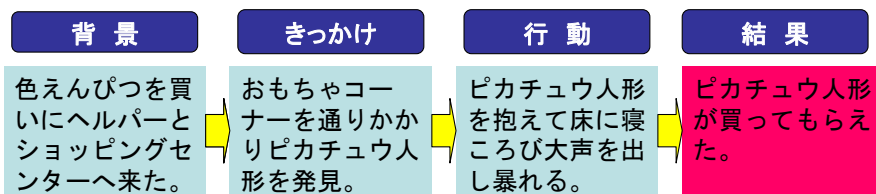
必要であれば  
安全な場所へ**移動**

自閉症の方などはその障がい特性から誤学習をしてしまいやすい人たちです。お出かけの時はいつもリュックサックを背負っていくので、リュックサックを背負ってそのまま一人で外へ飛び出していったり、退屈な時にツバを吐いたらすぐにお母さんから注意された(関わってくれた)ので遊んで欲しい時はいつもツバを吐くようになったなども誤学習の例です。行動援護の場面では自宅などとは違い、相手の行動を意図的に無視をしたり、こちらの都合に合わせて環境調整のしにくい所です。

対応の基本は予防的対応により誤学習をさせないことが重要ですが、十分な対応が取れないこともしばしばです。予防的対応が十分の行えなかったツケとして制止や規制をしなければならないとき、そのことによって本人も耐えられないほどの感情の乱れを生じパニックを起こし大きな心の傷になるおそれがある場合は例外的に誤学習を受け入れ安全確保をしなければならない場合もあります。

また、誤学習を避けるためにやむを得ず制止をした結果として起こったニックを出来るだけ速やかに且つ安全に収束させるために、必要な介入と環境調整(場合によっては周囲のひとに静かにしてもらおう、離れてもらうなど)を行います。

## 誤学習の意味するもの



### 誤って学習したこと

床に寝ころんで大声を出すと、欲しいものが手に入る。

- 繰り返しされることで、誤ったことをさらに強く学習していく。
- 修正するのに何倍もの時間とエネルギーが必要となる！

ピカ夫くんのケースでは、パニックを起こさないためや収めるためにピカチュウ人形を買ってしまうと、図のような流れで誤った学習をしてしまいます。さらに気をつけなければならないのは、誤学習を繰り返すとまちがいを強化しさらに対応しづらい状況を作ってしまうということです。

自閉症の障がい特性として、最初に正しい学習をするとそれをきっちりと守っていくということもあります。

十分な準備をして誤学習ではなく正しい学習を積み上げていくようにしましょう。

## パニックと失敗経験

パニック・失敗経験

その場所に行けなくなってしまう  
家から出られなくなってしまう

生活の範囲が狭められる 家族の負担が増える

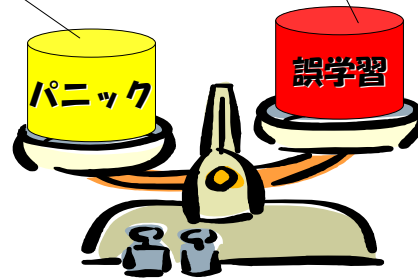
地域生活の破綻

自閉症について知っていることは？と尋ねると、まずパニックが上がります。しかし、パニックは自閉症の障害特性ではありません。我々支援者の無配慮でも作り出されるものです。私たちは、生涯にわたり地域で暮らし続けられるよう支援しているにもかかわらず、私たちの無配慮な支援は時として地域で暮らせない人を作り出していきます。

## パニックによるリスクと誤学習によるリスク

誤学習をした結果、本人の生活しづらさを作り出す。また、それを修正するためにエネルギーを要する。

失敗経験をすることで、心の傷となる。またそのことが本人の活動に制限を与えてしてしまう。



その後の問題の大きさをイメージし、判断が必要になります。それには知識と経験が必要です。

## 意図的な言葉の使用制限

障害特性として

- 言葉の理解の困難さ(苦手)
- 視覚的情報が理解しやすい(得意)

興奮時・混乱時

意図的に

- 苦手(言葉)を減らす
- 得意(視覚的情報)を増やす



言葉の苦手な人たちです。混乱時にはつい大声で指示をしたり、沢山の声かけをしてしまいます。しかし、そのことによって寄り混乱し事態を大きくしてしまうことを肝に銘じておいて下さい。

想像して下さい。あなたが外国でトラブルを起こした時、大声で怒鳴られたり早口でしゃべられたら...

そんなときは、理解できる日本語や視覚的の手がかりで静かに伝えて欲しいはずです。



## 4. 啓発的介入

1. 障害特性の理解
2. 状況や障害特性について、一般市民に対して、専門用語を使わずわかりやすく説明する。
3. 限られた時間での説明  
・利用者の安全確保とストレスに配慮して。
4. 状況に応じた判断力(後日の説明につなげるなど)
5. 謝罪方法

1. 障害特性については、初日、二日目としっかり学んできました。
2. 状況説明については、あなたはなにをしているひとで、今起こっている現状について一般の人に分かりやすく説明することが求められます。また、必要であれば障害や障害特性について周りの人にも知ってもらう機会とします。
3. それを、利用者と周囲の安全にも配慮して行うとなると、長々と時間をかけていることは出来ません。
4. 落ち着いて対応するためには、経験に基づいた判断力が必要です。また、その場だけでは出来ることにも限界はあります。支援の後や、後日改めて説明や謝罪をするということでも寄り理解を深めていただくことも出来るかもしれません。
5. 謝罪方法は、社会人として通用する内容のものでなければなりません。あなたの謝罪如何で、その方の地域での受け入れ方は大きく変わってきます。責任重大です。

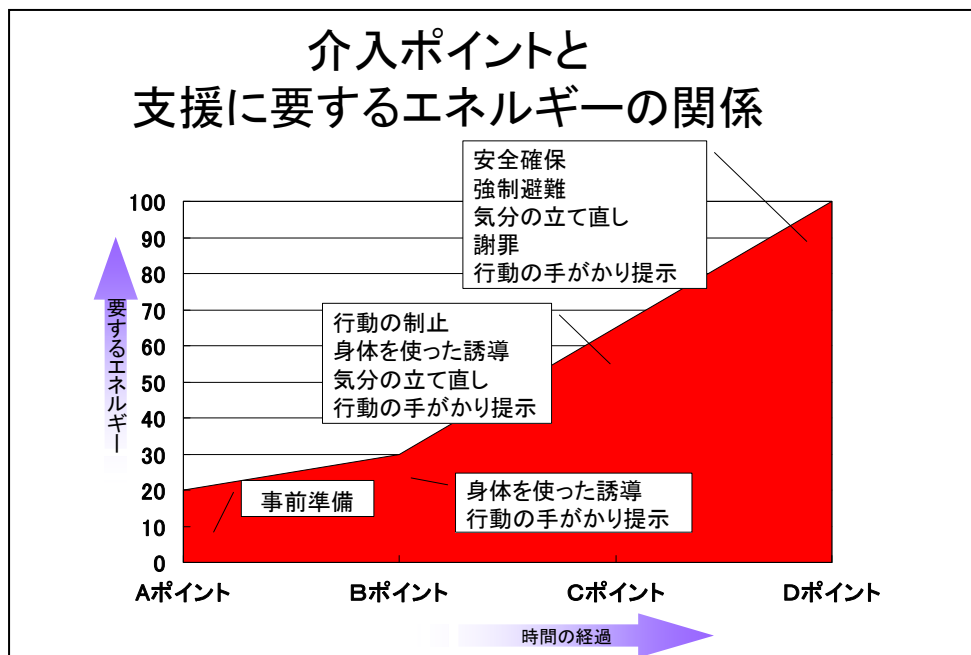
## 支援全体を通じた啓発的対応

### 見せる支援

- 支援のモデルを見せる(伝える)
  - 接し方や対応方法 etc
- 活動の意味を見せる(伝える)
  - 社会参加の意味
  - 地域生活支援の意味 etc
- 安全であることを見せる(伝える)
  - 支援者が利用者と周囲に対し安全確保をしていることを見せる(伝える)

○啓発的対応というのは、話して伝えることばかりではありません。ヘルパーの立ち振る舞いそのものが周囲で見ている人たちに様々なメッセージを発信します。

- ・ モデルを見せるというのは、正しいやり方を見せると言うことです。また、正しい接し方(その人と向き合う姿勢)を見せるとでもあります。
- ・ 活動の意味を見せるということは、ヘルパーの仕事の意味を解説することでもあります。ただ、その人に付き添って時間を費やしている支援では何も伝わりません。障害のある人たちが、地域で生活していくことの素晴らしさや大切さ、その一端を支えるヘルパーの仕事の楽しさも伝えて欲しいものです。
- ・ 安全であることを見せるということは、人に危害を加えるような存在ではないことを伝えること。また、ヘルパーが責任を持って支援をしているので、周りには危害は及ばないので安心であることを伝えることです。



- 介入ポイントと、支援に要するエネルギーの関係は演習からも分かるように後になればなるほど大きくなります。また、本人を制止したり、移動させたり、安全を確保させたりと体力的なエネルギーだけでなく、行う無いようも増えると共に、精神的にも負担は大きくなります。だから、常日頃から予防的対応が必要なのです。
- 事前準備は正直面倒です。事前準備をしなくても何事もなく済んでしまうこともまれにあります。しかし、それは何事もなく済んでいるように見えるだけで誤学習や新たに作られようとしている二次障害に気づいていないだけかもしれません。この、誤学習や二次障害についても含めるとその後に必要となるエネルギーと時間は莫大なものになります。

# ある日のピカ夫くん

## 演習の進め方

### (参加者配布)

#### 行動援護検討事例 「ある日の（ピカ夫くんと）出来事」

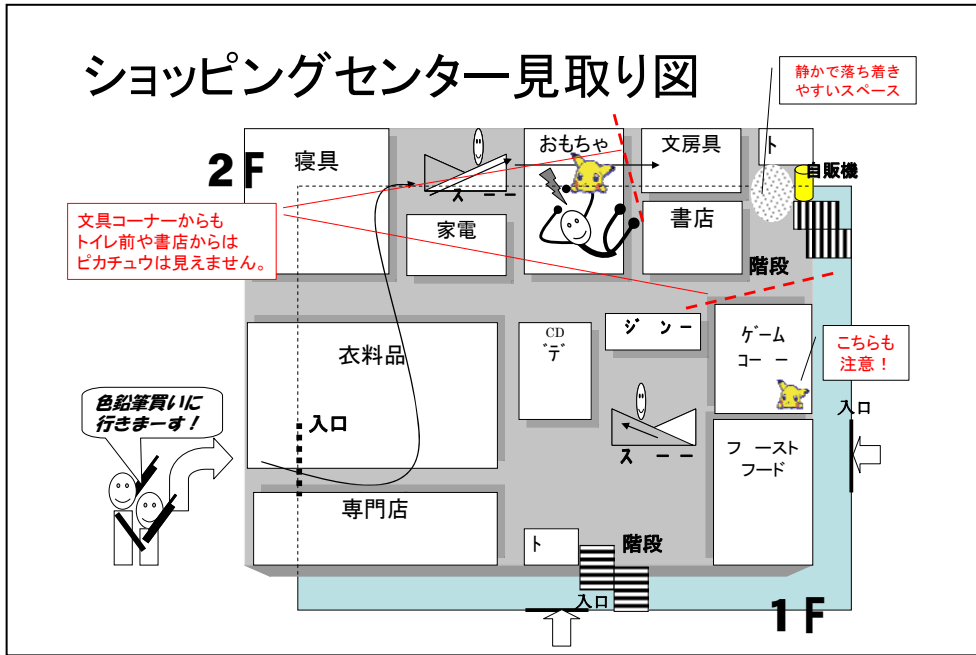
**A**ある日のこと、ピカ夫くんとショッピングセンターへ色鉛筆を買いに行くことになりました。ショッピングセンターの文房具コーナーはおもちゃコーナーの先です。しかし、おもちゃコーナーを通り過ぎようとした時、

**B**ピカチュウの人形を見つけ「欲しいよー」と言いました。「今日は色鉛筆を買いに来ただけだからおもちゃはかわないよ」と言うと、

**C**「違う」「ピカチュウ買います」とピカチュウの人形を抱えてレジへ走り込もうとします。なおも止めようとすると、「たすけてー」と叫びながらひっくり返って激しく暴れてしまいました。(パニック) まわりの人は、あなたとピカ夫くんのことを不審そうにじろじろと見えています。

**D**そのうち、店員や警備員の人も「どうかしましたか?」と集まってきました。

1. 講師が上の文を声を出して1回通して読む。
2. 2度目は、A. B. C. Dの下線の部分を2度繰り返し替えて読み、対応のポイントを強調し参加者に確認させる。



1. 見取り図の説明を行う。
  2. 1階部分は省（果・日用品売り場などは無視）してある。入口3カ所、階段2カ所、エスカレーター2カ所を確認する。
  3. 2階の売り場の配置とおもちゃコーナーまでの進路を確認。
  4. ピカチュウはおもちゃコーナーだけでなく、ゲームコーナーにも。
- しかし、文具コーナーやトイレ前や書店からは、ピカチュウは見えません。
1. トイレと自販機前のスペースは視界もさえぎられ、落ち着きやすいスペースです。

## ピカ夫くん♂基礎情報

精神年齢は概ね3~4歳のイメージ

- 年齢 8歳 知的障害重度（30）の自閉症
- 身長125 体重25
- ことばの理解：分かる言葉であれば  
単語+2語文程度（自分でも話す）  
※ し、自分の興味のあるものに限定
- 好きなもの：ピカチュウ、oo（ジュース）、電車、コマーシャルのうた（「こどもだって うまいんだもーん」）、ピカチュウの絵を いてもらうと上機嫌etc
- 視覚的情報に引っ張られやすい（見えなければ意外に大丈夫）



1. 講師が上の文を読みながら情報の確認。
2. ピカ夫が好きなコマーシャルのうたは実際に歌って聞かせる。

1. 中央セミナーでは、検討前に質問時間を設けさらに詳しい情報収集をしたがそれは行わない。

## これまで試したことと結果

1. おもちゃは買いませんと何回も丁寧に説得した。…パニックになった。
2. 本人が泣いた時、大好きなピカチュウのまねをして「ピカピー」と言っ  
て気分転換をはかろうとした。 … 然買う気満々になった。
3. 出かける前に「言うことの聞けない人は、おまわりさんと呼ぶよ」と言っ  
た。 ……「ピカ夫くんはいい子です」と言ったが結果は同じだった。
4. 「ピカ夫くんは、ピカチュウが大好きだから欲しかったんだよね」と気持  
ちを受け止めた。 ……「ピカチュウ買います！」と笑 で答えた。

1. 講師が上の文を読みながら内容の確認をする。
2. 4つの例はどれも使えない内容ばかりです。一見すると常識的な対応と思われたり、保育や教育、福祉の現場でも行われていることですが、ピカ夫くんの障害特性を考えた時にはピント外れな対応です。
3. このような路線の対応は決して考えないで下さいというメッセージも込めて確認して下さい。

## 検討すべき対応

**A** : 事前準備と予防策を立てて、色えんぴつを買おう!

全てのグループで検討

**B** : 軌道修正を図りながら、色えんぴつを買おう!

**C** : ピカチュウ人形を買うことなく、パニックへの移行を回避しよう!

**D** : 暴れるピカ夫の安全に配慮しながら、周囲に謝罪・状況説明・協力依頼をしよう!

A. B. Cのうちから割り振られた1事例を検討

1. 各ポイント毎の検討課題です。
2. Aについては、全員(全グループ)でとり組みます。  
※中央研修では担当グループしか検討しませんでした。  
Aでは事前準備と予防策をしっかりと立てて安定的に(落ち着いて)色えんぴつを購入することを目指します。
3. Bはなんとかピカチュウから目を離し、多少の乱れはあるものの色えんぴつを購入することを目指します。
4. Cでは、ピカチュウを買わないという条件で、パニック(床に寝ころんで声を出して暴れる)回避を目指します。ある程度落ち着いたら、ショッピングセンターの外へ誘導して下さい。色えんぴつ購入までは考えなくても Kです。
5. Dでは、ピカ夫くん、周囲の人、商品の安全に配慮しながら謝罪と説明と協力 頼を可能な範囲で行うことを目指します。

## A. B. C. D 全てに共通の事項

色鉛筆(1000 )、 (150 )だけです。ピカ夫くんのお母さんは、決められた時以外はおもちゃは買わないように心がけています。ピカチュウ人形は2000 です。

購入する順 何からでも K。( で気をそらすというような対応策も可)

どのグループも**制限時間は5分**です。

1. 準備(1分)
2. 対応策検討シートの読み上げ (1分)
3. ロールプレイ(3分)

しかし、A・B・Cで対応するグループは、**パニックになったところでゲームオーバー**です。

1. 確認のために声に出して読んで下さい。
2. 時間の管理はキッチンタイマーを使いましょう。

## B 軌道修正を図りながら、色えんぴつを買おう!

おもちゃコーナーを通過中にピカチュウ人形をまさに発見した(見てしまった)時点です。

1. 視覚支援に必要なカードや物は、その場で書いたり作らない限り使用できません。
2. 有効な手だてを取らなければ、事態はCへ、対応によってはDへと進んでしまいます。
3. ヘルパーの対応が止まるとピカチュウをつかんでレジへ走り込まれてしまうので注意!

1. 確認のために声に出して読んで下さい。



## B つづき

4. なんとかその場から離し(ピカチュウの見えない所まで)、他のもの( や色鉛筆やゲームコーナーなど)に注意が向けられれば、ピカチュウのことは少し忘れられるかも。

※ その場から離す方法は色々あると思いますが、ゲームコーナーに誘った場合にはピカ夫くんの好きなピカチュウのゲームがあり、それを見るとまた動けなくなってしまう。

5. 一旦、ピカチュウ人形を手にとってしまったら、色鉛筆購入まで持って行くことは現実的には不可能です。

1. 確認のために声に出して読んで下さい。

## 発表の仕方

準備も含めて各グループ5分

1. 模造紙をつかって、対応策(印象・対応・理由)を1分ほどで説明します。

(人数が多い会場の場合はA4対応整理シートをスクリーンへ映す機会を用意)

2. スタッフを相手にロールプレイ

※3分の制限時間

A, B, Cではパニックでゲームオーバー有り

**対応策を考えよう！** グループ\_ 介入ポイントB

**印象**

本人が買う気になる前に何とかピカチュウの前を通過しなくては。

**対応**

おもちゃコーナーの前を手をつないで走り抜ける。

具体的に

本人がピカチュウの人形を見つけ「ピカチュウ買います」と言った瞬間に、本人の手を取り文具コーナーへ け込む。

走っている途中、「色鉛筆・色鉛筆・色鉛筆……」と何度も える。

手を離しそうになったらヘルパーの身体をおもちゃコーナーとピカ夫との間に入れるようにして背中を押すようにして誘導する。

**理由**

ピカチュウから離れてしまえば、ピカチュウのことはあらかじめ色鉛筆を買うことが出来ると思うから。

ロールプレイの後簡に説明をします。模造紙または、大機でスライドに映す。

「やばい！見られてしまった。」  
「早めに他の物に注意をむけなくては。」  
「いつものパターンになるのは避けたいなあ。」  
等

**印象・対応・理由が矛盾しないように！**

- ここでは、対応策記入用紙の記入方法の説明を行います。
  - 印象・対応・理由に分けて記入をしてもらうことが大切です。日頃はこれらを一括りに考えることがほとんどですが、あえて分けて考えることで対応の目的やねらいを明確にします。印象は、「これは困ったなあ」などヘルパーの気持ちを口語で書いても K。対応は、1行から2行で簡に書いた後、具体的に の部分は箇条書きで、実際にどう動くかを第三者にもイメージできるように記 すること。その場で身体を動かしてみて、それを文にするとより具体的になります。
  - また、印象・対応・理由が しないようにすることも重要な点です。日頃我々が取る行動は結果として、これらがバラバラになって していることはよくあります。そうすると、ねらい通りの結果を得ることは出来ませんし、他人に対応の説明をすることが出来ません。
- 用紙は2枚。うち1枚は、全員でAの予防的対応について考えるのに使います。もう一枚は、グループごとにB・C・Dから割り振られたケースを考えるのに使います。まずは、個人毎に用紙に書き込んだ後、グループで発表し合い、グループとしての対応策を検討し、ビー紙へ記 します。

## 試しにやってみます

- B場面でのロールプレイを見ながら、ピカ夫君および発表のイメージをつかんで下さい。
- また、当然ですが さんの対応のまごつきをピカ夫君は待っていてくれません。
- 成功のカギを握るのは実践さながらの対応です。発表前には必ず**リハーサル**を行って下さい。

# 1回目演習

10:55～13:50

- C(危機回避的対応)場面
- D(啓発的対応)場面

## **C** ピカチュウ人形を買うことなく、 **パニックへの移行を回避しよう！**

一旦、ピカチュウ人形を手にとってしまったら、手から離し(どのように離すか)、目の届かないところまで移動し(どのように移動するか)、これからすること(本人が嫌がらずに取り組めることは何か)を具体的に指示しなければ事態の収束は出来ません。そして、再びピカチュウを手にして離せなくなるようなことのないようにショッピングセンターの外へ誘導することも必要です。

※**C**では色えんぴつ購入部分については検討しなくても構いません。

1. 確認のために声に出して読んで下さい。

## **D** 暴れるピカ夫の安全に配慮しながら、 **周囲に謝罪・状況説明・協力依頼をしよう！**

1. 実際にはパニックを収束させるための対応も必要です。しかし、複雑になるためここでは省 します。
2. **ロールフレイは、説明等を行う場所からスタート！**  
おもちゃ売り場、レジ、自販機の前等を指定してください。その場に寝ころんでいるピカ夫くんの安全を確保しつつ説明等を行ってください。ピカチュウを持っている設定か、手から離れた後の設定かも指定して下さい。
3. 謝罪・説明・協力 頼はその場で全てを行うということではなく、ショッピングセンターへは改めて行うということでも Kです。

1. 確認のため声に出して読んで下さい。

# 2回目演習

13:50～15:35

- A(予防的対応)場面

## **A** 事前準備と予防策を立てて、色えんぴつを買おう!

支援の数日前からピカチュウを見つける直前へさかのぼって対応策を考えることが可能です。

1. 視覚支援に必要なカードや物を用意したり、自宅から何か物を持って行くということも K。必要な物は時間内にグループで作成して下さい。
2. ショッピングセンターへ入る入口や2階へ上がる階段やエスカレーターを変更することも K。
3. ショッピングセンターではなくて文具店へ買いに行くという方法も K。(その際は、おもちゃコーナーなどは無視して文具店としてロールプレイを行う。)

1. 確認のために声に出して読んで下さい。

## 行動援護検討事例 「ある日の（ピカ夫くんと）出来事」

**A** ある日のこと、ピカ夫くんとショッピングセンターへ色鉛筆を買いに行くことになりました。

ショッピングセンターの文房具コーナーはおもちゃコーナーの先です。しかし、おもちゃコーナーを通り過ぎようとした時、

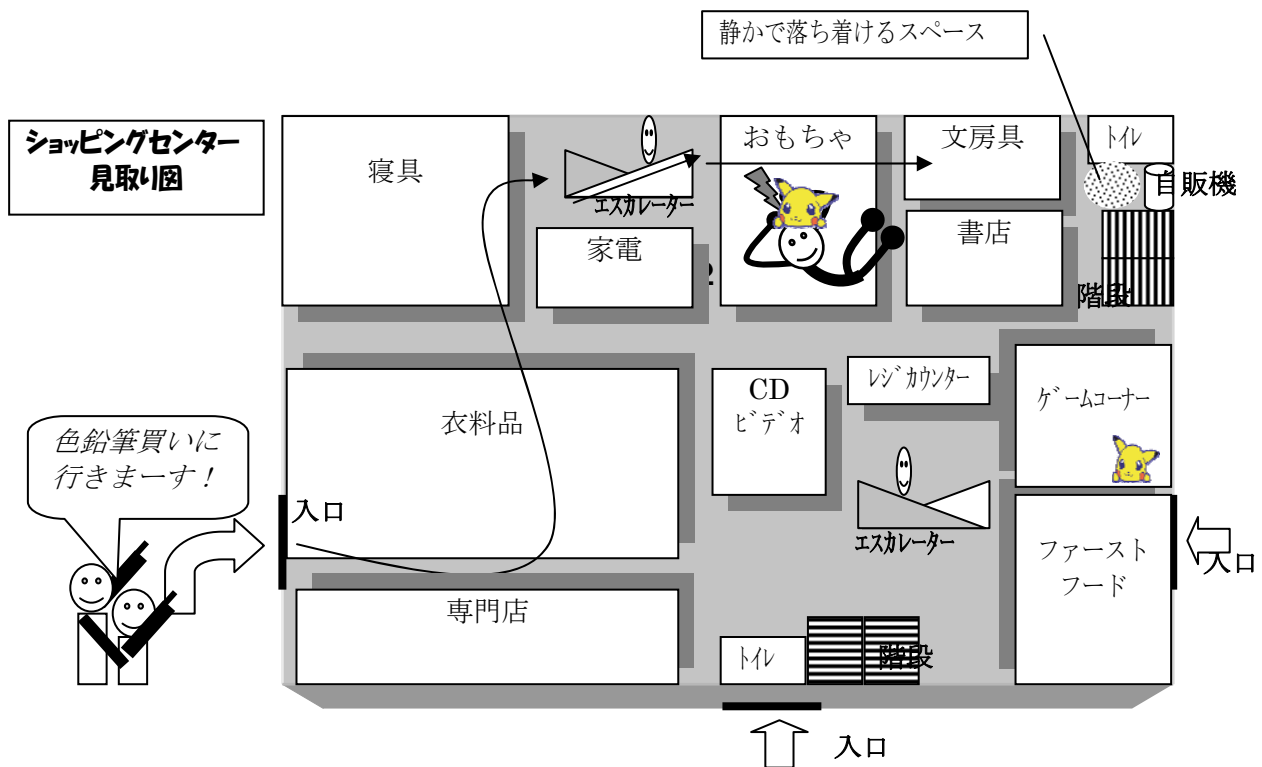
**B** ピカチュウの人形を見つけ「欲しいよー」と言いました。

「今日は色鉛筆を買いにただだからおもちゃはかわないよ」と言うと、

**C** 「ヤダー」「ピカチュウ買います」とピカチュウの人形を抱えてレジへ走り込もうとします。なおも止めようとする、「たすけてー」と叫びながらひっくり返って激しく暴れてしまいました。（パニック）

まわりの人は、あなたとピカ夫くんのことを不審そうにじろじろと見ています。

**D** そのうち、店員や警備員の人も「どうかしましたか？」と集まってきました。



### ピカ夫くん♂基礎情報

- 年齢 8歳 知的障害重度（IQ30）の自閉症 身長125㎝ 体重25kg
- ことばの理解：分かる言葉であれば単語＋2語文程度（自分でも話す）  
※ただし、自分の興味のあるものに限定
- 好きなもの：ピカチュウ、Qoo（ジュース）、電車、コマーシャルのうた（「こどもだって うまいんだもーん」）、ピカチュウの絵を描いてもらうと上機嫌 etc
- 視覚的情報に引っ張られやすい（見えなければ意外に大丈夫）

## 対応策検討表（デモンストレーション例）

グループ  K  氏名  近藤 園子  介入ポイント  B

印象 例えば  B での介入であれば

本人が買う気になる前に何とかピカチュウの前を通過しなくては。

### 対応策

おもちゃコーナーの前を手をつないで走り抜ける。

《具体的に》

1. 本人がピカチュウの人形を見つけ「ピカチュウ買います」と言った瞬間に、本人の手を取り文具コーナーへ駆け込む。
2. 走っている途中、「色鉛筆・色鉛筆・色鉛筆・・・」と何度も唱える。
3. 手を離しそうになったらヘルパーの身体をおもちゃコーナーとピカ夫との間に入れるようにして背中を押しようにして誘導する。

### 理由

ピカチュウから離れてしまえば、ピカチュウのことはあきらめて色鉛筆を買うことが出来ると思うから。

※印象と理由と対応策は矛盾がないようにすること。

## 対応策検討表（本人用）

グループ \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_ 介入ポイント C・D

### 印象

### 対応策

### 理由

※ 印象と理由と対応策は矛盾がないようにすること。

**対応策検討表（グループメモ用）**グループ \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_ 介入ポイント C・D **印象**

--

**対応策**

--

**理由**

--

※印象と理由と対応策は矛盾がないようにすること。



## 対応策検討表（本人用）

グループ \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_ 介入ポイント A

印象

対応策

理由

※ 印象と理由と対応策は矛盾がないようにすること。

## 対応策検討表（グループメモ用）

グループ \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_ 介入ポイント A

印象

--

対応策

--

理由

--

※ 印象と理由と対応策は矛盾がないようにすること。

2008年3月6日 行動援護従業者養成中央セミナーⅡ仕様

# 行動援護従業者研修 「進行マニュアル」3日目

## 【演習】事例分析

### も く じ

1. 演習(講義)のねらい
2. 本日の予定(流れ)
3. 演習の展開イメージ
4. 演習カリキュラムの概要
5. 演習の実施方法
  - － 「事例分析」 事前講義と演習のイメージ作り  
(演習説明と対応場面Bでのデモンストレーション)
  - － 「事例分析」 グループ演習1回目(対応場面C・D)
  - － 「事例分析」 グループ演習2回目(対応場面A)

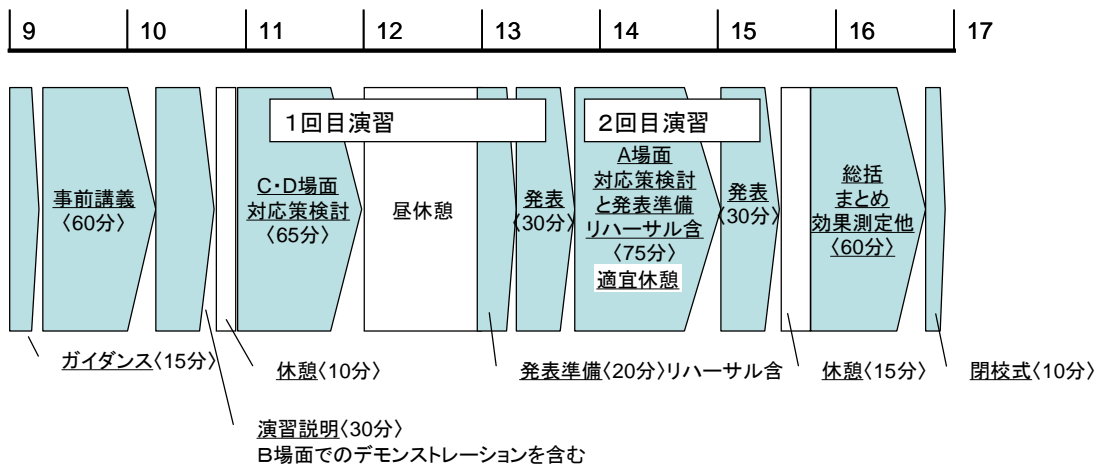
# 1. 演習(講義)のねらい

1. 事前準備および予防的対応が最も重要であること学ぶ。
2. 介入ポイントごとの対応方法について学ぶ。
3. 身体を使った分かりやすい支援技術を学ぶ。
4. 対応スピード(初動)の重要性を学ぶ。
5. 支援全体を通じた啓発の重要性を学ぶ。

## 指導者(都道府県実施時)としてのポイント

- 参加者がそれぞれに役割を担って協力をすると共に主体的に参加する。  
(進行1名, 書記1名, 発表説明1名, ヘルパー実演1名) × 2セット
- 障害特性とアセスメントに基づいた対応策を導き出す。
- 演習のねらいを理解し、実際に演習を進行する際のイメージを作る。
- 他者の意見に耳を け、 審判的態度で 設的な発言(アドバイス)をする。
- Tをイメージし、行動の意味や障害特性との関連、支援方法について伝達できるスキルを養う。

# 2. 本日の予定(流れ)



### 3. 演習の展開イメージ

1. 2回の演習では、それぞれの異なる場面での対応方法について障害特性と事前情報を手がかりに検討します。
2. ロールプレイをすることにより対応策について具体化すると共に、現場で活かせる知識と技術を体感してもらいます。

**事前講義**

行動援護における**時間経過をとおって変わる対処法**を解説

**演習説明**

本演習で取り扱うケースと**演習の進め方**について解説  
B(軌道修正)場面でのロールプレイのデモンストレーションを実施し発表のイメージを作る。

**1回目演習**

C(危機回避)・D(事後啓発)場面のどちらかを選択  
い介入ポイントでの対処法について検討する。

**ポイント**：予防的対応がいかに重要であるかを体感する。

**2回目演習**

最も重要なA(予防)場面における  
対処法について検討する。

**まとめと総括**

チェックシートによる**効果測定**。演習内容のまとめによる**学習内容の強化**。

### 4. 演習カリキュラムの概要

**1回目演習**

- C(危機回避的対応)場面 D(啓発的対応)場面からどちらか一方を選択し、対応策についてグループ毎に検討し計画を立て発表を行う。

**2回目演習**

- A(予防的対応)場面についてグループ毎に検討し計画を立て発表を行う。

## 5. 演習の実施方法

1. 個々人で「対応策検討シート」に対応策を印象・対応・理由に分けて書き込む。【15分】 **対応策検討**
2. 個々人で立てた対応策(印象・対応・理由)をグループ内で発表。【10分】
3. 発表した対応策を手がかりにグループとしての対応策を1つ再検討。(印象・対応・理由に分けて記 )【30分】
4. ロールプレイでの発表へ向け、対応策について細かな対応部分までより具体的に検討を行う。【15分】 **発表準備**
5. 発表前にヘルパー役の動き方や声のかけ方、説明の仕方など問題がないかリハーサルを行う。【5分】
6. **発表**  
対応策検討シートの読み上げと説明の後、ロールプレイにて検。【各グループ5分】

## 事前講義

9:15～10:15(60分)

パワーポイント有り

「ピカ夫演習の趣旨事前説明」

## 演習説明

10:15～10:45(30分)

パワーポイント「ピカ夫くん演習進行」

**※このパワーポイントは演習終了まで使用**

## 休憩

10:45～10:55(10分)

## 1回目演習

10:55～13:50(115分)

- C(危機回避的対応)場面
- D(啓発的対応)場面

### 1. 個々人で対応策検討シートに記入

10:55～11:10(15分) **対応策検討**

#### 受講生の動き

- 印象・対応・理由に分けて個々人でシートへ記入

#### トレーナーの動き

- 記入の仕方が理解できない受講生に対し、具体例を示してアドバイス。

## 2. 対応策をグループ内で発表

14:05～11:30(20分) **対応策検討**

### 受講生の動き

- 名前・事業所名の紹介のあと対応策検討シートを読み上げる。  
**15分**
- 役割を決める  
**5分**
  - 司会1名
  - 発表者1名
  - 書記1名 **×2回分**
  - ヘルパー役1名

### トレーナーの動き

- 取り えずのグループ内発表の順番を指示。
- 受講生全てが役割を持てるよう助言。
- 1回目と2回目と役割を交代して行うように指示。

## 3. グループ対応策の検討

11:30～12:00(30分) **対応策検討**

### 受講生の動き

- 発表した対応策の中から話し合いによりグループの対応策を1つ決める。複数意見の合作でも K。  
**10分**
- 対応策の練り込みと共に曖昧な表現を具体的に  
**20分**する。
- 書記はグループの対応策検討表の下書きを完成させる。

### トレーナーの動き

- 声の大きさに関係なく障害特性に配慮した対応策になっていくよう、「この対応策をした時、ピカ夫くんはどのように理解するでしょう？」等、質問の形で議 議の修正を行う。
- より表現を具体的にするためその場で実際に動いてもらい、動いたままを言葉にしていく。



# 昼休憩

12:00～13:00(60分)

## 4. 5. ロールプレイをへ向け発表準備

13:00～13:20(20分) **発表準備**

### 受講生の動き

- ロールプレイのセットで実際に動きの確認をして下さい。早い者勝ちです。
- 実際にやってみて、本番で成功するよう調整をして下さい。

### トレーナーの動き

- Cで行うグループは、身体の使い方や力のいれ具合、声かけの仕方なども確認して下さい。
- Dで行うグループは、カンペ無しで出来るよう練習して下さい。
- その他、あまい部分の詰めを行って下さい。

## 一回目発表

13:20～13:50(30分)

### 受講生の動き

- ロールプレイのセットで実際に動きの確認をして下さい。早い者勝ちです。
- 実際にやってみて、本番で成功するよう調整をして下さい。

### トレーナーの動き

- Cで行うグループは、身体の使い方や力のいれ具合、声かけの仕方なども確認して下さい。
- Dで行うグループは、カンペ無しで出来るよう練習して下さい。
- その他、あまい部分の詰めを行って下さい。

## 2回目演習

13:50～15:30(105分)

- A(予防的対応)場面

## 1. 個々人で対応策検討シートに記入

13:50~14:05(15分) **対応策検討**

### 受講生の動き

- 印象・対応・理由に分けて個々人でシートへ記入

### トレーナーの動き

- 記入の仕方が理解できない受講生に対し、具体例を示してアドバイス。

## 2. 対応策をグループ内で発表

14:05~14:15(10分) **対応策検討**

### 受講生の動き

- 対応策検討シートを読み上げる。

**10分**

### トレーナーの動き

- 時間が1回目より短いので時間内に進行するよう進行管理をする。

### 3. グループ対応策の検討

14:15～14:45(30分) **対応策検討**

#### 受講生の動き

10分

- 発表した対応策の中から話し合いによりグループの対応策を1つ決める。複数意見の合作でも K。

20分

- 対応策の練り込みと共に曖昧な表現を具体的に
- 書記はグループの対応策検討表の下書きを完成させる。

#### トレーナーの動き

- 買い物の場所を、ショッピングセンターにするのか、文房具店にするのかはっきり絞らせる。
- 大切なのは、 陰ではなく目的のものが安全に買えることであることを伝える。
- カードや写真、具体物、スケジュールを使って伝える場合は、具体的にどのようなものを使うのか絞らせる。
- 手の空いている人でカードなど小道具作りも始めるよう指示する。

トレーナー判断で適宜トイレ休憩を入れる

### 4. 5. ロールプレイをへ向け発表準備

14:45～15:05(20分) **発表準備**

#### 受講生の動き

- 小道具がある場合は、手分けして作成。
- ロールプレイのセットで実際に動きの確認をして下さい。早い者勝ちです。
- 実際にやってみて、本番で成功するよう 調整をして下さい。

#### トレーナーの動き

- カードなど小道具が必要な場合は、この時間内で手分けして作り上げます。
- また、出来た小道具の使い方(どのように見せて伝えるか)の確認も促す。
- 視覚支援を行う場合、余計なことば掛けを行うと情報量が増え余計に解り凶楽なることもあることを注意。

トレーナー判断で適宜トイレ休憩を入れる

## 二回目発表

15:05~15:35(30分)

### 受講生の動き

- ロールプレイのセットで実際に動きの確認をして下さい。早い者勝ちです。
- 実際にやってみて、本番で成功するよう調整をして下さい。

### トレーナーの動き

- Cで行うグループは、身体の使い方や力のいれ具合、声かけの仕方なども確認して下さい。
- Dで行うグループは、カンペ無しで出来るよう練習して下さい。
- その他、あまい部分の詰めを行って下さい。

### 使用する様式

#### 対応策検討表

グループ名 名前 介入ポイント

印象

対応

理由

# 休憩

15:35~15:50(10分)

# 総括・まとめ

15:50~16:50(60分)

# チェックシートによる確認

15:50~16:05(15分)

## チェックシート様式

行動支援従事者研修受講者 事前・事後チェックリスト			
受講者氏名:			
別	質問事項	あなたの姓名	調査内容関連項目
1	サービス前の事前準備は、あまり重要ではないので、実際にサービスをしてみないと分からないので、本人同意(許可)は、実施の際に行うようにしたい。		事前準備
2	事業所内で統一性を保つため、どの利用者にも同じスケジュールと連絡カードを使うようにする。		視覚支援の導入
3	利用者の人のサービス利用は、いつも同じヘルパーで、同じ場所で、同じ活動にするのが良い。		予防的対応
4	サービス利用の前、活動の予定を伝えるのは、かえって本人の気持ちと興奮させ、落ち着けなく活動の、全般的な流れ。		事前準備の必要性
5	利用者は知的障害のひとつである。		情報・コミュニケーションの特性
6	自閉症は、親の育て方や養育環境によってなるもので、主な症状は引きこもりである。		情報・コミュニケーションの特性
7	自閉症の人は、記憶力がよく、一度覚えたことは、対応にない。		記憶の維持の困難さ 長期記憶の特性
8	入浴などで互いさまをする自閉症の人がいるが、慣れれば大丈夫になるので、互いさましないように促すのがよい。		感覚の特性
9	行動支援利用者は、飛び出しが多いので、支援者が常にすぐ近くにいて、手をつなぐなどの対応が必要である。		予防的対応 身体を使った支援
10	視覚支援とは、連絡カードを使って伝えることである。		視覚支援の導入
11	視覚支援は、必要な時にだけ使えばよく、長期的には無くしていくことが望ましい。		視覚支援の導入
12	地域の一員として受け入れてもらうためには、ある程度本人の決意になるようなことでも、障害がある人だから仕方ないという考えを入れてもらうことも必要である。		啓発
13	サービス利用中に、他の人を叩いたり、傷かいたり、器物を破壊したりした場合、罰則にも責任があるので、実行してもらって、罰則に行かないことが大切である。		啓発
14	言葉を話せる利用者の言うことは、よく聞き、本人の言いなりに言う通りに対応することが大切である。		相手に気持ちや伝えること の特性
15	自閉症の人でも、言葉が分かるので、言葉で伝えればよい。		情報・コミュニケーションの特性
16	場面別話し言葉が分かる人の場合であっても、途中で話しを、本人にとって不機嫌なので、最後まで共感しながら聞くことが大切である。		相手に気持ちや伝えること の特性
17	何事も、失敗の中から学び取るものであるから、失敗も経験させる方がよい。		長期記憶の特性
18	多動な人は、不安などを抱えても意識がないので、野外的な活動がす活動も多く、危険であるようにしてあげることが大事である。		記憶の維持の困難さ 長期記憶の特性
19	意味が理解できないことでも、眼を見えることは重要であるので本人が強く拒絶しても、させることが必要である。		事前準備 予防的対応
20	本人がいつも決まるところで問題となる行動がみられる場合、行動を起こす前に言葉で連絡を置くなどの対応が必要である。		対応スピード 身体を使った支援
21	あくまでも支援は本人なので、本人と地域の人のやり取りヘルパーは説明や口出しをすべきではない。		啓発
22	ヘルパーは利用者だけでなく地域の人も日頃から関係作りをし、に離れ障害者の社会参加の意味や障害者の役割の仕方についてお話しして行くことも必要である。		啓発
23	パニック行動時には必ず冷静に落ち着かせること、パニックが起きるまでは本人にどこかへ連れて行く必要がある。		啓発
24	行動支援で大切なのは「パニック」への対応である。		予防的対応
25	本人が苦学なものがあり、パニックへ発展することが予想される場合、それを覚えないように身体で阻んだり、背中を押して遠ざけることも必要である。		身体を使った支援
26	パニックの時であっても、関連したことをした時は目を合わせ視線を分けることで必要である。		パニックへの対応 ことばの制限
27	パニックになると本人はもとより周りの人にも迷惑になるので、本人の要求を受け入れる方がよい。		パニックと誤学習
28	パニックは、自閉症の障害特性である。		情報・コミュニケーションの特性
29	パニックの様子を知っておくことは大切なので、初めてのヘルパーに経験させるために、パニックを避けるための対応を覚える必要がある。		対応スピード 身体を使った支援
30	パニックの時には、その場で、落ち着かすように語りかけるのがよい。		対応スピード 身体を使った支援

チェックシートの解説  
16:05～16:35 (30分)

インストラクターコメント  
16:35～16:50 (15分)

各グループのインストラクターから  
グループ演習についてのコメントを2分ずつ  
程度でお願いします。(ご準備下さい。)

閉校式  
16:50～17:00 (10分)

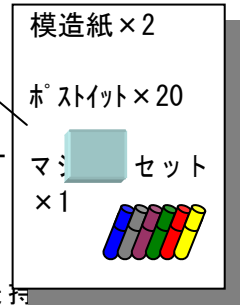
# ピカ夫くんスタッフ向け台本

## 演習の準備

### 用意するもの

1. ピカチュウ（その他でも可）のぬいぐるみ
2. 色鉛筆
3. ジュース（Q.O.O）
4. ピカ夫くんのカバン（リュックタイプ）
5. ピカ夫くんの財布
6. お金（1000円札1枚、500円玉1枚）
7. レシート（どんなものでも可）
8. スーパー袋
9. スーパー買い物カゴ
10. ヘルパー身分証明書（名札で代用）
11. 事前準備材料  
厚紙（絵カード作成等に利用）、色画用紙（数枚）、コピー用紙、ハサミ、セロハンテープ、のり等

各グループに配布

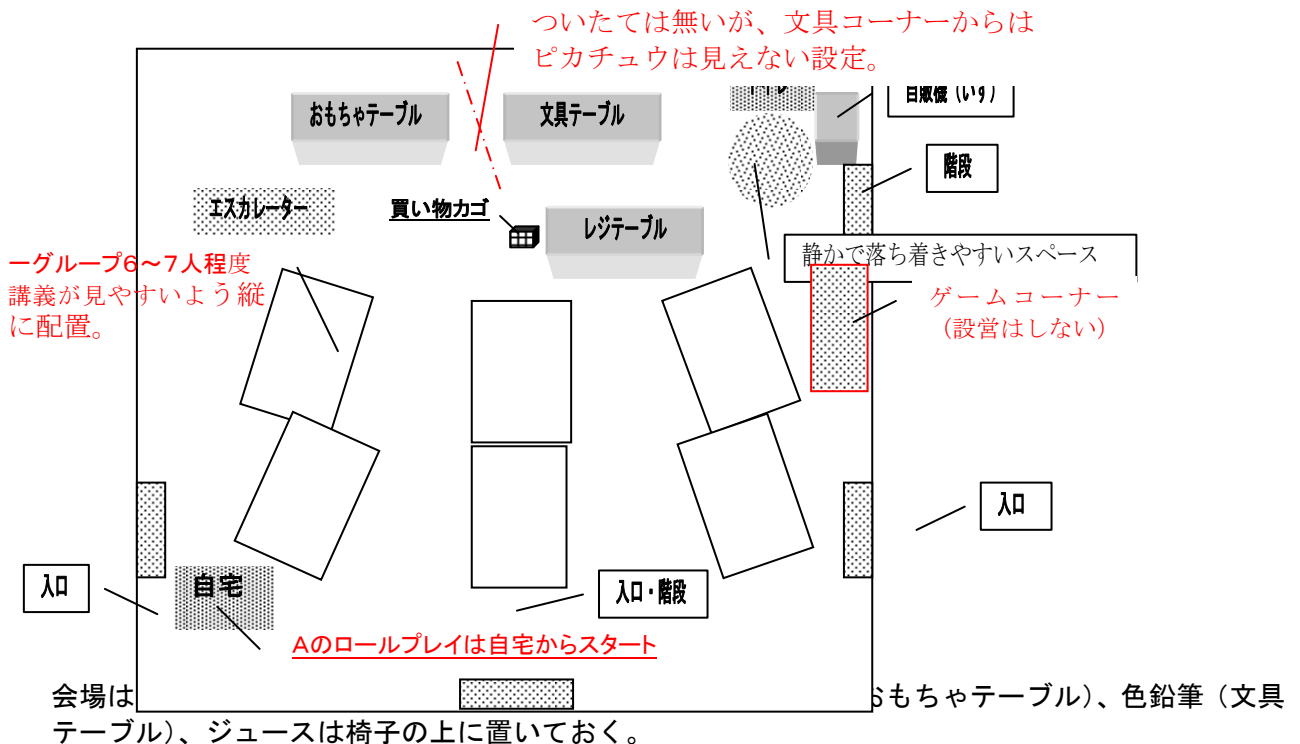


ピカ夫

レジで必要に応じて使います

### 会場準備

1. マイク進行用×1～2 ピンマイク（ワイヤレスマイクでも可）×3（ピカ夫、ヘルパー、レジの人）  
※ 参加人数が30人程度までであれば必要なし
2. 会場設定：朝の段階からグループ席とし、ロールプレイの概ねの設定（2Fフロアーに見立て）もしておく。10:15からの演習説明でB場面のデモンストレーションを行います。





## キャストの演じ方

**ピカ夫、レジの人、お母さん**（スタッフで行う）

**警備員、お客さん**（D場面を発表するグループのメンバーで行う）

ピカ夫「・・・」は**使いそうな言葉** 恥ずかしがらず子どもらしく元気に演じる

レジの人、お母さん：一般的な人をイメージして演じる

警備員、お客さん：D場面で2人を取り囲み「どうかしましたか」「大丈夫ですか」などと声をかける。

### 自宅～ショッピングセンター

ヘルパー「ごめんください。〇〇のヘルパー〇〇です。

お母さん「ピカちゃん、ヘルパーの〇〇さん来たよー」…「ピカ…」

ヘルパー「ピカ夫くんこんにちは」…「…」

お母さん「こんにちはでしょ」…「こ・ん・に・ち・わ」

ヘルパー「さあ、行こうか」…「行ってきまーす」「OK!」「はーい」

ヘルパー「ついたよー」…「やったー」

### ショッピングセンター入口～おもちゃコーナー自販機が見える直前

ヘルパー「階段上がるよ」…「OK!」「はーい」

ヘルパー「エスカレーターに乗ります」…「OK!」「はーい」

### おもちゃコーナーや自販機、ゲームコーナーが見えた瞬間

#### ～ピカチュウを発見直前

●「わーい!」「やったー」

ヘルパー ヘルパーにピカチュウや自販機が見えないように邪魔をされたり身体を押されると…「あれー」「ちょっとー」（普通の声の大きさ）

自販機やおもちゃコーナー、ゲームコーナーの**目前**まで行って、無条件に手が届くような状況になった場合は買う気になってしまい、言葉での説得は効きません。チラ見（一瞬目に入った）程度（**B**時点）であれば、身体を使った誘導（見えなくする・押す・抱きかかえる）や**絵や写真**や指さしなどの視覚支援でも何とかその場から離れることができます。

**A**以外は写真やカードは不可。絵はその場で描くならOK

### ピカチュウを発見した瞬間～ピカチュウをつかみそれを制止される直前

●「やったー」「ピカチュウ」「ピカチュウ買いまーす」

●レジへ行くのを制止するとその場でのやり取りになります。

…「あれー」「ちょっとー」

●レジへ行くのを制止されなければピカチュウを持って**嬉しそうに**レジへ走っていき「**ありがとう**」とレジの人に差し出し、買おうとします。

●レジの人の対応がどう対応したらよいか分からず止まっている時、ちょっと困った顔で「**ありがとう**」と何度も言って催促します。

ピカチュウのぬいぐるみの値段は2000円で手持ちの1500円では買えません。レジの人が、「2000円です」というと自分で財布から1500円をわたしますが、金額が足りないことは本人には分かりません。お金が足りなくてレジの人が困ってしまい対応が1分ほど止まると目の前に品物がある場合は、強引にでも持ち帰ろうとします。

## ヘルパーに制止された瞬間 ～ パニック

**ヘルパー** 「買いません」…「**違う**」「**ピカチュウ買います**」「**あれー**」「**ちょっとー**」30秒ほどのやり取りの後パニックになっていきます。

制止が30秒続かず、自由にされるとレジへ行き「**ありがとう**」と連呼し、商品を買おうとします。

※「**買いません**」「**ダメ!**」など言われなければニコニコしています。

多少強引でも早期に手からピカチュウ人形を離し（レジの人に渡した時、ジュースへ誘導し購入する時など手から離れたすき取ることもできます）、他のこと（本人が嫌でないこと）が理解しやすい形で提示されれば気持ちの切り替えが出来、パニックになってしまうことなく提示されたことと取り組むことが出来る。人形を手から離す時に躊躇し、やり取りが30秒以上かかるとパニック。言葉を多用した説得もパニックを助長するので注意！

## ピカチュウ人形を手を持った状態

**ヘルパー** 「ダメです」「色えんぴつ買うよ」「買いません」…「**違う**」「**あれー**」「**ちょっとー**」

※**ピカチュウを手から話そうとしなければ機嫌はわるくならないし、もったままであればジュースを買うことはできます。**

- パニックになると…「**違う**」「**だれかー**」「**たすけてー**」といいながら床に倒れ頭を抱え激しく足をバタバタさせ暴れます。

一旦パニックになると、3分ほどそのままにしておいて落ち着くのを待つほかありません。落ち着く前に介入しようとする、かえってパニックが長引いてしまいます。ピカチュウが見えない、人の少ない落ち着ける場所へ（抱えて）連れて行くとパニックが収まりやすく、次の行動へもなんとか移行できます。

**レジの人・警備員・お客さん** 「どうかしましたか」「大丈夫ですか」

**興奮状態にあるので、近くで誰かが話すとパニックが激しくなります。**

この時点で、ヘルパーの出来る対応はピカ夫と周りの商品の安全確保と、30秒～1分程度の説明か協力依頼くらいです。それも、本人を刺激しないよう声を少し落として行う必要があります。大きな声で長々と離しをすると言葉の苦手なピカ夫を刺激し、パニックを長引かせてしまいます。

## パニックが落ち着いてから

**ヘルパー** 「Q○○買います」…「**Q○○買います**」

「ゲームします」…「**ゲームします**」

「色えんぴつ買います」…「**違う**」「**あれー**」「**ちょっとー**」

たとえパニックが落ち着いても、おもちゃコーナーへ戻りピカチュウの人形を見てしまうとまた買いたい衝動が出てしまいます。ですから、一旦おもちゃコーナーからピカ夫を離し落ち着いた後でも、再び本人をおもちゃコーナーへ連れて行き店の人へ説明や謝罪をするのは現実的には不可能です。（他の場所であれば可能）

**ヘルパー** 「色えんぴつ買います」… 「**違う**」「**あれー**」「**ちょっとー**」

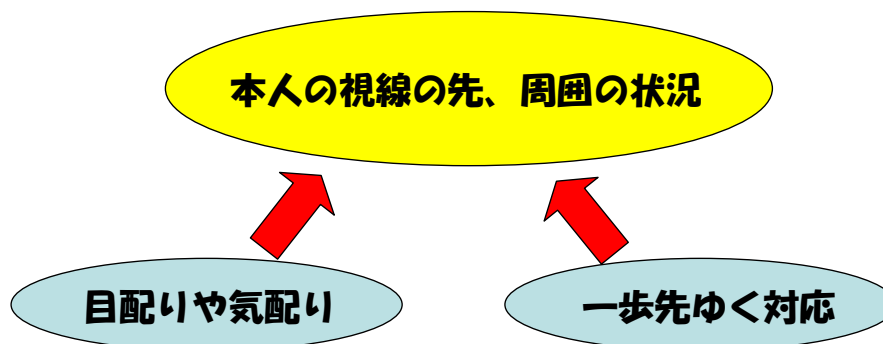
**ヘルパー** 「帰ります」… 「**帰ります**」

# まとめと問題提起

(参加者配布)

# 身体を使ったわかりやすい対応

1. 身体を使った環境調整
2. 身体を使ったわかりやすい対応
3. 素早い対応（対応スピード）



演習の中であらためて身体を使った環境調整やわかりやすい対応、対応スピードの重要性について学習しました。

実践では、利用者の視線の先や周囲の状況に常に目や気を配りながらこちらが一步先に行動が取れるようにしておく必要があります。

# 迷わず揺るがない対応

時には強引な対応をすることも・・・

人目が気になる  
本当にこれでよいか迷う  
本人がかawaiiそう

曖昧な対応が本人を追い込み行動障害を作っていく

自信を持つための唯一の方法は  
・・・正しい障害理解とアセスメント

けっして慣れなどではない！

CやDでの実際場面では、人の目が気になったり、嫌がる本人を前に、本当にこれでよいのか？と迷ったり、かわいそうに思うのは誰も同じです。しかし、プロとして冷静に、時には強引と思える対応をしなければならない時があります。その際、こちらに迷いがあると、余計に本人の混乱を招いたり、本人にとって解りにくい対応となってしまいます。そして、そのような迷いのある曖昧な対応の積み重ねが行動障害を作っていきます。

今回は、あくまでもアクシデントとしてそのような場面に出くわしたことを想定したもので、予防的対応を十分に行うことが重要であることは言うまでもありません。

本人が、苦しんでいたりと、激しく抵抗する場面では支援者としても切なく自らの支援の至らなさに申し訳ない気持ちになります。しかし、地域生活から逆戻りさせないという覚悟を持ち、意を決して対応するのです。それは、けっして慣れなどというものではありません。

## これって本当に良かったの？

- Cの対応では、ピカチュウ人形を無理 理取り上げたり、買うと見せかけて手から話させたりピカ夫くんを く対応をしたことについてどのように考えたらよいのでしょうか？
- ピカ夫君は「ヘルパーさんは信用できない」ということを学習してしまうのではないのでしょうか？
- はたして正しい対応だったのでしょうか？

Cの場面での対応でピカチュウ人形を手から離す時、力の弱い子どもから強引に取り上げたり、買うと見せかけてピカ夫くんを欺いて取り上げたり。これでは、大人や支援者は信用できないということを学習してしまうのではないかと皆さんの中にも、疑問が残っているはずです。本当にこの対応で正しかったのでしょうか？ もう一度考えてみて下さい。

## 今回のみ限定付きでやむ無し

**理由1:**今回はたまたま準備をせずにこのような状況になってしまったという想定。(次回も同じ対応は許されない)

**理由2:**今後事前予告をし、ピカチュウ人形についても「買う」ことを事前に伝えて購入をする(「買う」という予告をしない場合は買わない)ことを する。

**理由3:**以上の経験を積み上げていくことで、け引きではなく見通しを持って行動ができるようになる。結果として「ヘルパーさんは信用できる」ということを学習する。

答えは、×。ただし、今回に限り条件付きで○です。  
理由は、次の3点です。(理由1～3を読み上げる。)

繰り返し替えますが、事前準備や予告など予防的対応を怠って、同じ状況に追い込むことなどもってのほかです。

## 謝罪・説明・協力依頼について

謝罪・・・誰の過ちなのか？

支援のまずさを利用者に責任転 しない。

説明・・・行為の説明・状況の見通しの説明

分かりやすい一例として「練習中」という言葉

「私はヘルパーで、今日は買い物の練習をしています」

この先どうなるかを説明する。

「しばらくすれば落ち着いてきます」

協力 頼・・・具体的にどうして欲しいか

「本人が落ち着くまで離れていて下さい」

「次回は十分に準備をしてきますので、

……また買い物にこさせていただきます」

謝罪・説明・協力依頼のポイントを確認しましょう。

謝罪については、誰の過ちなのかをはっきりさせることが重要です。実際に行動を起こしているのは本人ですが、そのような行動が想定される人の支援をしているのはヘルパーなので、その場へ十分な準備をせずに連れ出しているヘルパーの支援こそが問題にされるべきです。

だとすると、謝罪の方法は自ずと明らかになると思います。

本人が（形だけでなく謝るという行為を理解できるのであれば）謝ることも重要ですが、支援者の支援のまずさを謝罪すべきです。

説明については、「2人はどういう関係で何をしているのか」という行為の説明と、「この先どうなっていくのか」という状況の見通しの説明をすると周囲もむやみに不安がらず安心してもらえるはずです。一つの例として、新人のアルバイト店員が付けている名札のように「練習生」「練習中」という表現は一般的で細かな説明をせずとも理解・協力が得られる表現かと思います。

説明の部分が上手く伝われば、協力依頼もスムーズにいくでしょう。



## 視覚支援について

1. ヤリさえすればよいのか？
2. どう理解したか（理解していないか）を見極める
3. 正しく伝わる伝え方を検討する
4. 様々な場面で確実に使えるようにする

今回のセミナーでは、視覚支援についての解説はほんの入口部分の紹介程度です。視覚支援は、単にカードやスケジュールを提示する行為を指しているのではありません。また、カードやスケジュールを作って示せば誰にでも伝わるというものでもありません。

活用して伝えた結果、相手がどう理解したか。また、理解していなかったか。を見極め、再度正しく伝わる伝え方を検討することが必要です。

中には、視覚的に提示されることで本人の意思に反することでも拒否することが出来ず、受け入れてしまう人もいます。これは、伝わってはいますが、正しく理解している状況とは言えません。よりしっかりとした支援を行っていかうとする時、更なる学習が必要となります。

視覚支援が様々な場面で確実に使えるようになると、自閉症の人たちの生活は安心で豊かなものになっていきます。

## 行動援護従事者研修受講者 事前・事後チェックリスト

受講者氏名：

分野	質問集	あなたの解答	講義内容関連項目	正解
事前	1 サービス前の事前準備は、あまり重要ではないので、実際にサービスを試してみないと分からないので、本人理解(評価)は、実際の関わりの中で行うほうが良い。		事前準備	
	2 事業所内で統一性を持たせるため、どの利用者に対しても同じスケジュールと絵カードを使うようにする。		視覚支援の導入	
	3 自閉症の人のサービス利用は、いつも同じヘルパーで、同じ場所で、同じ活動にするのが良い		予防的対応	
	4 サービス利用の前に、活動の予定を伝えるのは、かえって本人の気持ちを興奮させ、落ち着けなくなるので、やめた方がよい。		事前準備の必要性	
障害理解	5 自閉症は知的障害のひとつである		情報・コミュニケーションの特性	
	6 自閉症は、親の育て方や養育環境によってなるもので、主な症状は引きこもりである。		情報・コミュニケーションの特性	
	7 自閉症の人は、記憶力がよく、一度覚えたことは 対に忘れない。		記憶の維持の困難さ 長期記憶の特性	
	8 人混みで耳ふさぎをする自閉症の人がいるが、慣れれば大丈夫になるので、耳ふさぎしないように促すのがよい。		感覚の特異性	
	9 行動援護利用者は、飛び出しが多いので、支援者が常にすぐ近くにいる、手をつなぐなどの対応が必要である。		予防的対応 事前準備	
対応	10 視覚支援とは、絵カードを使って伝えることである。		視覚支援の導入	
	11 視覚支援は、必要な時にだけ使えばよく、長期的には無くしていくことが望ましい。		視覚支援の導入	
	12 地域の一員として受け入れてもらうためには、ある程度人の迷惑になるようなことでも、障害がある人なのだから仕方がないと受け入れてもらうことも必要である。		啓発	
	13 サービス利用中に、他の人を叩いたり、噛みついたり、器物を破損したりした場合、家族にも責任があるので、同行してもらって、謝罪に行くことが大切である。		啓発	
	14 言葉話せる利用者の言うことは、よく聞き、本人の言いなりに言う通りに対応することが大切である。		相手に気持ちを伝えることの特性	
	15 自閉症の人でも、言えば分かるので、言葉で伝えればよい。		情報・コミュニケーションの特性	
	16 毎回同じ話しかかりする人の場合であっても、途中で話しを するのは、本人にとって不快なので、最後まで共感しながら聞くことが大切である。		相手に気持ちを伝えることの特性	
	17 何事も、失敗の中から学び取るものである。失敗も経験させる方がよい。		長期記憶の特性	
	18 多動な人には、予定などを伝えても意味がないので、野外の体を動かす活動を多くし、発散できるようにしてあげることが大事である。		記憶の維持の困難さ 長期記憶の特性	
	19 意味が理解できないことでも我 を覚えることは重要であるので本人が激しく抵抗しても我 させることが必要。		事前準備 予防的対応	
	20 本人がいつも決まったところで問題となる行動がみられる場合、行動を起こす前に素早く進路を塞ぐなどの対応が必要である。		対応スピード 身体を使った支援	
	21 あくまでも主役は本人なので、本人と地域の人のやり取りにヘルパーは説明や口出しをすべきではない。		啓発	
	22 ヘルパーは利用者だけでなく地域の人たちとも日頃から関係作りをし、 に触れ障害者の社会参加の意味や障害者との関わり方についてお話しておくことも重要である。		啓発	
23 ヘルパー活動中にトラブルを起こしてしまったらヘルパーが謝罪するのではなく本人に「ごめんなさい」と謝らせることが必要である。		啓発		
パニック	24 行動援護で大切なのはパニックへの対応である。		予防的対応	
	25 本人が苦手なものがあり、パニックへ発展することが予想される場合、それを見えないように身体で隠したり、背中を押して遠ざけることも必要である。		身体を使った支援	
	26 パニックの時であっても、間違ったことをした時は目と目を合わせ厳しく分かるまで ることが必要である。		パニックへの対応 ことばの制限	
	27 パニックになると本人はもとより周りの人にも迷惑になるので、本人の要求を受け入れる方がよい。		パニックと誤学習	
	28 パニックは、自閉症の障害特性である。		情報・コミュニケーションの特性	
	29 パニックの様子を知っておくことは大切なので、初めてのヘルパーに経験させるために、パニックを起こさせその対応を学ばせることが必要である。		対応スピード 身体を使った支援	
	30 パニックの時には、その場で、落ち着くように優しく語りかけるのが良い。		対応スピード 身体を使った支援	

# 解答&解説シート

受講者氏名：

分野	質問集	解説	講義内容関連項目	正解
事前	1 サービス前の事前準備は、あまり重要ではないので、実際にサービスをしてみないと分からないので、本人理解(評価)は、実際の関わりの中で行うほうが良い。	サービス前の準備は必要である。	事前準備	×
	2 事業所内で統一性を持たせるため、どの利用者に対しても同じスケジュールと絵カードを使うようにする。	個人個人にあったカードなどにする必要がある。	視覚支援の導入	×
	3 自閉症の人のサービス利用は、いつも同じヘルパーで、同じ場所で、同じ活動にするのが良い。	どんなヘルパーでも対応できるように準備する必要がある。いつも同じヘルパーなので、その人でないと支援ができなくなり、また、その場所でない支援ができなくなる恐れがある。	予防的対応	×
	4 サービス利用の前に、活動の予定を伝えるのは、かえって本人の気持ちを興奮させ、落ち着けなくなるので、やめた方がよい。	きちんと予告をした方が理解ができる。	事前準備の必要性	×
障害理解	5 自閉症は知的障害のひとつである。	知的障害は伴わない。ダウン症・聴覚障害と自閉症の重複もある。	事前準備の必要性	×
	6 自閉症は、親の育て方や養育環境によってなるもので、主な症状は引きこもりである。	脳の機能障害である。1970年代はこの考え方が多く、「情緒障害学」というのが多かった。	情報・コミュニケーションの特性	×
	7 自閉症の人は、記憶力がよく、一度覚えたことは 対に忘れない。	短期記憶・作業記憶が苦手な方がいる。個人差がある。	記憶の維持の困難さ 長期記憶の特性	×
	8 人混みで耳ふさぎをする自閉症の人がいるが、慣れれば大丈夫になるので、耳ふさぎしないように促すのがよい。	慣れることではないので、環境を整える・ヘッドフォンをするなど違う対応をする。自閉症は脳の障害なので治らない・くならない。感覚の問題なので変わることはあるが、慣れることはない。	感覚の特異性	×
	9 行動援護利用者は、飛び出しが多いので、支援者が常にすぐ近くについて、手をつなぐなどの対応が必要である。	必要な場合もあると思うが、自立して一人で歩くこともある。行動援護利用者のすべてが飛び出しをするわけではない。	予防的対応 事前準備	×
対応	10 視覚支援とは、絵カードを使って伝えることである。	目的によって視覚支援の提示物に違いがある。具体物にしても複数の種類がある。	視覚支援の導入	×
	11 視覚支援は、必要な時にだけ使えばよく、長期的には無くしていくことが望ましい。	視覚支援はなくなるということではなく、変わっていく。	視覚支援の導入	×
	12 地域の一員として受け入れてもらうためには、ある程度人の迷惑になるようなことでも、障害がある人なのだから仕方がないと受け入れてもらうことも必要である。	支援者が本人に伝わる方法で伝えているかということをおき、本人のせいにするのは×。きちんとした支援があった上での場合はやむなしということもありうる。	啓発	×
	13 サービス利用中に、他の人を叩いたり、噛みついたり、器物を破損したりした場合、家族にも責任があるので、同行してもらって、謝罪に行くことが大切である。	まず、支援がまずいという反省に立たないとは本人は変わっていくかと思われ。支援中にそのようなことが起こると想定されるならばそこに対する支援をすることが先決である。	啓発	×
	14 言葉を話せる利用者の言うことは、よく聞き、本人の言いなりに言う通りに対応することが大切である。	本人が発している言葉が、内容の意味を理解して話しているかということが本当にそうであるかどうかのポイント。話している言葉が理解されていて、評価でき、相手に対してしっかりと伝えている場合はそのほうがよいこともある。	相手に気持ちを伝えることの特性	×

16	毎回同じ話ばかりする人の場合であっても、途中で話しを断るのは、本人にとって不快なので、最後まで共感しながら聞くことが大切である。	同、同じ話を聞いてくるなどの方は、自身の中に不安や気になることがあるなどが多く、その不安はどこから来るのだろうか？などを考えながら支援をする必要がある。意味があっても聞いてくれる方が多い方があっても時間を決めた方がよい。	相手に気持ちを伝えることの特 性	×	
17	何事も、失敗の中から学び取るものであるため、失敗も経験させる方がよい。	成功体験から学んでもらうことが大切。失敗から学ばせるといってはいけません。	長期記憶の特性	×	
18	多動な人には、予定などを伝えても意味がないので、野外の体を動かす活動を多くし、発散できるようにしてあげることが大事である。	必要な場合もあるかもしれないが、何をしたいかなどがわからなく、ただ動いているということがある。転導的なものであればスケジュールを提示した方がよい。落ち着かないから走らせておけばよいということはない。	記憶の維持の困難さ 長期記憶の特性	×	
19	意味が理解できないことでも我々を覚えることは重要であるため本人が激しく抵抗しても我々をさせる必要がある。	意味がわからなければ我々にはできないので、×。抵抗しているのに我々をさせるということそのものにも問題がある。	事前準備 予防的対応	×	
20	本人がいつも決まったところで問題となる行動がみられる場合、行動を起こす前に素早く進路を塞ぐなどの対応が必要である。	またやってしまうということが繰り返されると推測されるならば、未然に防ぐことが必要である。	対応スピード 身体を使った支援	○	
21	あくまでも主役は本人なので、本人と地域の人のやり取りにヘルパーは説明や口出しをすべきではない。	ヘルパーは、地域との通訳にならなければ伝わっていかないこともある。補足説明をしたり、ヘルパーから地域の人に伝える必要もある。	啓発	×	
22	ヘルパーは利用者だけでなく地域の人たちとも日頃から関係作りをし、に 触れ障害者の社会参加の意味や障害者との関わり方についてお話しておくことも重要である。	に触れて、地域の人さんにお伝えする機会などは大切にした方がよく、よく出入りする施設・お店の方とも関係を作っておくと良き理解者になってくれる。	啓発	○	
23	ヘルパー活動中にトラブルを起してしまったらヘルパーが謝罪するのではなく本人に「ごめんなさい」と謝らせることが必要である。	本人が誤るということを理解できているか？がポイント。「ごめんなさい」をいって何でもできるなどの誤学習をしてしまうことにつながってしまう。	啓発	×	
パ ニ ック	24	行動支援で大切なのはパニックへの対応である。	パニックにさせないようにすることが大切なことである。	予防的対応	×
	25	本人が苦手なものがあり、パニックへ発展することが予想される場合、それを見えないように身体で隠したり、背中を押して遠ざけることも必要である。	身体を使って隠したり、遠ざけることでパニックを防げるのであれば、大切な手段である。	身体を使った支援	○
	26	パニックの時であっても、間違えたことをした時は目と目を合わせ厳しく分かるまですることが必要である。	しかられているそのものが理解できているか？などの視点から×	パニックへの対応 ことばの制限	×
	27	パニックになると本人はもとより周りの人にも迷惑になるので、本人の要求を受け入れる方がよい。	パニックになれば受け入れてもらえるなどの誤学習を助長してしまう恐れがある。安全が確保できないなどの場合はやむなしということもまれにある。	パニックと誤学習	×
	28	パニックは、自閉症の障害特性である。	パニックは自閉症の特性ではない。また、自閉症だからパニックになるということでもない。パニックは氷山の一角で行動のひとつである。	情報・コミュニケーションの特性	×
	29	パニックの様子を知っておくことは大切なので、初めてのヘルパーに経験させるために、パニックを起こさせその対応を学ばせることが必要である。	意図的にこのようなことはやってはいけません。	対応スピード 身体を使った支援	×
	30	パニックの時には、その場で、落ち着くように優しく語りかけるのが良い。	パニックになった要因があるのでそれを考えることが大切。落ち着いて話しかけても本人が落ち着いていなければ効果はない。様子を見守るなど、落ち着いたらそこで次の対応をする必要がある。	対応スピード 身体を使った支援	×

委員名	勤務先
坂井 賢	社会福祉法人新潟太陽福祉会新潟東自閉症・知的障害者支援センター おれんじぽーと次長
野口 幸弘	西南学院大学 人間科学部社会福祉学科 教授
加瀬 進	東京学芸大学総合教育科学系 特別支援科学講座 准教授
小笠原 恵	東京学芸大学総合教育科学系特別支援科学講座 准教授
大森 寛和	社会福祉法人つつじサポートセンター かもみーる
田邊 貴仁	社会福祉法人ゆうかりそだち支援センタースケッチ
伊藤 寿彦	NPO 法人ゆにぷろ事務局長
松田 裕次郎	滋賀県社会福祉事業団企画事業主査
戸枝 陽基	社会福祉法人むそう理事長
安井 愛美	サポートセンターぴっころ代表
福岡 寿	社会福祉法人高水福祉会 北信圏域障害者生活 支援センター
水野 敦之	NPO 法人それいゆ それいゆ成人支援センター長
出口 晋	特定非営利活動法人ゆめじろう理事長
桑原 綾子	NPO 法人コミュニケーションハンディキャップ研究会 ライフサポート ここはうす所長
藤井 亘	特定非営利活動法人クローバー理事長
山口 久美	社会福祉法人ぐんぐん 障害福祉サービス事業所ぐんぐん 所長

独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園  
 行動援護従業者養成中央研修演習プログラム検討委員会  
 〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町 2120-2  
 TEL : 027-325-1501 (代表)  
 FAX : 027-327-7628 (代表)